

# ハード編

**FMV-DESKPOWER**

**S/457**

パソコンの各部は  
こうなっている

基本的な機能を使おう

オプション機器を活用しよう!

BIOSセットアップ

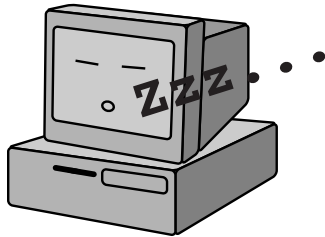
技術情報

索引



# こんなことがやりたい！

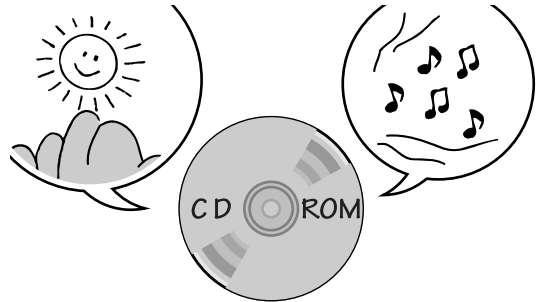
スタンバイ（省電力）機能で  
節電したい！



ちょっと休憩...そんなときはスタンバイ（省電力）機能で電力消費を抑えましょう。

➡ P.17

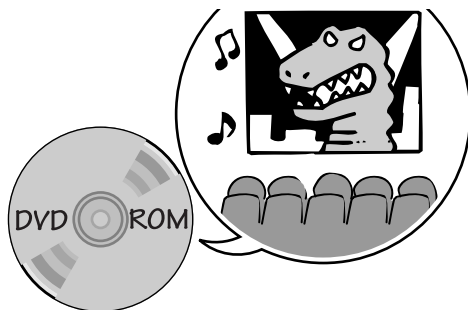
CD-ROM や音楽CD を使いたい！



パソコンでCD ROM や音楽CD の映像や音声を楽しむことができます。

➡ P.22

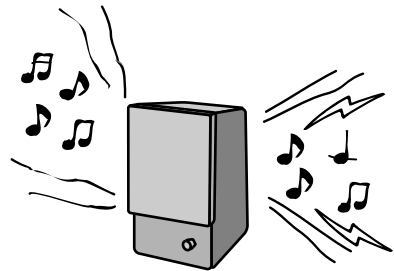
パソコンで映画を見たい！



DVD プレーヤーを使うと、パソコンで映画も楽しめます。

➡ P.25

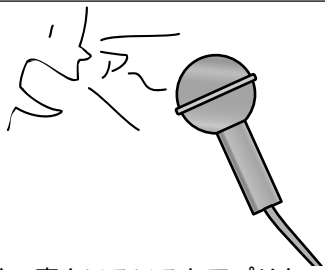
スピーカーで音声を聞きたい！



音が大きすぎる、あるいは小さくて聞こえない...そんなときはスピーカーの音量を調節しましょう。

➡ P.36

マイクを使って録音したい！

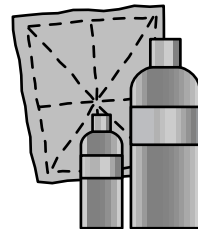


自分の声をいろいろなアプリケーションで使いたい...そんなときはマイクを使って録音し、保存しましょう。

添付のマイクをお使いください。

➡ P.41

なんだか汚れてきちゃった...  
お手入れの方法を知りたい！



パソコンを毎日使っていると、だんだん汚れてしまいますよね...まめにお手入れをしましょう。

➡ P.49

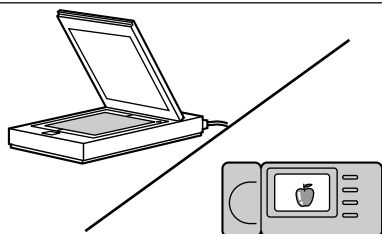
## パソコンで作ったものを印刷したい！



年賀状、カード、企画書...作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

👉P.58

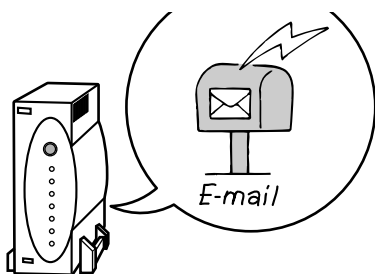
## お気に入りのイラストや 写真を取り込みたい！



お気に入りのイラストや写真を取り込んで、オリジナルの画像を作りたい...そんなときはスキャナやデジタルカメラを接続します。

👉P.62

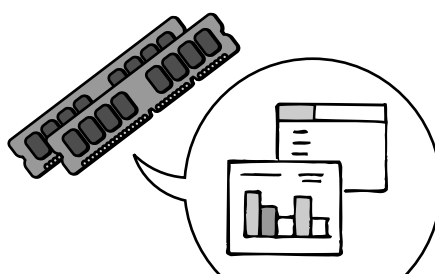
## ISDN 回線を使いたい！



ISDN回線に接続して、もっと快適にネットワークを楽しみたい...そんなときはターミナルアダプタを接続します。

👉P.64

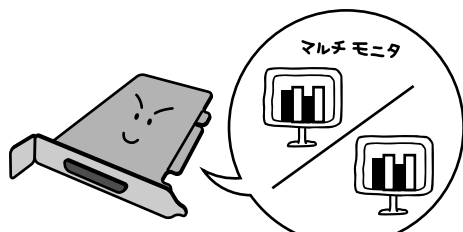
## パソコンの処理を快適にしたい！



たくさんのアプリケーションを同時に使いたい、「メモリ容量の不足」のメッセージがよく出る...そんなときはメモリを増設します。

👉P.74

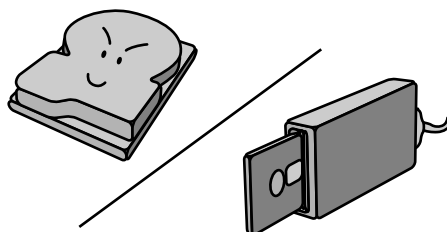
## パソコンでもっと いろいろやってみたい！



ビデオの編集をしたり、マルチモニタ機能を使ったり...拡張カードを取り付けると、さまざまなことができるようになります。

👉P.82

## もっとたくさんのデータを 保存したい！



あれもこれもとっておきたい...MOドライブやハードディスクを増設すると、大容量のデータを保存できます。



👉P.89、👉P.123

## 本書の表記について




### 安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。


本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 <b>警告</b>	 <b>注意</b>
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があります。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。


また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	Ⓞで示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が示されています。
	で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

### 画面例および入力例について

- 表記されている画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。また画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上にアミ  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

`dir c:`










この場合は、「dir」と入力したあと、（空白キー）を1回押し、続けて「c:」と入力してください。

## イラストについて

- 本来接続されているケーブル等を省略している場合があります。

## 本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 <b>重要</b>	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>アドバイス</b>	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROMを表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
 <b>用語</b>	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

## 製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system	Windows98
Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version4.0	WindowsNT4.0
Microsoft® Internet Explorer	Internet Explorer
Microsoft® Outlook™ Express	Outlook Express
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法

## 機種名の表記について

次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
FMV-DESKPOWER S/457	S/457、本パソコン

こんなことがやりたい！  
本書の表記について

**第1章 パソコンの各部はこうなっている**

1. 各部の名称と働き .....	2
パソコン本体前面 .....	2
パソコン本体背面 .....	4
パソコン本体内部 .....	6
キーボード .....	8
マウス .....	11

**第2章 基本的な機能を使おう**

1. 電源を入れる / 電源を切る .....	14
電源を入れてパソコンを使おう .....	14
今日はおしまい。電源を切るには？ .....	15
2. スタンバイ（省電力）機能を使う .....	17
スタンバイ（省電力）機能とは？ .....	17
電源の管理 .....	18
3. フロッピーディスクを使う .....	19
使えるフロッピーディスクは？ .....	19
気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき .....	20
フロッピーディスクをセットする / 取り出す .....	20
フロッピーディスクのデータを守るには .....	21
4. CD-ROM/DVD-ROMを使う .....	22
音楽CDも聞けます .....	22
気をつけてください～CDやDVDを使うとき .....	22
CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDをセットする / 取り出す .....	23
5. DVDプレーヤーを使うには .....	25
DVDプレーヤーを起動する .....	25
DVD-ROMを再生する .....	29
VIDEO CDなどを再生する .....	34
6. スピーカー / ヘッドホンを使う .....	36
気をつけてください～スピーカーを使うとき .....	36
音量を調節する .....	36
ヘッドホンを使う .....	39
7. マイクを使う .....	41
気をつけてください～マイクを使うとき .....	41
マイクで録音しよう .....	41
8. スクロールボタンを使う .....	44
スライドして使う .....	44
押して使う .....	45

9.	画面の解像度や発色数を変える .....	46
	表示できる解像度と発色数 .....	46
	解像度や発色数を変更する .....	47
10.	お手入れのしかた .....	49
	パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ .....	49
	マウスのお手入れ .....	49
	フロッピーディスクドライブのお手入れ .....	50

### 第3章 オプション機器を活用しよう！

1.	オプション機器を取り付ける前に .....	54
	取り付けられるオプション機器 .....	54
	オプション機器の接続にあたって .....	56
2.	つないで活用！！ .....	58
	文書や画面を印刷したい！～プリンタを接続する～ .....	58
	お気に入りのイラストや写真を取り込みたい！ ～スキャナ / デジタルカメラを使う～ .....	62
	ISDN 回線に接続したい！～ターミナルアダプタを接続する～ .....	64
	つないでらくらく！～USB 機器を接続する～ .....	65
3.	パワーアップするために～本体カバーを取り外す～ .....	67
	本体カバーを取り外す / 取り付ける .....	67
	マザーボードを取り外す / 取り付ける .....	70
4.	メモリを増やす .....	74
	メモリを増やすとは？ .....	74
	取り付けられるメモリ .....	75
	メモリを取り付ける .....	76
5.	拡張カードを増設する .....	82
	拡張カードとは？ .....	82
	お使いになれる拡張カード .....	83
	拡張カードを取り付ける .....	85
6.	ハードディスクを増設する .....	89
	ハードディスクを取り付けるには .....	89
	<b>コラム</b> 終端抵抗（ターミネータ） .....	92
	内蔵ハードディスクを取り付ける .....	93
	<b>コラム</b> マスター / スレーブ、ケーブルセレクトについて .....	99
	外付けハードディスクを取り付ける .....	102
	領域を設定する .....	104
	<b>コラム</b> ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て .....	111
	フォーマットする .....	112

7. 3.5 インチ / 5 インチの内蔵オプション機器を取り付ける ...	117
3.5 インチファイルベイにオプション機器を取り付ける ...	118
5 インチファイルベイにオプション機器を取り付ける .....	120
8. その他のオプション機器を使う .....	123
MO (光磁気ディスク) ドライブを使う .....	123
複数のディスプレイを使う .....	124
<b>コラム</b> プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイ .....	126

## 第 4 章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは .....	128
2. BIOS セットアップの操作のしかた .....	129
BIOS セットアップを起動する .....	129
設定を変更する .....	130
変更内容を取り消す .....	131
BIOS セットアップを終了する .....	132
3. ご購入時の設定に戻す .....	133
4. BIOS のパスワード機能を使う .....	138
パスワードの種類 .....	138
パスワードを設定する .....	139
パスワード設定後のパソコンの起動 .....	142
パスワードを変更 / 削除する .....	142
5. BIOS が表示するメッセージ一覧 .....	144
メッセージが表示されたときは .....	144
メッセージ一覧 .....	144

## 第 5 章 技術情報

1. 仕様一覧 .....	148
パソコン本体 .....	148
FAX / ボイスモデムカード .....	149
サウンド機能 .....	150
スピーカー .....	150
DVD-ROM ドライブ .....	151
コネクタのピン配列と信号名 .....	152
本体のコネクタ / ジャックで使用できるケーブル .....	156
2. 本パソコンのリソースについて .....	157
リソース一覧 .....	157
<b>コラム</b> リソース、IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスとは .....	158
リソースを解放する .....	159



3. ドライバのインストール .....	161
インストールのときに気をつけること .....	161
ディスプレイドライバをインストールする .....	162
サウンドドライバをインストールする .....	165
4. その他の注意事項 .....	170
インテル® プロセッサ シリアル ナンバ コントロール	
ユーティリティについて .....	170
IRQ (割り込み要求) が不足したときは .....	171
APM について .....	172
モデムについて .....	180
索引 .....	183

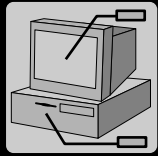


# 第 1 章

## パソコンの各部はこうなっている

パソコン本体やキーボードなどの各部の名称について説明しています。

1. 各部の名称と働き .....	2
-------------------	---



# 1

## 各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体前面、背面、内部、キーボード、マウスの各部の名称と働きを説明します。

### パソコン本体前面

#### 用語

##### USB(ユーエスピー)

Universal Serial Bus という規格の略称です。主に次のような機器を接続できます。

- ・マウス
- ・キーボード
- ・プリンタ
- ・ターミナルアダプタ
- ・スピーカー
- ・デジタルカメラ
- ・スキャナ

#### 電源ランプ

パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。また、FM便利ツールと連携してEメールを受信した際に点滅します。

#### ハードディスクアクセス表示ランプ

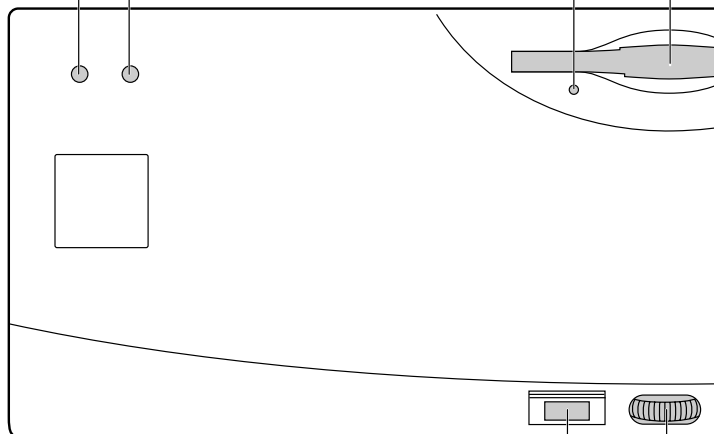
ハードディスクを読み書きしているときに点灯します。

#### フロッピーディスクドライブ(☞P.19)

フロッピーディスクをセットし、データを読み書きします。

#### フロッピーディスクアクセス表示ランプ

フロッピーディスクを読み書きしているときに点灯します。



#### USBコネクタ

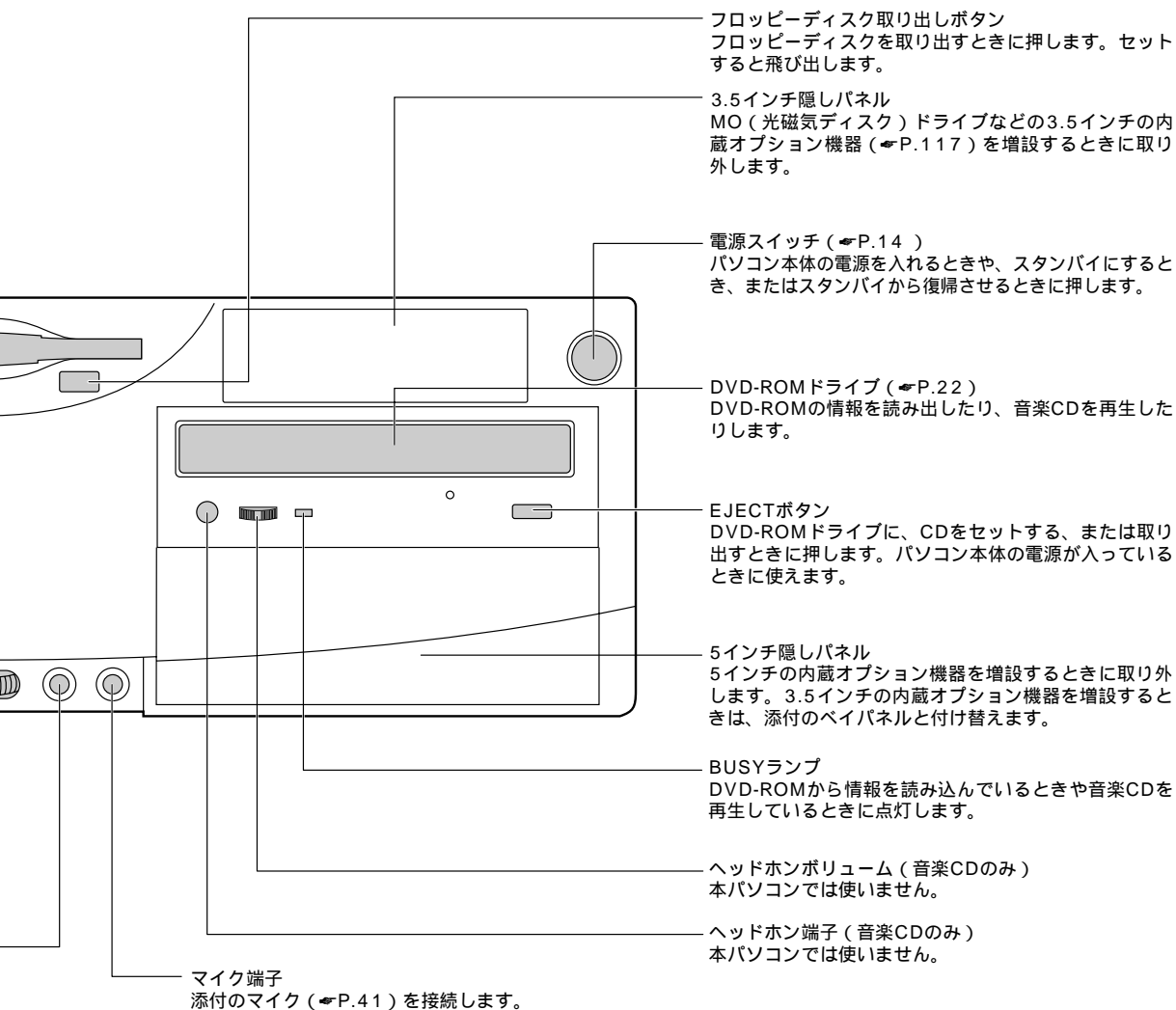
USB機器(☞P.65)を接続します。お使いにならないときは、カバーを閉じておいてください。

#### 音量ボリューム(☞P.36)

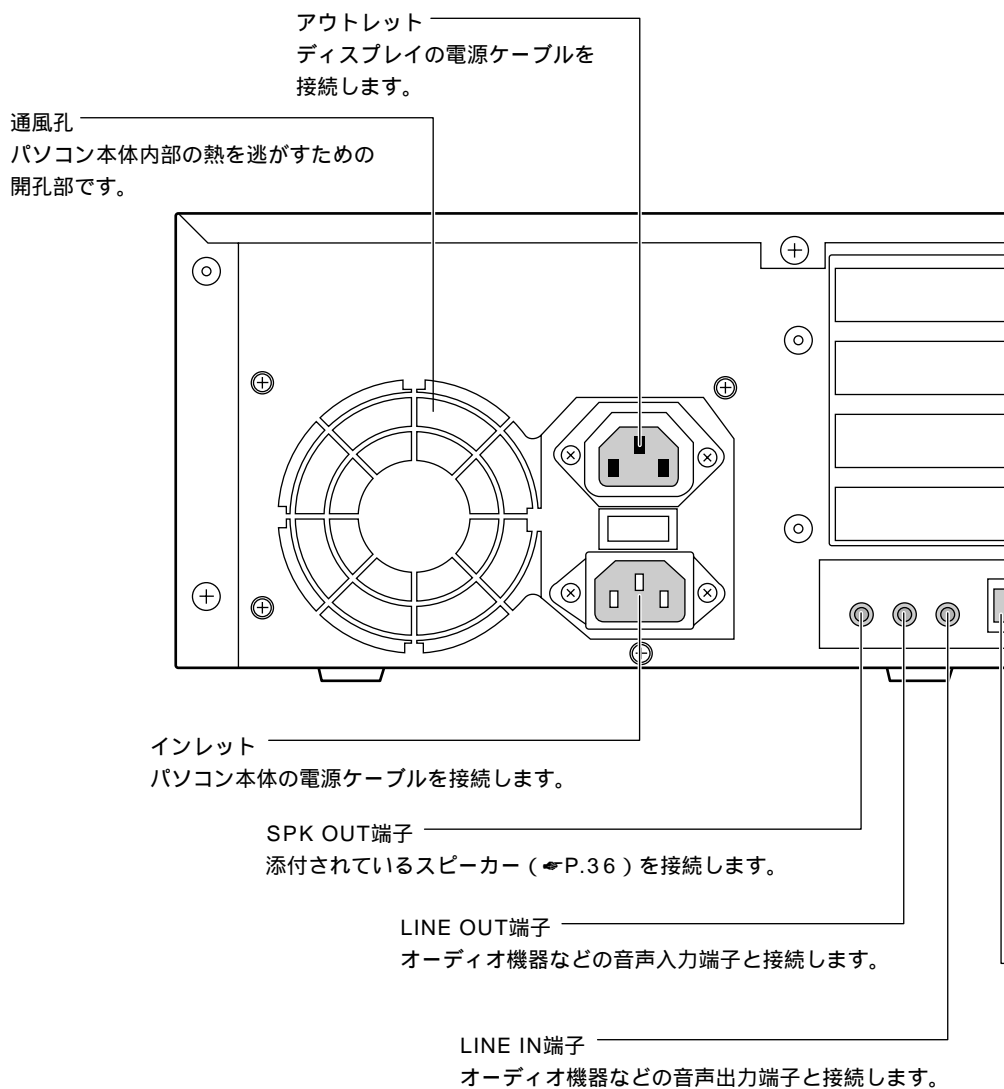
スピーカー、ヘッドホンの音量を調節します。

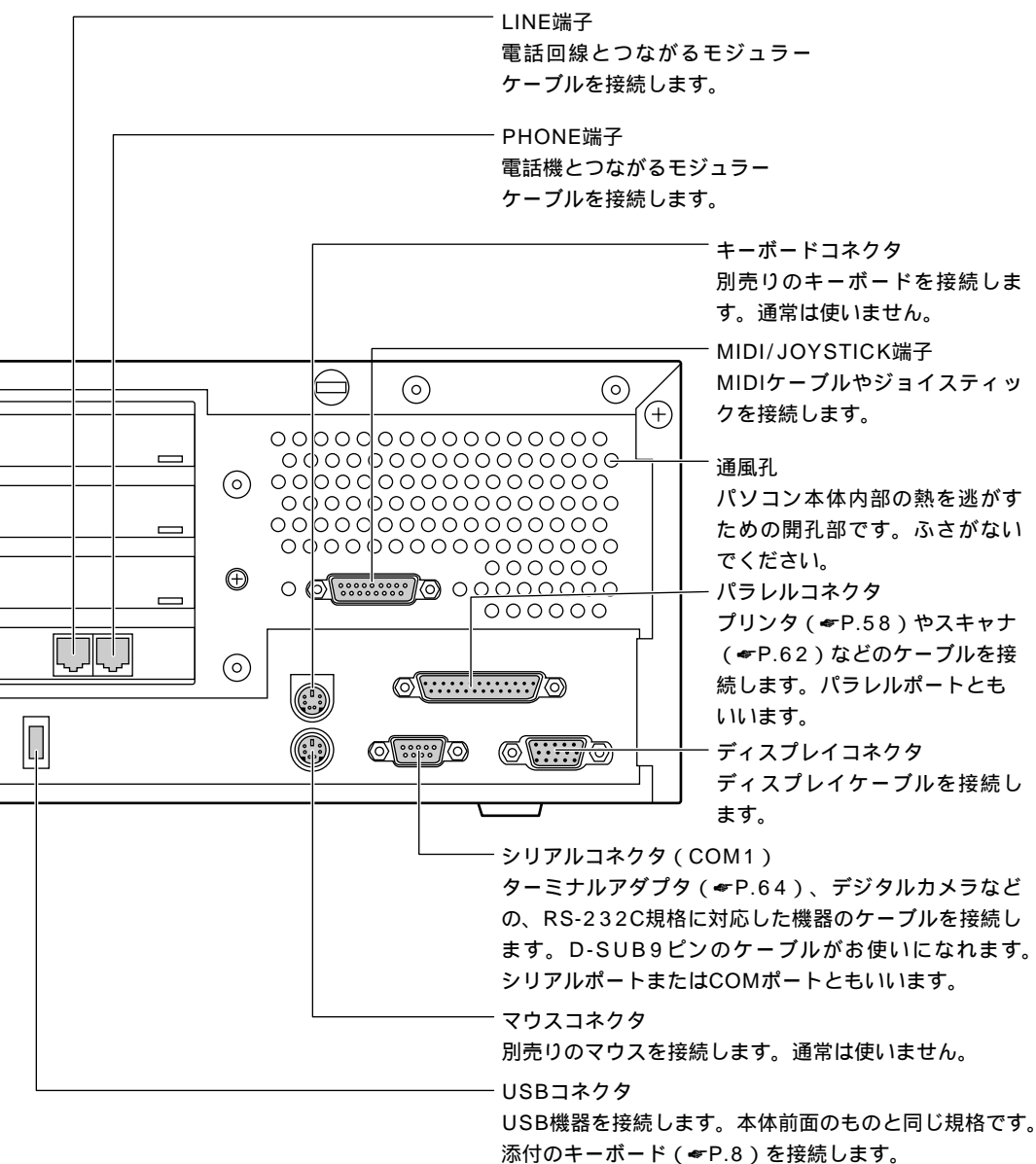
#### ヘッドホン端子

市販のヘッドホン(☞P.39)を接続します。



## パソコン本体背面





## パソコン本体内部

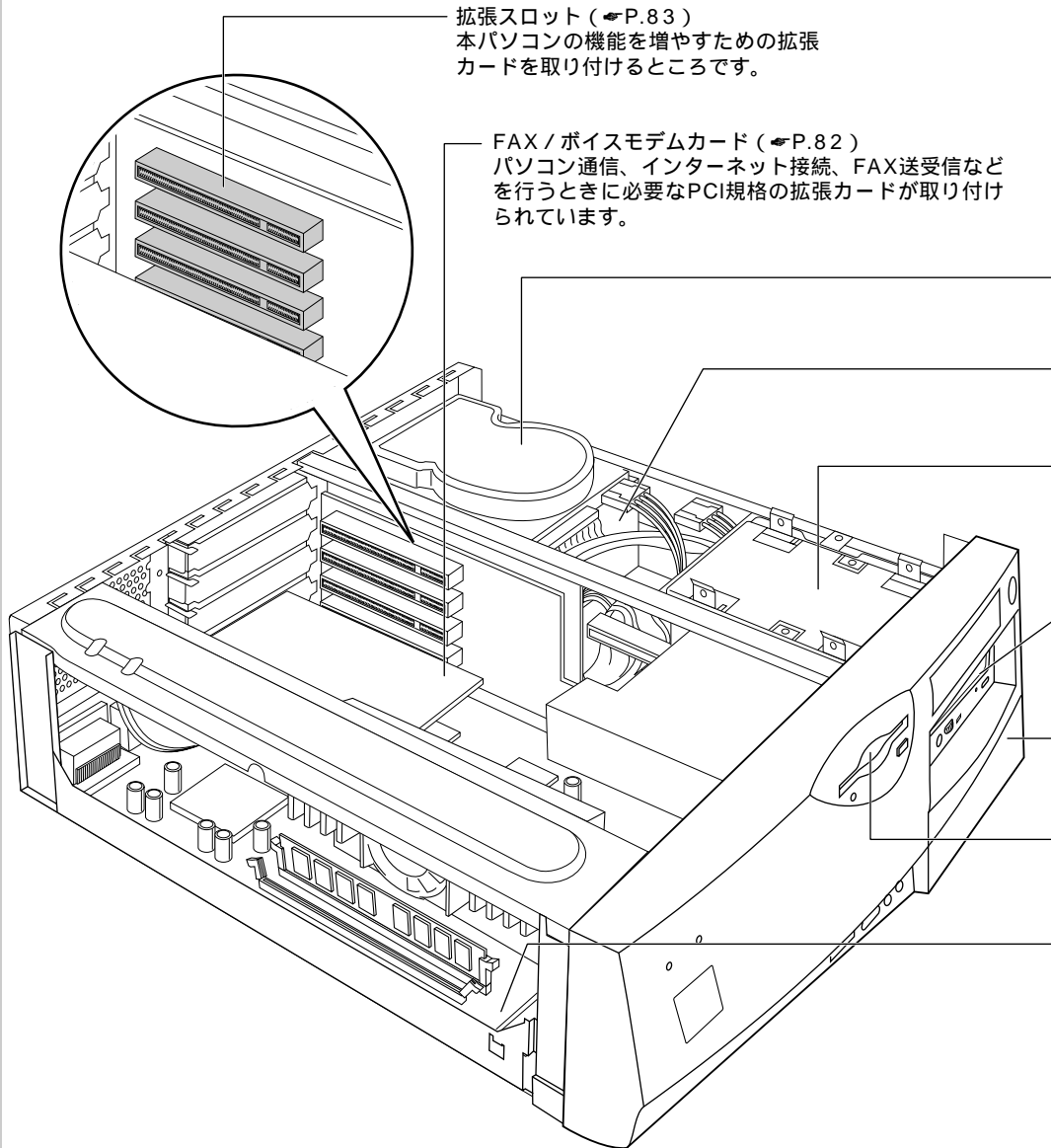
### 用語

#### IDE (アイディーイー)

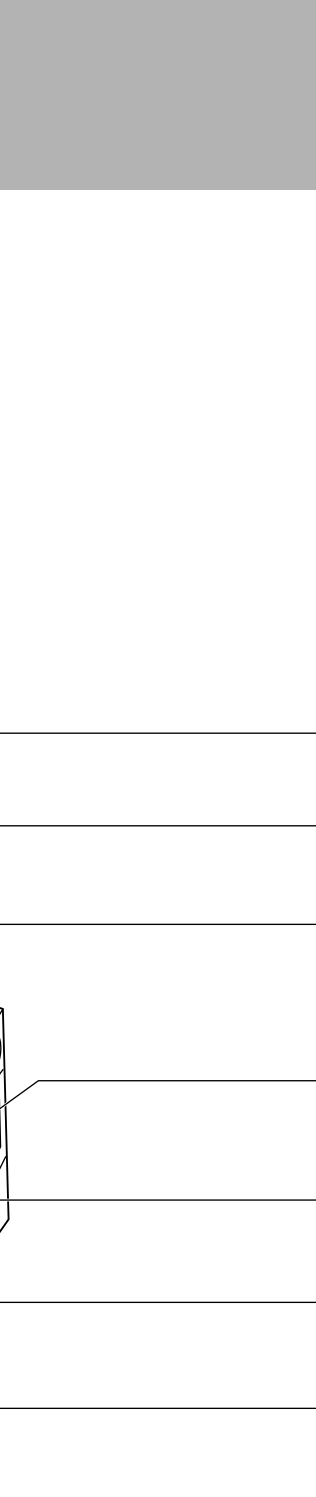
ハードディスクやCD-ROM/DVD-ROMドライブなどの内蔵ドライブを接続する規格のひとつです。本体内部にコネクタがあり、拡張カードなどを使わずに、内蔵ドライブを接続できます。

#### ATAPI (アタピー)

CD-ROM/DVD-ROMドライブなど、ハードディスク以外のドライブをIDE規格のコネクタに接続して使うための規格です。







内蔵ハードディスク

IDE規格のハードディスクが取り付けられています。

電源ユニット

内蔵ハードディスクの下にあります。

3.5インチファイルベイ

内蔵ハードディスク(☞P.93)や、内蔵オプション機器(☞P.117)を取り付けるところです。

DVD-ROMドライブ(☞P.22)

ATAPI規格のDVD-ROMドライブが取り付けられています。

5インチファイルベイ

内蔵ハードディスク(☞P.93)や、内蔵オプション機器(☞P.117)を取り付けるところです。

フロッピーディスクドライブ(☞P.19)

3.5インチ3モードフロッピーディスクドライブが取り付けられています。

メモリスロット(☞P.75)

増設するメモリを取り付けます。

本パソコンには、あらかじめ64MBのメモリが1枚取り付けられています。

## キーボード

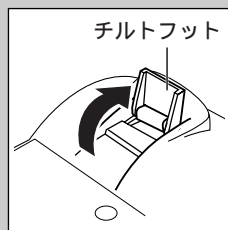
キーボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるためのものです。  
キーボードは、本体背面の USB コネクタ (P.5) に接続します。

使用するアプリケーションによって動作が異なることがあります。ここでは、キーを押したときの一般的な動作を説明しています。

### アドバイス

キーボードに角度をつけて置くには

キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけて置くことができます。使いやすさをお選びください。



他社製の USB ハブではお使いになれません

添付のキーボードは、本パソコンの USB コネクタに接続してお使いください。

#### マウスポート (裏面)

添付のマウスを接続します (P.取扱説明書)。  
添付のマウス以外は接続しないでください。

#### ワンタッチボタン (P.10)

音楽CDの操作や音量調節、Eメールソフトの起動を直接行えるボタンです。  
パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

#### F (ファンクション) キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

#### Esc (エスケープ) キー

作業を取り消すときに使います。

#### Caps Lock (キャスロック)

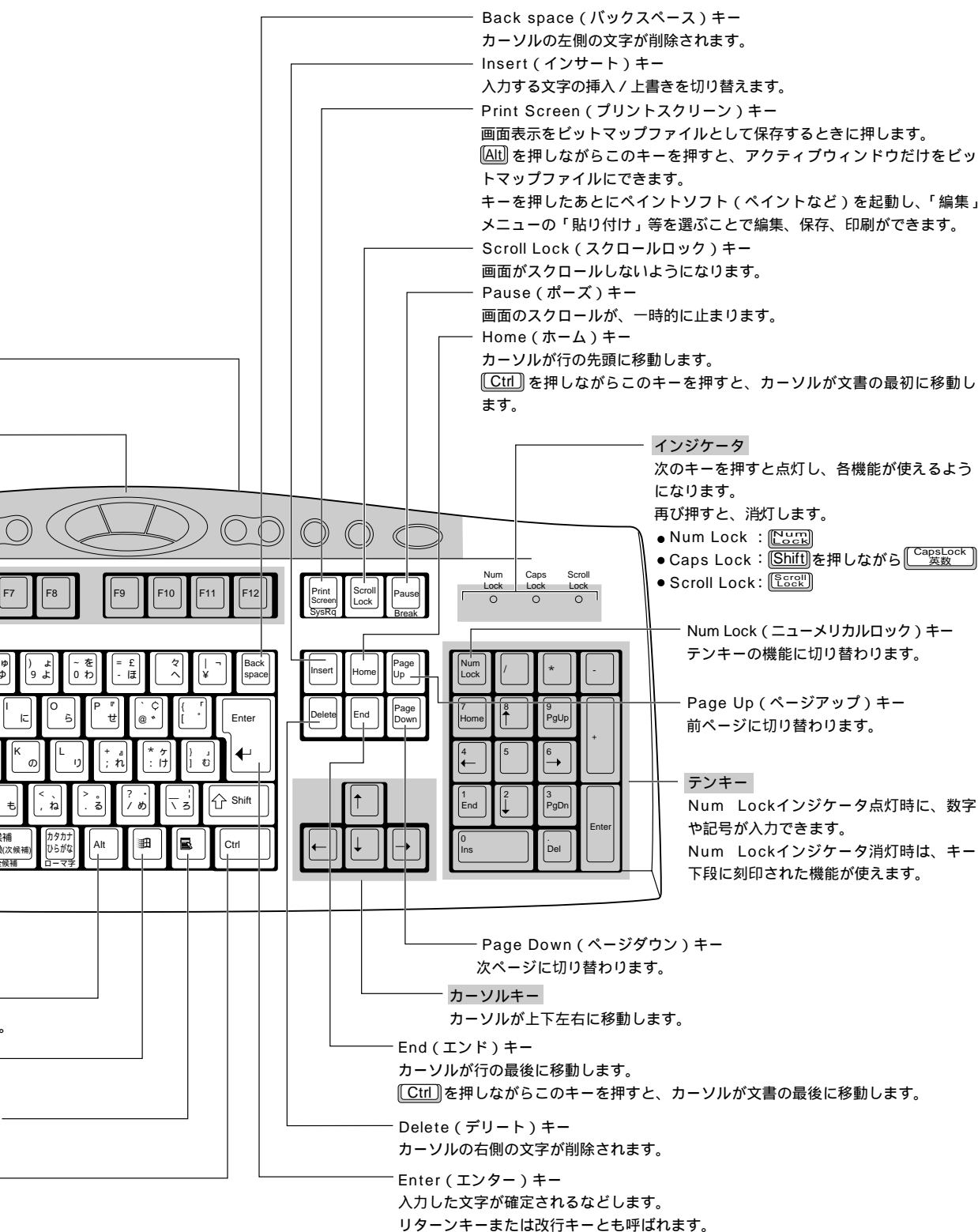
##### 英数キー

アルファベットを入力するときに、**(Shift)**を押しながらこのキーを押すと、大文字 / 小文字入力が切り替わります。

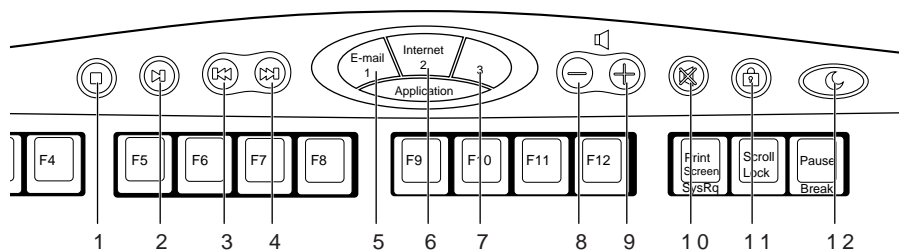
#### Shift (シフト) キー

他のキーと組み合わせて使います。  
このキーを押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。





## ワンタッチボタン



### 重要

#### CD 操作ボタンは、音楽 CD 以外では使わないでください

パソコンの動作が不安定になる場合があります。特に「停止 / 取り出しボタン」を押すと Eject 機能が働いてしまい、エラー画面が表示される場合があります。詳しくは、『トラブル解決 Q&A』の「CD-ROM を取り出したら青い画面になった」をご覧ください。

#### 1 ~ 4 CD 操作ボタン

- |                |   |
|----------------|---|
| 1 停止 / 取り出しボタン | : 音楽 CD の再生を停止します。<br>停止しているときに押すと、トレイが出てきます。                       |
| 2 再生 / 一時停止ボタン | : 音楽 CD の再生をはじめます。トレイが出ているときはトレイが戻り、再生をはじめます。<br>再生しているときは、一時停止します。 |
| 3 巻き戻しボタン      | : 音楽 CD の再生する曲順をひとつ前にします。   |
| 4 早送りボタン       | : 音楽 CD の再生する曲順をひとつ次にします。   |

#### 5 ~ 7 Application (アプリケーション) ボタン

FM 便利ツール (『FMV 総合案内』) が起動しているときに使えます。

FM 便利ツールで設定したアプリケーションが起動します。詳しくは、FM 便利ツールのヘルプ画面をご覧ください。

ご購入時は、次のように設定されています。

- |                                    |                             |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 5 Application ボタン 1 / E-mail ボタン   | : Outlook Express が起動します。   |
| 6 Application ボタン 2 / Internet ボタン | : Internet Explorer が起動します。 |
| 7 Application ボタン 3                | : インターネット無料体験が起動します。        |

#### 8 ~ 10 音量調節ボタン

スピーカーの音量を調節します。詳しくは「音量を調節する」(P.36)をご覧ください。

- |                  |  |
|------------------|--|
| 8 ボリュームボタン (-)   | : 音量が小さくなります。                                      |
| 9 ボリュームボタン (+)   | : 音量が大きくなります。                                      |
| 10 Mute (消音) ボタン | : 音が消えます。<br>もう一度押すと、元の音量に戻ります。                    |
| 11 スクリーンセーバーボタン  | : スクリーンセーバーが起動します。                                 |
| 12 スタンバイボタン      | : 本パソコンがスタンバイ状態 (P.17) になります。<br>もう一度押すと元の状態に戻ります。 |

### アドバイス


「Application」と書かれている部分は

ボタンではないので押せません。


## マウス

### アドバイス

マウスの設定を変えるには


「コントロールパネル」ウィンドウの  (マウス) で変更できます。マウスポインタの速度を変えたり、左右ボタンの役割を入れ替えることができます。

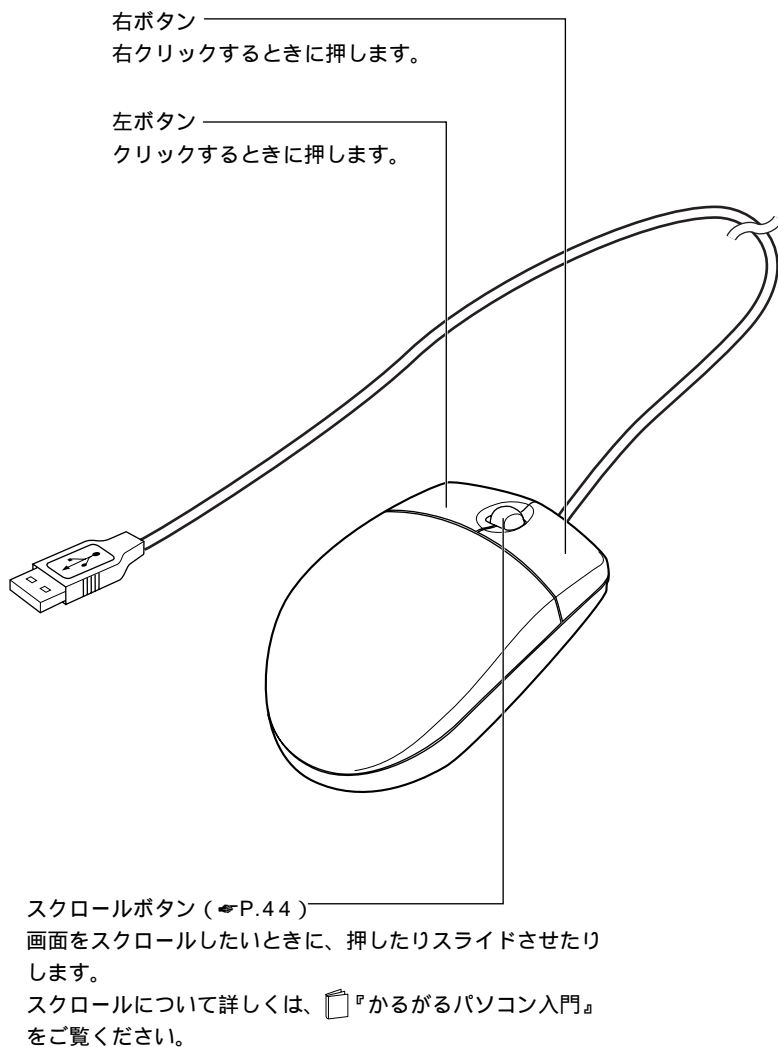
詳しくは、デスクトップにある『パソコン便利帳』の「Q & A」の「マウス」をご覧ください。

パソコン便利帳については、 『F M V 総合案内』をご覧ください。

マウスのすべりが悪くなった

マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールはクリーニングできません。詳しくは、「マウスのお手入れ」(⇨P.49)をご覧ください。

マウスは、画面の中の絵や文字を指して、パソコンに情報を伝えるための道具です。本パソコンのマウスは「USB スクロールマウス」というタイプのマウスです。キーボードのマウスポート(⇨P.8)に接続します。マウスの使いかたについて詳しくは  『わかるがるパソコン入門』をご覧ください。





## 第 2 章

# 基本的な機能を使おう

本パソコンの基本的な取り扱い方法や、お手入れのしかたについて説明しています。

1. 電源を入れる / 電源を切る .....	14
2. スタンバイ (省電力) 機能を使う .....	17
3. フロッピーディスクを使う .....	19
4. CD-ROM/DVD-ROM を使う .....	22
5. DVD プレーヤーを使うには .....	25
6. スピーカー / ヘッドホンを使う .....	36
7. マイクを使う .....	41
8. スクロールボタンを使う .....	44
9. 画面の解像度や発色数を変える .....	46
10. お手入れのしかた .....	49

# 電源を入れる / 電源を切る

ここでは、電源の入れかたと切りかたについて説明します。



注意



けが

- ・フロッピーディスクをセットおよび取り出すときは、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。
- ・CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDをセットおよび取り出すときは、DVD-ROMドライブのトレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

## 電源を入れてパソコンを使おう



重要

### 電源を入れるときの注意

電源を切ったあとに再び電源を入れるときは、10秒ほどお待ちください。

### アドバイス

先にパソコン本体の電源を入れてしまったら

接続されている機器を、Windows98が正常に認識できないことがあります。Windows98が完全に起動するのを待ち、次の手順に従って操作してください。

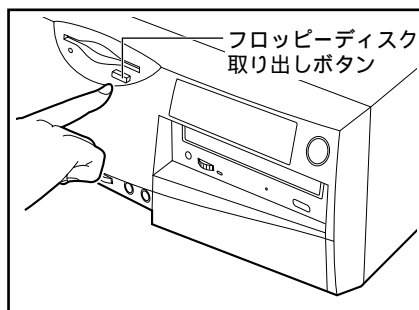
- 1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。本パソコンが再起動し、接続されている機器が認識されます。

### 1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

『取扱説明書』の記載どおりにディスプレイを接続しているときは、一度ディスプレイの電源を入れると、そのあとはパソコン本体と連動するようになります。

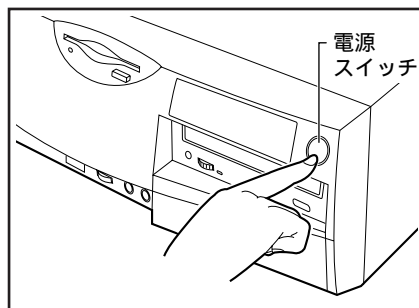
### 2 フロッピーディスクがセットされていないことを確認します。

セットされているときは、フロッピーディスクを取り出してください。←「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.20)



### 3 電源スイッチを押します。

ディスプレイとパソコン本体両方の電源ランプが点灯します。しばらくすると、Windows98の画面が表示されます。



### 4 スピーカーをお使いになるときは、右スピーカーの電源スイッチを押してスピーカーの電源を入れます。



## 電源スイッチを押してもWindows 98が起動しないときは

Windows 98が起動せず、画面の左下にメッセージが表示されたままになっているときは、「BIOSが表示するメッセージ一覧」(←P.144)をご覧ください。

## 今日はおしまい。電源を切るには？

### 重要

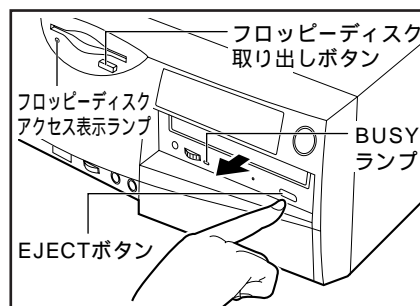
#### 電源スイッチは押さないでください

電源を切るときは、Windows 98の操作で行います。電源スイッチは、通常は使わないでください。

#### 必ずアプリケーションを終了してください

本パソコンが正常に終了できなかつたり、次に起動するときに正常に起動できなくなることがあります。

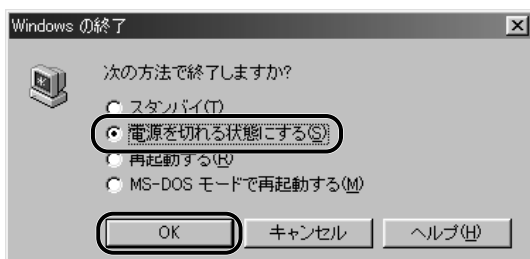
- 1** 本パソコンで行っていた作業を終了します。  
 必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2** スピーカーをお使いのときは、右スピーカーの電源スイッチを押してスピーカーの電源を切ります。
- 3** フロッピーディスクやCD-ROM/DVD-ROMがセットされていないことを確認します。セットされているときは、取り出してください。
  - ←「フロッピーディスクをセットする／取り出す」(P.20)
  - ←「CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDをセットする／取り出す」(P.23)



- 4** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。



- 5** 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。しばらくすると Windows 98 が終了し、ディスプレイとパソコン本体両方の電源ランプが消えます。



- 6** 本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。  
『取扱説明書』の記載どおりにディスプレイを接続しているときは、パソコン本体に連動して、ディスプレイの電源も切れます。ディスプレイの電源を切る必要はありません。

### Windows 98 から電源を切れないときは

使用中のアプリケーションが何らかの理由で動かなくなり、強制終了もできなくなったときは、パソコン本体の電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。このあと、パソコン本体の電源ランプが消えている（電源が切れている）ことを確認してください。

オレンジ色に点灯しているときはスタンバイ状態になっていて、電源が切れていません。再び電源スイッチを 4 秒以上押し続けて電源を切ってください。

通常は「今日はおしまい。電源を切るには？」(P.15)の手順に従って本パソコンの電源を切ってください。

### アドバイス

「フロッピーディスクが入っています。Windows の終了を中止します。」というメッセージが表示されたときは

「閉じる」をクリックし、手順 3 から操作し直してください。

### アドバイス

強制終了について

『トラブル解決Q&A』の「操作中に動かなくなった」をご覧ください。



# 2

## スタンバイ（省電力）機能を使う

ここでは、本パソコンの省電力機能について説明します。

### スタンバイ（省電力）機能とは？

本パソコンの電力消費を抑えるための機能です。この機能が働くと、パソコン本体が省電力の状態になり、画面の表示が消えて真っ暗になります。長時間作業をしないときなどは、この機能を使って節電を心がけましょう。スタンバイ状態になると、パソコン本体とディスプレイの電源ランプの点灯が、緑色からオレンジ色に変わります。

### スタンバイ（省電力）機能を働かせるには

本パソコンをスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

- ・ キーボードのスタンバイボタン（←P.10）を押す
- ・ パソコン本体の電源スイッチ（←P.14）を押す
- ・ 一定時間操作しなかったときに、自動的にスタンバイ機能が働くように設定する  
←「電源の管理」（P.18）
- ・ 「Windows の終了」ウィンドウで、「スタンバイ」に設定する  
←「今日はおしまい。電源を切るには？」（P.15）の手順5で「スタンバイ」を選びます。

### 重要

#### 次のときは、スタンバイ状態にしないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

- ・ Windows98 の起動中  
パソコン本体の電源を入れてから画面が完全に表示されるまで
- ・ ハードディスクアクセス表示ランプやBUSYランプの点灯中
- ・ 動画や音楽の再生中
- ・ 通信中
- ・ ネットワーク接続中（LANカード増設時）

#### 連続してスタンバイボタンや電源スイッチを押さないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

### スタンバイ状態から元の状態に戻すには

本パソコンをスタンバイ状態から元の状態に戻すには、次の方法があります。

- ・ もう一度キーボードのスタンバイボタンを押す
- ・ もう一度パソコン本体の電源スイッチを押す
- ・ キーボードの□□□□や **[Shift]** を押す
- ・ マウスを動かす

しばらく（5～10秒）すると、パソコン本体とディスプレイの電源ランプが緑色に点灯し、再び画面が表示されます。

### アドバイス

元の状態に戻したときは

画面が表示されても、ハードディスクアクセス表示ランプが完全に消えるまでは操作を行わないでください。

## 電源の管理

Windows 98では、一定時間操作しなかったときにスタンバイ機能が働くように設定したり、その他の簡単な省電力機能が設定できます。

**1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

**2**  (電源の管理) をクリックします。

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

**3** 設定を変更します。

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウでは、次のように設定されています。

< 電源設定タブ >

自動的にスタンバイ機能が働くまでの時間を設定します。



< 詳細タブ >

パソコン本体の電源スイッチを押すと、スタンバイ状態になります。

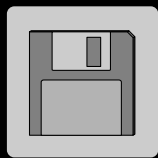
キーボードのスタンバイボタンを押すと、スタンバイ状態になります。



### アドバイス

シャットダウンに設定すると

設定したボタンを押すと、本パソコンの電源が切れます。



# 3

## フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクドライブは、フロッピーディスクにデータを保存したり、フロッピーディスクからデータを読み出したりするための装置です。

ここでは、本パソコンのフロッピーディスクドライブでお使いになれるフロッピーディスク、フロッピーディスクのセットのしかたや取り出ししかたなどについて説明します。

### 使えるフロッピーディスクは？

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、次のような種類、記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる、3モードドライブです。

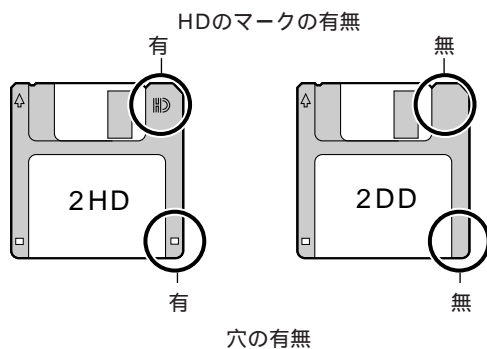
#### 2HD

1.44MB、1.2MBの記憶容量のものです。

#### 2DD

2HD(1.44MB)の半分の、720KBの記憶容量のものです。

上記の2種類のフロッピーディスクの外見は、下図のような違いがあります。



なお、本パソコンでは1.2MBにフォーマットすることは出来ません。フロッピーディスクのフォーマット方法については、『わかるパソコン入門』をご覧ください。

### 用語

#### MB(メガバイト)

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさをあらわす単位のことです。M(メガ)は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。

パソコンで使われる単位には、他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

### アドバイス

データを読み出せないことがあります

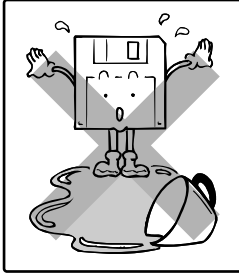
フロッピーディスクをフォーマットした環境(メーカー、機種、ソフトウェア)が違くと、データを読み出せないなど、正しくお使いになれないことがあります。

フロッピーディスクをご購入のときは

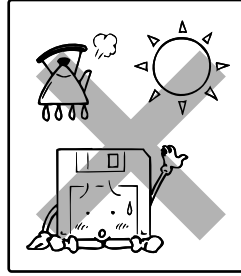
「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものをご購入ください。

## 気をつけてください~フロッピーディスクを使うとき

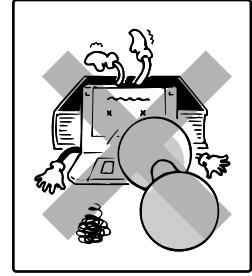
データの読み書きができなくなることがあります。フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。



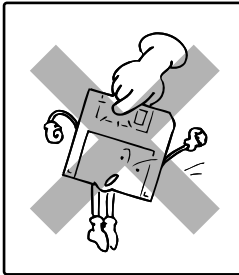
コーヒーなどの液体をかけないでください。



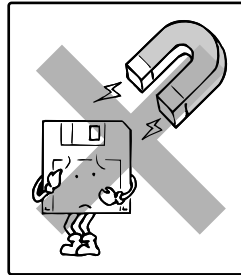
湿度の高い場所や直射日光の当たる場所には置かないでください。



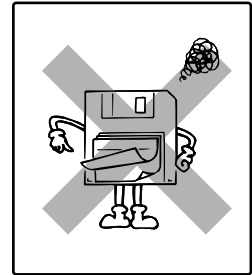
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッタを開いて、中のディスク面に絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。ドライブから取り出せなくなる原因となります。

## フロッピーディスクをセットする / 取り出す

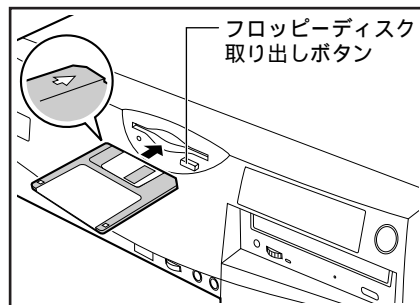


が フロッピーディスクをセットまたは取り出すときは、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないで下さい。けがの原因となることがあります。

## セットする

- 1** 矢印のある面を上にして、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで差し込んでください。



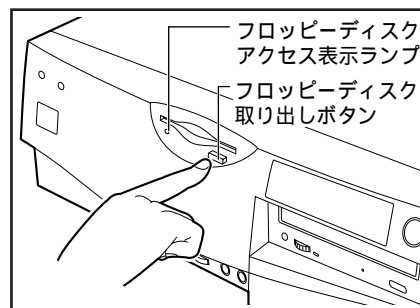
## 取り出す

**重要**

データが壊れる恐れがあります

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。

- 1** フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。  
フロッピーディスクが出てきます。

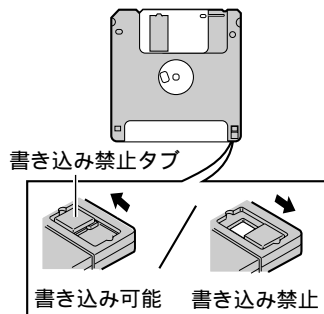


## フロッピーディスクのデータを守るには

フロッピーディスクに保存してある情報を誤って消さないようにするには、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態(書き込み禁止の状態)にします。

再び情報を書きこみたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。

また、前ページの「気をつけてください~フロッピーディスクを使うとき」の注意事項を守ってお使いください。





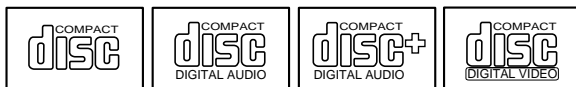
# 4

## CD-ROM/DVD-ROM を使う

DVD-ROM ドライブでは、CD-ROM/DVD-ROM の映像や音声、音楽 CDなどを再生できます。また、パソコンのプログラムやデータの読み込みができます。ここでは、DVD-ROM ドライブでお使いになれるディスクや、DVD-ROMドライブの使いかたを説明します。

### 音楽 CD も聞けます

本パソコンでは、下図のマークがついた CD-ROM、音楽 CD (12cm、8cm) がお使いになれます。



また、DVD-ROM や DVD-VIDEO もお使いになれます。

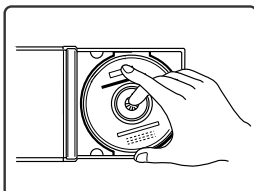
### 気をつけてください~ CD や DVD を使うとき

CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

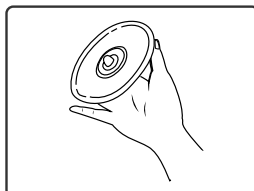
#### アドバイス

CD-ROM クリーニングディスクは使わないでください

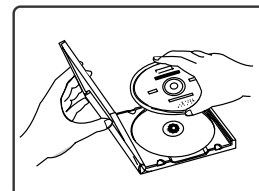
CD-ROM クリーニングディスクをお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、DVD-ROMドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。



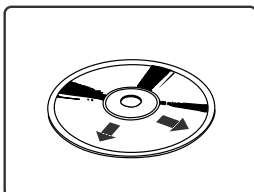
ケースからCD-ROMやDVD-ROM、音楽CDを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



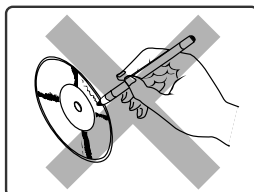
データ面(裏面または両面)に触れないように、CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDのふちを持つようにしてください。



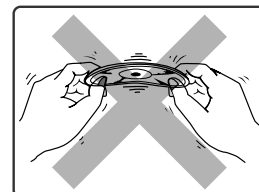
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



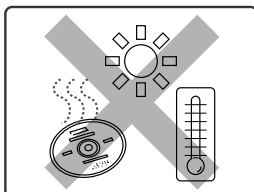
汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで無理に乾燥させないでください。



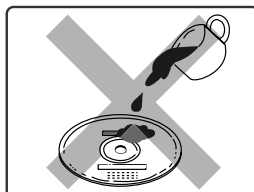
ラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



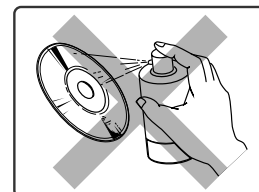
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



高温・低温の場所に保管しないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。



## CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDをセットする / 取り出す

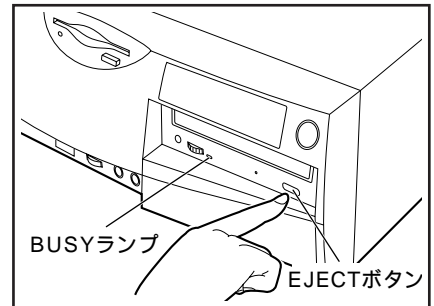
CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDは、パソコンの電源が入っている状態のときにセットや取り出しができます。



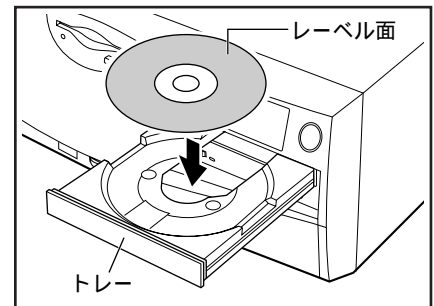
け が CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDをセットまたは取り出すときは、DVD-ROMドライブのトレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

### セットする

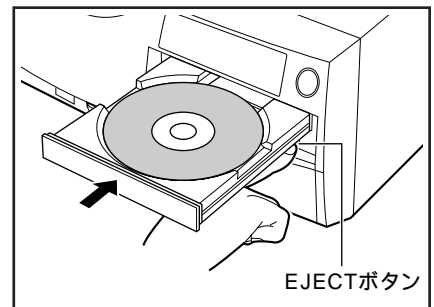
- 1 EJECT ボタンを押します。**  
CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDをセットするトレーが出てきます。



- 2 CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDのレーベル面（印刷面）を上にして、トレーの中央に置きます。**  
トレーにしっかり収まるように置いてください。



- 3 EJECT ボタンを押します。**  
トレーが戻ります。CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDがセットされ、BUSYランプが点灯します。BUSYランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。



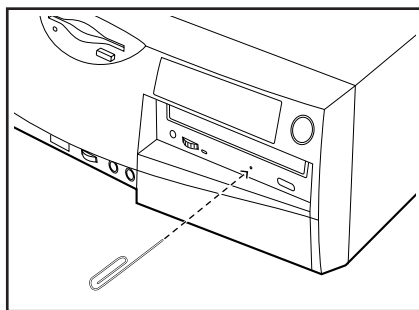
## 取り出す

- 1** CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDを使っているアプリケーションがあれば、終了します。
- 2** BUSYランプが消えていることを確認し、EJECTボタンを押します。  
CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDがセットされたトレーが出てきます。
- 3** CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDを取り出します。
- 4** EJECTボタンを押します。  
トレーが戻ります。

## CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDが取り出せないときは

曲がりにくい針金(大きなクリップをのばしたものなど)をご用意のうえ、次の手順でCD-ROMやDVD-ROM、音楽CDを取り出してください。

- 1** パソコン本体の電源を切ります。
- 2** 用意した針金を、EJECTボタン左横にある穴に差し込みます。  
まっすぐに、少し力をこめて差し込んでください。トレーが少し飛び出します。



- 3** トレーを手前に引き出して、CD-ROMやDVD-ROM、音楽CDを取り出します。
- 4** トレーを手で押し戻します。  
止まるまで押し戻してください。



# 5

## DVD プレーヤーを使うには

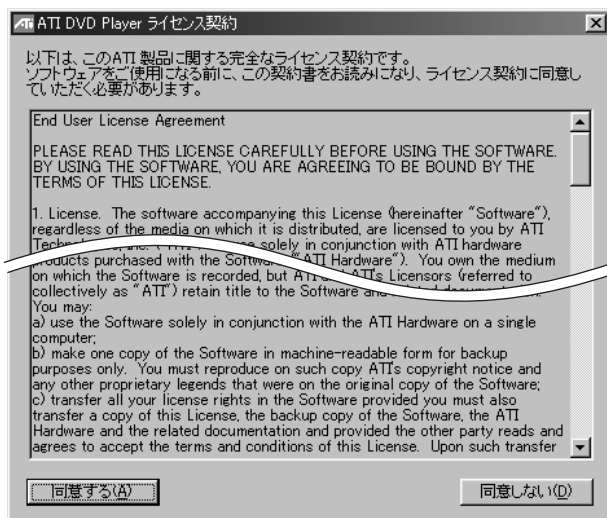
DVDプレーヤーをお使いになると、本パソコンで映画を楽しむことができます。ここでは、DVDプレーヤーを起動し、DVD-VIDEOを再生する方法を説明していません。

### DVD プレーヤーを起動する

DVDプレーヤーをお使いになるときは、次の手順に従ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」→「ATIマルチメディア」の順にマウスポインタを合わせ、「ATI DVD プレーヤー」をクリックします。

「ATI DVD Player ライセンス契約」ウィンドウが表示されます。



このウィンドウが表示されるのは、最初に起動したときのみです。一度同意している場合はこのウィンドウは表示されません。手順 3 に進んでください。

「ATI DVD Player ライセンス契約」ウィンドウは英語で表示されます。日本語化された内容については「アドバイス」(←P.27)をご覧ください。

## 2 同意する場合は「同意する」を、同意しない場合は「同意しない」をクリックします。

「同意しない」をクリックした場合は、DVDプレーヤーをお使いになれません。

「ATI DVD Playerのパフォーマンスについて」ウィンドウが表示されます。

### アドバイス

このウィンドウを表示させないようにするには

「次回からこの警告を表示しない」のをクリックしてにしてから「OK」をクリックします。次に起動したときからこのウィンドウが表示されなくなります。



## 3 「OK」をクリックします。

DVDプレーヤーが起動します。



この画面は、DVD-VIDEOをセットしないでDVDプレーヤーを起動したときの状態です。

 **アドバイス**

**ライセンス契約について**

「ATI DVD Player ライセンス契約」の日本語化された内容については以下の通りです。

ATI DVD プレーヤー をご使用になる前に

以下は、このATI DVD プレーヤーに関するライセンス契約です。本ソフトウェアをご使用になる前に、この契約書をお読みになり、ライセンス契約に同意していただく必要があります。なお、本内容は、ATI DVD プレーヤーをインストールする際に表示されるライセンス(英語)を日本語化したものです。

英語の原文と日本語の翻訳とで解釈の違いが発生した場合には、英語の原文の解釈を優先します。

1999年5月

富士通株式会社

**ライセンス契約書**

本ソフトウェアを使用される前にこのライセンス契約書を注意してお読みください。

ソフトウェアをインストールまたは使用することによって、お客様は本契約書の条項に拘束されることに承諾されたものとします。

1. **ライセンス。** 本ライセンスに伴うソフトウェア（以下「ソフトウェア」といいます）は、提供されるメディアに関係なく、ソフトウェアとともに購入されたATIハードウェア製品（「ATIハードウェア」）と同時に単独で使用するためにATI Technologies, Inc.（「ATI」）によりお客様にライセンスされています。お客様はソフトウェアが記録されている媒体を所有しますが、ATIおよびATIの認可者（「ATI」にまともます）はソフトウェアおよび関連文書の所有権を保持します。お客様は以下のことを行うことができます：

- a) 一台のコンピュータ上でATIハードウェアと関連するソフトウェアを単独で 사용할 ことができます；
- b) バックアップ目的のために機械で読み取り可能な形でソフトウェアのコピーを一部作成することができます。そのコピーには、オリジナルのソフトウェア上にあったATIの著作権情報およびその他の所有権情報を必ず明記しなければなりません；
- c) ソフトウェアに含まれるすべてのライセンスを譲渡することができます。ただしこの場合、このライセンス契約書、ソフトウェアのバックアップ コピー、ATIハードウェアおよび関連文書も含めてすべてを譲渡し、譲受人が本ライセンスの条項に同意しなければなりません。譲渡を行った場合、お客様のライセンスは解除されます。

2. **制限。** ソフトウェアには著作権および特許が取得されている項目、営業機密およびその他の所有権情報が含まれています。これらを保護するため、法律で許可されている場合を除き、お客様は次のことを行うことはできません：

- a) 逆コンパイル、リバースエンジニアリング、逆アSEMBルまたは人間が判読可能な形でソフトウェアを変更すること；
- b) ソフトウェアに基づいて派生する作業の全体または一部の修正、ネットワーク利用、貸借、貸与、配布あるいは作成；または
- c) ソフトウェアをコンピュータから別のコンピュータまたはネットワーク上に電子的に転送すること、または本ライセンスで許可されている場合を除き、ソフトウェアの譲渡。

3. **解除。** 本ライセンスは解除されるまで有効です。お客様は本ソフトウェア、関連文書および全ての複製物を破棄することで、いつでも本ライセンスを解除することができます。本ライセンスは、お客様が本ライセンスのいずれかの条項に違反した場合、ATIから通知することなく直ちに解除されます。そのような場合、お客様は本ソフトウェア、関連文書および全ての複製物を破棄しなければなりません。

4. 政府エンドユーザ。お客様がアメリカ政府機関のためにソフトウェアを取得された場合、次の条件が適用されます。政府は、ソフトウェアおよび文書が民間の費用により開発され、「非公開の権利」付きで提供されていることに同意します。政府による使用、複製または開示は、DFARS 227.7202-1(a), 227.7202-3(a) (1995), 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct 1998), FAR 12.212(a)(1995), FAR 52.227-19 (June 1987) or FAR 52.227-14(ALT III) (Juen 1987), 次から次へと改正される、これらト規定の制限を受けます。本ライセンス、またはその一部が「非公開の権利」規定にある最低限の権利と矛盾する場合、最低限の権利が優先されます。

5. その他のライセンス。本ライセンスで明確に述べられているものを除き、明確にまたは暗示されているに関わらず、いかなる所有権情報、ATIにより所有または管理されている特許、著作権、営業機密またはその他の知的所有権も、本ライセンスのもとで、ATIからいっさい権利およびライセンスを与えられていません。

6. 追加されたライセンス。オペレーティングシステムと一緒に本ソフトウェアの配給及び使用に関しては、そのオペレーティングシステムのベンダーから提供される追加のライセンスを必要とします。

7. ソフトウェアの保証の放棄。お客様は、ソフトウェアをお客様の責任において使用することを理解および同意されているものとします。ソフトウェアおよび関連文書は「現状のまま」で提供され、どのような種類の保証も行われません。ATIは、特定の目的のための市場性および適合性の暗黙の保証を含め、明確にまたは暗示されているかに関係なく、すべての保証を放棄します。ATIは、ソフトウェアに含まれている機能がお客様の要求に一致していること、またはソフトウェアの操作が中断されないことおよびエラーがないこと、ソフトウェアの欠点が修正されることは保証していません。ソフトウェアの結果および性能に関する全ての危険性はお客様により責任を負われるものとします。さらに、ATIはソフトウェアの使用または使用した結果、あるいは関連文書中の用語が正確で、信頼できるという保証はしておらず、そういった資料も作成しません。ATIまたはATIの認定者による口頭または書面による情報または助言が保証または保証の範囲を広げることはありません。ソフトウェアが不完全な場合、(ATIまたはATIの認定者ではなく)お客様がすべての必要なサービス、修理または修正にかかる費用を負担されるものとします。また、本ソフトウェアは、医学的に生命を救ったり、維持するアプリケーションではありません。地域によっては、暗黙の保証の除外を許可していないため、上記の除外はお客様には該当しない場合があります。

8. 責任の制限。不注意によるものも含め、ATI、またはその管理者、役員、従業員または代理人は、ATIの特許、商標、著作権または知的所有権を侵害したことにより発生した場合を含め、ATIまたはATIの認定者が指示した結果により損害が発生した場合であっても、お客様に対して、ソフトウェアまたは関連文書の使用、誤用、想定外の使用により発生した付带的、間接的、特別または重大な損害(営業利益の損失、営業の中断、営業情報の損失などを含み)の責任を負いません。地域によっては、付带的あるいは間接的な損害の制限または除外を許可していないため、上記の制限はお客様には該当しない場合があります。ATIは、1)お客様の記録またはデータの損失、または欠損、2)第三者からの要求に基づきお客様から訴えられた損害、には責任を負いません。お客様の損害、損失、および訴訟費用に対するATIの補償(契約によるもの、不正行為(不注意を含みます)、その他)はお客様がソフトウェアに対して支払われた金額を超えないものとします。

9. 法律および可分の制御。本ライセンスは、法律の重複に関係なく、カナダ オンタリオ州の法律の下で管理され解釈されるものとします。外国の法律、規則とカナダの法律、規則が重複する場合は、カナダの法律、規則が適用されるものとします。商品の国際販売のための契約上の国連協定は、本ライセンスには適用されません。何らかの理由により、本ライセンスまたは一部の条項が強制できないと裁判所が判断した場合、本ライセンスの条項は最大限許容可能な範囲で適用され、本ライセンスのその他の条項の効力はフルに継続されます。

10. 契約の完了。本ライセンスは、ソフトウェアと関連文書の使用に関して、当事者間の全体の合意を成し、これらの内容に関して書面または口頭で行われたすべての契約の代わりとなるものです。本ライセンスへの修正は、ATIが法的に認可した代表により記述および署名された場合を除き、いっさい効力を持ちません。

## DVD-ROM を再生する

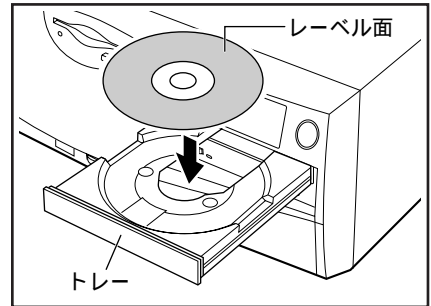


**重要**

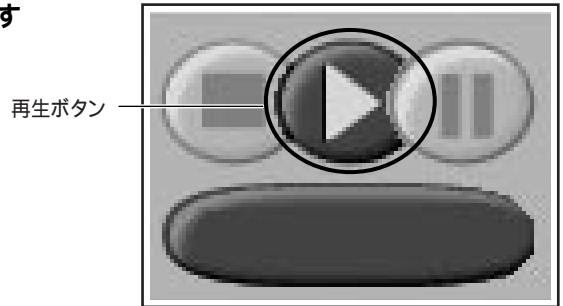
### DVD-ROM を再生するときは

『取扱説明書』に記載されているとおりに接続したディスプレイで再生してください。  
増設したグラフィックスカードに接続したディスプレイでは再生できません。

- 1 DVD-ROM ドライブにDVD-VIDEO をセットします。



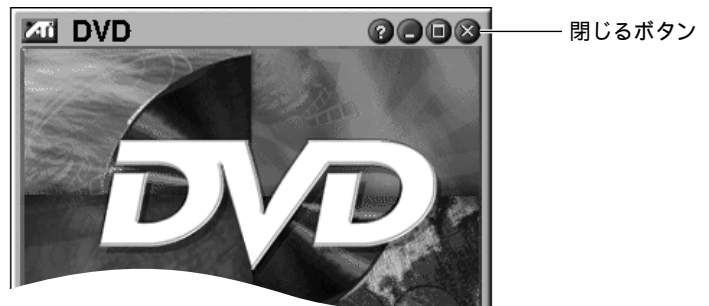
- 2 再生ボタンを押します



再生が始まります

### DVD-ROM を終了するとき

DVD-ROM を終了するとき、画面右上の閉じるボタンを押し、DVD-ROM を取り出します。



2

基本的な機能を使う（DVDプレーヤーを使うには）

### アドバイス

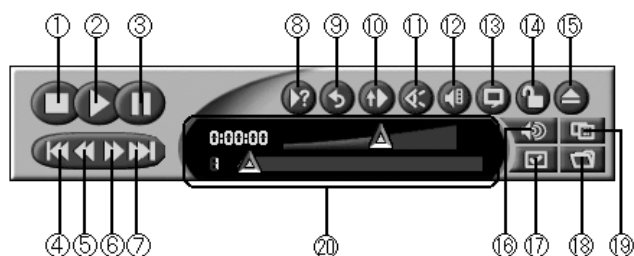
順番は逆になっても問題ありません

DVDプレーヤーの起動と、DVDディスクをセットする順番が逆になっても、特に問題はありません。

自動で再生するディスクもあります

DVDプレーヤーが起動していない状態で、DVD-VIDEOディスクをセットした場合、使用するディスクによっては自動でDVDプレーヤーが起動し、再生を開始するものもあります。

## 操作パネルの各部の名称と働き



- |              |                                     |
|--------------|-------------------------------------|
| 停止ボタン        | : 再生を停止します。                         |
| 再生ボタン        | : 再生を開始します。                         |
| 一時停止ボタン      | : 再生を一時的に停止します。通常の再生に戻すには再生ボタンを押します |
| 後ろスキップボタン    | : ひとつ前のチャプターまたはファイルの先頭にとびます。        |
| 早戻しボタン       | : 早戻しをします。                          |
| 早送りボタン       | : 早送りをします。                          |
| 前スキップボタン     | : ひとつ先のチャプターまたはファイルの先頭にとびます。        |
| 指定部分を再生ボタン   | : 指定したタイトル・チャプターまたは時間から再生します。       |
| 再起動ボタン       | : 現在のタイトルまたはチャプターから再生をなおします。        |
| 上へ移動ボタン      | : ひとつ上の階層に移動します。                    |
| アングル切り替えボタン  | : 再生するアングルを選択します。                   |
| オーディオ切り替えボタン | : 再生する音声を選択します。                     |
| 字幕切り替えボタン    | : 表示する字幕を選択します。                     |
| 保護者コントロールボタン | : 視聴制限の設定ができます。                     |
| イジェクトボタン     | : DVD-ROM ドライブをイジェクトします。            |
| ミュートボタン      | : 音声をミュート（消音）します。                   |
| セットアップボタン    | : DVD プレーヤーの様々な設定をします。              |
| ファイル選択ボタン    | : ファイルを指定して再生するとき 사용합니다。            |
| メニューボタン      | : DVDのタイトル画面等に戻るとき 사용합니다。           |
| 情報表示部        | : 再生時間、ボリューム音量などが表示されています。          |



## 詳細を設定する

セットアップボタンを押して、DVDプレーヤーの詳細を設定することができます。

### 表示タブ



**ディスプレイサイズ**：再生するウィンドウの大きさを指定します。

- ・ 50% : 100%に対してウィンドウの幅と高さがそれぞれ50%の大きさで表示されます。
- ・ 75% : 100%に対してウィンドウの幅と高さがそれぞれ75%の大きさで表示されます。
- ・ 100% : 記録されている大きさの画面で再生します。
- ・ フルスクリーン : 全画面で表示します。

**レイアウトの詳細設定**：再生するウィンドウの種類を指定します。

- ・ ワイド画面 : 再生するウィンドウの幅と高さの比を16:9の大きさで表示します。
- ・ レターボックス : 16:9の映像を4:3のウィンドウの中で表示します。映像の上下は黒く表示されます。
- ・ 4:3 : ウィンドウの幅と高さの比率が通常のテレビと同じ比率で表示されます。

**画質コントロール**：

- ・ 輝度 : 再生するウィンドウ内の明るさを変更します。左から右に行くにつれて明るくなります。DVDプレーヤーを起動した時は初期値になります。

#### オプション：

- ・アスペクト比を保持 : ウィンドウの大きさを変更したときに縦と横の比率を一定に保ちます。
- ・常に手前に表示 : 他のウィンドウよりも手前に表示されます。
- ・フルスクリーンで自動的に非表示 : 再生ウィンドウをフルスクリーンしたとき、5秒以上操作がない場合、コントロールを自動的に非表示にします。マウスを動かすと、コントロールが再表示されます。

#### ツールのヒント：

- ・ツールのヒントを表示 : マウスカーソルを操作パネルの各ボタンにあわせた際に、ボタンの説明が表示されます。
- ・ショートカットを表示 : マウスカーソルを操作パネルの各ボタンにあわせた際に、キーボードで操作する時の操作方法が表示されます。

### 詳細設定タブ



優先言語：DVD再生時に優先されて再生される言語を選択します。

選択1で指定された音声と字幕を再生します。

選択1で指定された言語が使用できない場合は、選択2で指定された言語が再生されます。

選択1、選択2が使用できないとき及び、「オフ」を指定した場合は、最初に利用可能な音声と字幕を再生します。

サブタイトルを常に有効にする：字幕を常に表示します。

ミュート時にサブタイトルを表示する：ミュートボタンを押してオーディオをミュートした時に、字幕を表示します。

## その他の機能

### アングルを切り替える

お使いになるDVD-ROMによっては、再生するアングルを変えることができます。

#### 1 アングル切り替えボタンをクリックします。

現在再生されているアングルと、選択可能なアングルが表示されます。チェックマークがついているところが、現在再生されているアングルです。



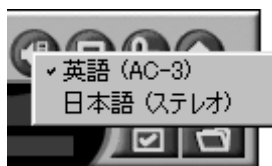
#### 2 選択したいアングルをクリックします。

再生するアングルが切り替わります。アングルを選択してから切り替わるまでに多少時間がかかります。

### 音声を切り替える

#### 1 オーディオ切り替えボタンをクリックします。

現在再生されている音声と、選択可能な音声が表示されます。チェックマークがついているところが、現在再生されている音声です。



#### 2 選択したい音声をクリックします。

再生する音声が切り替わります。音声が切り替わる時に、音声と映像が一瞬停止します。

## 字幕を切り替える

### 1 字幕切り替えボタンをクリックします。

現在再生されている字幕と、選択可能な字幕が表示されます。  
チェックマークがついているところが、現在再生されている字幕です。



### 2 選択したい字幕をクリックします。

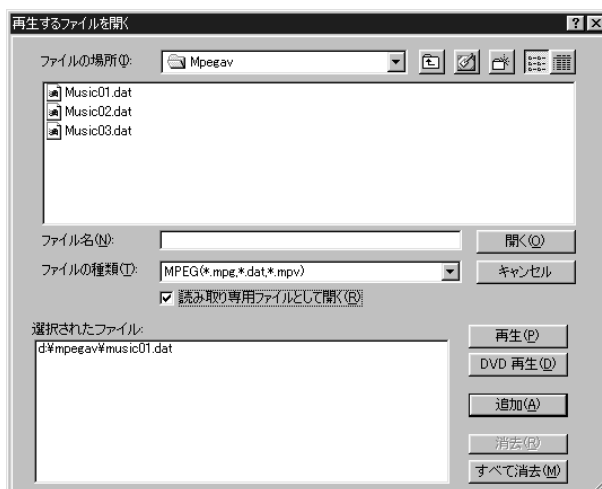
再生する字幕が切り替わります。字幕を選択してから切り替わるまでに多少時間がかかります。

## VIDEO CDなどを再生する

VIDEO CDなどのデータを再生することもできます。

### 1 ファイル選択ボタンをクリックします。

「再生するファイルを開く」ウィンドウが表示されます。



### 2 再生するファイルをクリックして選び、「追加」をクリックします。

選んだファイルが「選択されたファイル」に表示されます。

### 3 「再生」をクリックします。

## 4 操作パネルの再生ボタンをクリックして、再生を開始します。 手順3のあと、自動的に再生が開始される場合もあります。

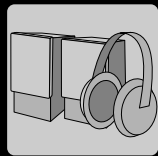
### アドバイス

#### 操作パネルについて

ファイルを選択して再生を選んだ場合、操作パネルは以下のようになります。



再生されるファイル名が表示されます。  
ひとつ前のファイルに戻ります。  
次のファイルに進みます。  
繰り返し再生します。選択されたすべてのファイルを再生します。



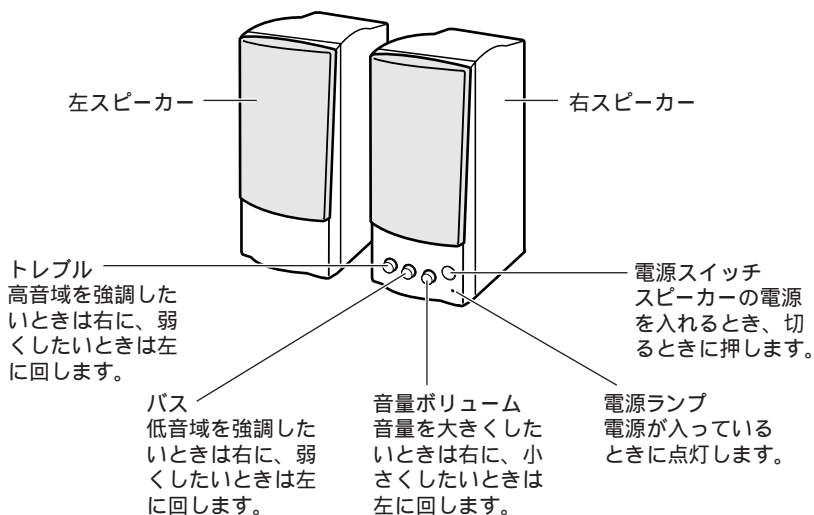
## 6

## スピーカー / ヘッドホンを使う

ここでは、スピーカーの取り扱い上の注意や、音量を調節する方法、ヘッドホンを使う方法について説明します。

スピーカーの接続方法について詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

## 気をつけてください～スピーカーを使うとき



スピーカーをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- ・スピーカーをディスプレイの近くに置くと、ディスプレイの画像が乱れる原因となることがあります。  
スピーカーから音が出ている状態で、ディスプレイに影響が出なくなるまで離してお使いください。
- ・スピーカーの上に重いものをのせないでください。
- ・左スピーカーは、必ず右スピーカーの端子に接続してください。直接パソコン本体に接続すると、本パソコンが故障する原因となります。

## 音量を調節する

音量は、次の方法で調節できます。

- ・パソコン本体前面の音量ボリュームを使う
- ・スピーカーの音量ボリュームを使う
- ・画面の音量つまみを使う
- ・キーボードの音量調節ボタンを使う

このうち、キーボードの音量調節ボタンは、画面の音量つまみと連動しています。それぞれの音量調節は相互に関係があります。

たとえば、上記の音量調節機能のうちどれかひとつの音量を最小にすると、他の音量を大きくしてもスピーカーからの音は聞こえません。また、すべての音量を最大にすると、スピーカーからの音量は最大となります。

ここでは、それぞれの音量調節のしかたを説明します。

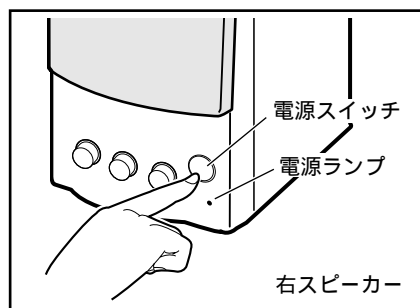
## パソコン本体前面の音量ボリュームを使う

- 1 音量ボリュームを回し、適切な音量に調節します。  
右に回すと大きく、左に回すと小さくなります。

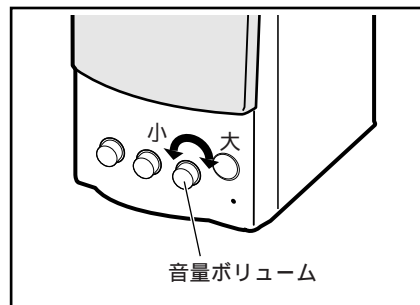


## スピーカーの音量ボリュームを使う

- 1 右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を入れます。  
スピーカーの電源ランプが点灯します。



- 2 スピーカーの音量ボリュームを回して適切な音量に調節します。  
右に回すと大きく、左に回すと小さくなります。



2

基本的な機能を使う(スピーカー/ヘッドホンを使う)

## キーボードの音量調節ボタンを使う

### アドバイス

タスクバーに(音量)が表示されていないときは

『トラブル解決Q&A』の「タスクバーに(音量)が表示されない」をご覧ください。

その他の音量調節のしかた

「出力マスター」ウィンドウの出力マスターのつまみを上下にドラッグしても、音量を調節できます。

「出力マスター」ウィンドウの表示方法は次のとおりです。

1 タスクバーの(音量)を右クリックします。

2 表示されたメニューの「音量コントロールを開く」をクリックします。



「出力マスター」ウィンドウでは、以下の音量調節ができます。

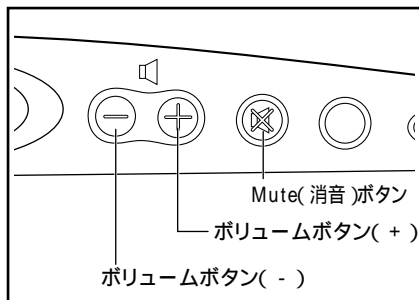
- ・出力マスター：  
パソコン全体の音量
- ・Wave：  
Wave ファイルの音量
- ・シンセサイザ：  
MIDI の音量
- ・CD：  
音楽 CD の音量
- ・ライン入力：  
ライン入力の音量

なお、各項目で調節した音量は、パソコン本体の電源を切るとご購入時の状態に戻ることがあります。

**1** キーボード上部にある音量調節ボタンを押して、適切な音量に調節します。

ボリュームボタン(-)を押すと小さく、ボリュームボタン(+)を押すと大きくなります。

Mute(消音)ボタンを押すと音が消え、タスクバーの表示がに変わります。もう一度押すと元の音量に戻り、タスクバーの表示もに戻ります。

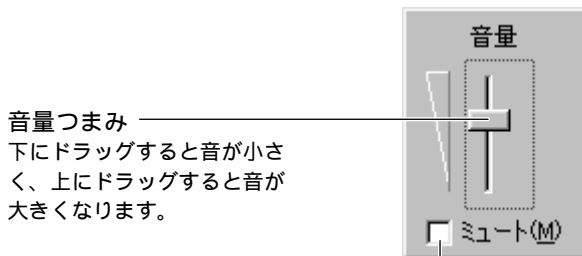


## 画面の音量つまみを使う


キーボードの音量調節ボタンと同じことが、以下の手順で行えます。

**1** タスクバーの(音量)をクリックします。  
音量つまみが表示されます。

**2** 音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ  
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート  
ここをクリックして  にすると音が消え、タスクバーの表示がに変わります。もう1度クリックして  にすると元の音量に戻ります。


**3** デスクトップの何もないところをクリックします。

音量つまみが閉じます。

閉じなかったときは、いったん音量つまみをクリックしてからデスクトップの何もないところをクリックしてください。






## スピーカーから音が聞こえないときは

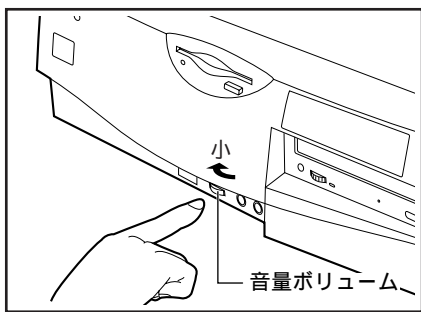
- 次のことを確認してください。
- ・スピーカーが正しく接続されているか  
『取扱説明書』をご覧になり、正しく接続されているか確認してください。
  - ・適切な音量になっているか  
音量調節機能(←P.36)のいずれかの音量が最小になっていると、スピーカーからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。  
また、画面の音量つまみのミュートがになっている(タスクバーにと表示されている)と音は聞こえません。キーボードのMute(消音)ボタンを押すか、をクリックしてにしてください。
  - ・ヘッドホンが接続されていないか  
ヘッドホンが接続されていると、スピーカーからの音は聞こえません。ヘッドホンを取り外してください。

## ヘッドホンを使う

ヘッドホンは、パソコン本体前面のヘッドホン端子に接続します。

 <b>注意</b>		<b>聴力障害</b> ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。 耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
		<b>聴力障害</b> ヘッドホンをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。 刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

- 1 音量ボリュームを左に止まるまで回して、音量を最小にします。



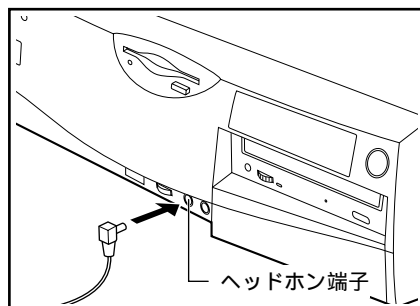
## アドバイス

ヘッドホンを接続すると

スピーカーからは音が聞こえなくなります。

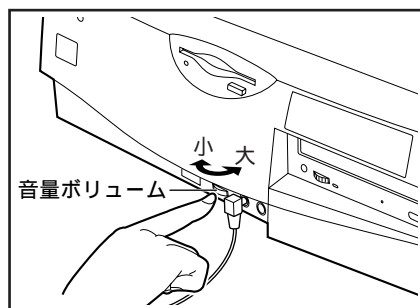
## 2 ヘッドホンのプラグをヘッドホン端子に差し込みます。

2つ並んでいる差し込み口の左側です。



## 3 音量ボリュームで適切な音量に調節します。

左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。



### ヘッドホンから音が聞こえないとき

次のことを確認してください。

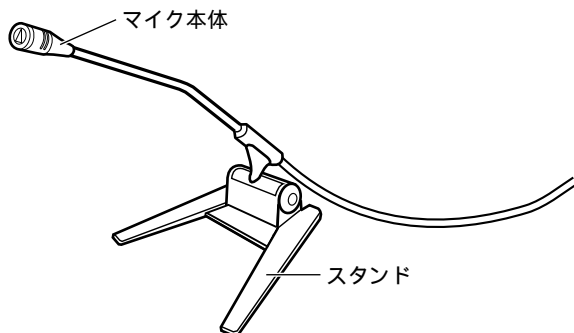
- ・ヘッドホンが正しく接続されているか  
ヘッドホンを使う(←P.39)の手順をご覧になり、正しく接続されているか確認してください。
- ・適切な音量になっているか  
音量調節機能のいずれかの音量が最小になっていると、スピーカーからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。  
また、画面の音量つまみのミュートがになっている(タスクバーに🔇と表示されている)と音は聞こえません。キーボードのMute(消音)ボタンを押すか、をクリックしてにしてください。



# 7

## マイクを使う

本パソコンでは、マイクを使って録音できます。  
 マイクは、パソコン本体前面のマイク端子(←P.3)に接続します。  
 ここでは、マイクの取り扱い上の注意や、マイクを使った録音の方法について説明します。



### 気をつけてください~マイクを使うとき

マイクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- ・スピーカーから離してお使いください。  
 ハウリング(キーンと音がすること)を起こす場合があります。
- ・録音するときは、マイクと口との距離が15~30cmの範囲になるようにお使いください。
- ・マイクの先を手で持たないでください。

### マイクで録音しよう

マイクを使って音声などを録音するには、Windows98の「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使います。

#### まず準備

- 1** タスクバーの(音量)を右クリックします。
- 2** 表示されたメニューの「音量コントロールを開く」をクリックします。  
 「出力マスター」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。

#### アドバイス

市販のマイクはお使いになれません

必ず添付のマイクをお使いください。

#### アドバイス

タスクバーに(音量)が表示されていないときは

『トラブル解決Q&A』の「タスクバーに(音量)が表示されない」をご覧ください。

- 4** 「音量の調整」の「録音」の  をクリックして  にします。



- 5** 「表示するコントロール」の「マイク入力」が  になっていることを確認します。

になっているときは、クリックして  にします。

- 6** 「OK」をクリックします。

「録音マスター」ウィンドウが表示されます。

- 7** 「マイク入力」の音量つまみをドラッグしてマイク(入力レベル)を調節します。

- 8** 「録音マスター」ウィンドウの右上にある **X**(閉じるボタン) をクリックします。

「録音マスター」ウィンドウが閉じます。

## 録音しよう

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」, 「アクセサリ」, 「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「サウンドレコーダー」をクリックします。

「サウンドレコーダー」ウィンドウが表示されます。

## 2 (録音) をクリックします。



## 3 マイクから音声を録音します。

## 4 録音が終わったら (停止) をクリックします。

## 5 (再生) をクリックします。

録音した音声再生されます。

## 6 「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」をクリックします。

## 7 保存する場所を選択し、ファイル名を入力して、「保存」をクリックします。

録音した音声ファイルに保存されます。



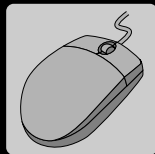
## 8 「サウンドレコーダ」ウィンドウの右上にある (閉じるボタン) をクリックします。

「サウンドレコーダー」ウィンドウが閉じます。

### アドバイス

録音した音声が入らないときは

- 1 「ファイル」メニューの「新規」をクリックします。
- 2 「ファイルサウンドは変更されています。変更を保存しますか？」というメッセージが表示されるので、「いいえ」をクリックします。
- 3 右記の手順 2 から操作し直します。録音をやり直せます。



## 8

## スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、マウスでより簡単に画面をスクロールすることができます。

スクロールについて詳しくは、『わかるがるパソコン入門』をご覧ください。

なお、使用するアプリケーションによって、動作が異なったり、お使いになれないことがあります。

例として、ここではスクロールボタンを使って「FM WORLDパソコン便利帳」の情報を見てみます。

## スライドして使う

- 1 ウィンドウをアクティブにした状態で、便利帳の情報が表示されている領域にマウスポインタを合わせます。

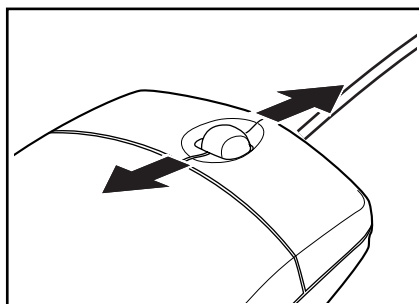


マウスポインタを合わせます

- 2 スクロールボタンを、マウスの後方へスライドさせます。

ウィンドウの中の表示がスクロールしていきます。

スクロールボタンをマウスの前方へスライドさせると、反対方向にスクロールしていきます。



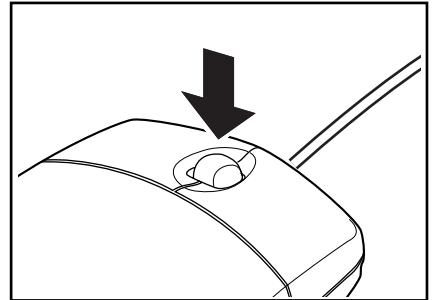
## 押して使う

### 1 ウィンドウの中にマウスポインタを合わせます。

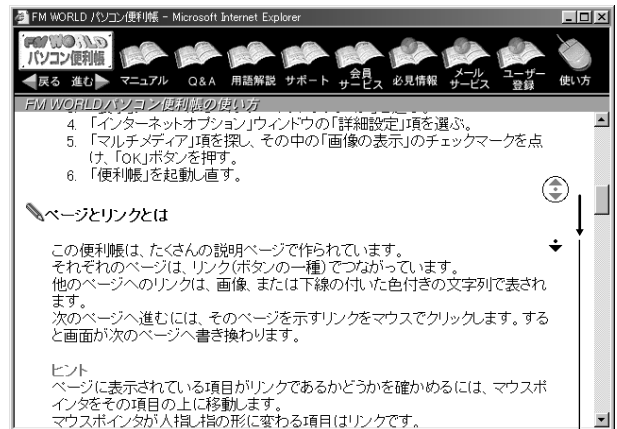


マウスポインタを合わせます


### 2 スクロールボタンを押します。 マウスポインタの表示が に変わります。



### 3 スクロールさせたい方向にマウスを動かします。



マウスを動かします

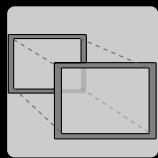
ウィンドウの中の表示がスクロールしていきます。  
マウスポインタの表示を  に戻すには、もう一度スクロールボタンを押すか、クリックしてください。

## アドバイス

スクロールする速さを調整できます

スクロールボタンを押したところからマウスを動かしたところまでの距離によって、スクロールする速さを調整できます。





# 9

## 画面の解像度や発色数を変える

### 用語

**解像度**  
縦横にどれだけの点(ドット)を表示できるかを示すものです。

### アドバイス

解像度や発色数が指定されているときはアプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

解像度を高く(大きい数字に)すると画面を広く使えるようになり、多くのウィンドウを表示できます。発色数を増やすと画面に表示できる色数が多くなります。ここでは、画面の解像度や発色数の変更のしかたを説明します。

1024×768の場合



800×600の場合



### 表示できる解像度と発色数

本パソコンで表示できる解像度や発色数は次のとおりです。

解像度	設定可能な発色数	
640×480ドット	16色	
	256色	
	HighColor(16ビット)	
	TrueColor(32ビット)	
800×600ドット	256色	
	HighColor(16ビット)	
	TrueColor(32ビット)	
1024×768ドット	256色	
	HighColor(16ビット)	
	TrueColor(32ビット)	
1280×1024ドット	256色	
	HighColor(16ビット)	
	TrueColor(32ビット)	

- は表示可能、×は表示不可、はご購入時の設定です。
- HighColor(16ビット)は6万5千色、TrueColor(32ビット)は1677万色です。

### 重要

上の表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないでください。

設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を高くすると、設定できる発色数は少なくなります。



## 解像度や発色数を変更する



**重要**

### アプリケーションを終了してください

解像度、発色数を変更すると、再起動しなければならないことがあります。作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了させてから変更してください。

### アクティブデスクトップを解除してください

解像度と発色数を変更する前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。


- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

解像度と発色数を変更した後に、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

### 解像度や発色数を変更するとき

- ・ 解像度、発色数の設定によっては、ディスプレイの調整が必要な場合があります。
- ・ アプリケーションによっては、解像度や発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。お使いになるアプリケーションの動作環境を確認し、解像度や発色数を変更してください。
- ・ 解像度を変更するときに、一時的に画面が乱れることがあります。動作には問題ありません。
- ・ 解像度、発色数を変更すると、画面が中央に表示されないことがあります。「アドバイス」(P.48) をご覧になり、リフレッシュレートを設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 2  (画面) をクリックします。

- 3 「設定」タブをクリックします。




## アドバイス

リフレッシュレートを設定してください



- 1 右図の画面で「詳細」をクリックします。
- 2 「アダプタ」タブをクリックします。
- 3 リフレッシュレートのプルダウンメニューから「85Hz」を選択し、「OK」をクリックします。

## アドバイス

「互換性の警告」ウィンドウが表示されたときは

- 1 「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」の左が  になっていることを確認し、「OK」をクリックします。
- 2 「システム設定の変更」ウィンドウで「はい」をクリックします。本パソコンが再起動します。

## 4 解像度や発色数を変更します。

解像度を変更するには、「画面の領域」の  を左右にドラッグしてください。発色数を変更するには、「色」の  をクリックし、一覧から設定したい発色数をクリックしてください。

画面の領域

画面の解像度を指定します。

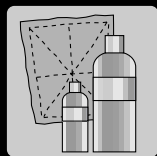
色

画面の発色数を指定します。



## 5 設定が終了したら「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、画面にメッセージが表示されます。指示に従って再起動してください。



## お手入れのしかた

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。

お手入れのしかたは、ディスプレイ、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

### パソコン本体 / ディスプレイ / キーボードのお手入れ



警告



感電 お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。



重要

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使用しないでください。

パソコン本体の通風孔（←P.4）にほこりが溜まらないように、定期的に清掃してください。汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を固く絞って、拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。また拭き取るときは、パソコン本体やディスプレイ、キーボードに水が入らないよう十分注意してください。

### マウスのお手入れ



警告



感電 お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。



重要

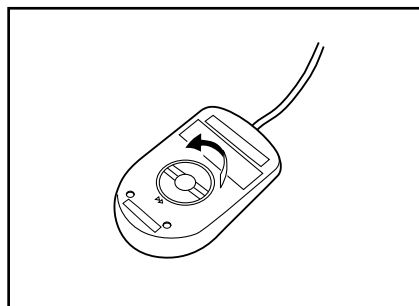
シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使用しないでください。

表面の汚れは、乾いた布か、または水か中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。

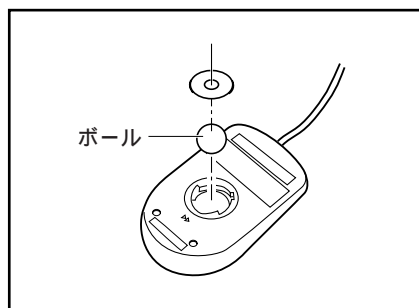
また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

- 1** マウスの裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



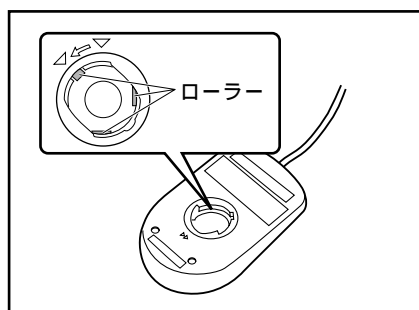
- 2** ボールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。

洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かしてください。



- 3** マウス内部の汚れを拭き取ります。

水に浸して固く絞った布で、マウス内部および裏ボタンを拭きます。ローラー部分は水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



- 4** ボールをマウスに戻し、裏ボタンを取り付けます。

## フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクは長い期間使っていると、ヘッド(データを読み書きする部分)が汚れてきます。ヘッドが汚れると、データを正常に読み書きできなくなります。別売りのクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

### 用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375)

### アドバイス

ゴミは完全に取り除いてください

ローラー部分にゴミがたまると、マウスが正常に動かない原因となることがあります。


## お手入れのしかた



けが クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

2

基本的な機能を使う（お手入れのしかた）

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。  
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「C:¥WINDOWS>」に続けて次のように入力し、**[Enter]**を押します。  
`c:¥fjuty¥cldnsk 0`  
「cldnsk」と「0（数字のゼロ）」の間は、を1回押してください。
- 3** クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットし、**[Enter]**を押します。  
「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングがはじまります。  
しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 4** フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 5** 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **×**（閉じるボタン）をクリックします。  
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが閉じます。  
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、**exit**と入力し、**[Enter]**を押してください。



## 第 3 章

# オプション機器を活用しよう！

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、別売りのオプション機器を使うために必要な、接続や設定のしかたについて説明しています。

1. オプション機器を取り付ける前に .....	54
2. つないで活用！！ .....	58
3. パワーアップするために～本体カバーを取り外す～ .....	67
4. メモリを増やす .....	74
5. 拡張カードを増設する .....	82
6. ハードディスクを増設する .....	89
7. 3.5 インチ / 5 インチの内蔵オプション機器を取り付ける ...	117
8. その他のオプション機器を使う .....	123



# 1

## オプション機器を取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられるオプション機器の種類や、オプション機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

### 取り付けられるオプション機器

別売りのオプション機器を取り付けると、こんなことができます。

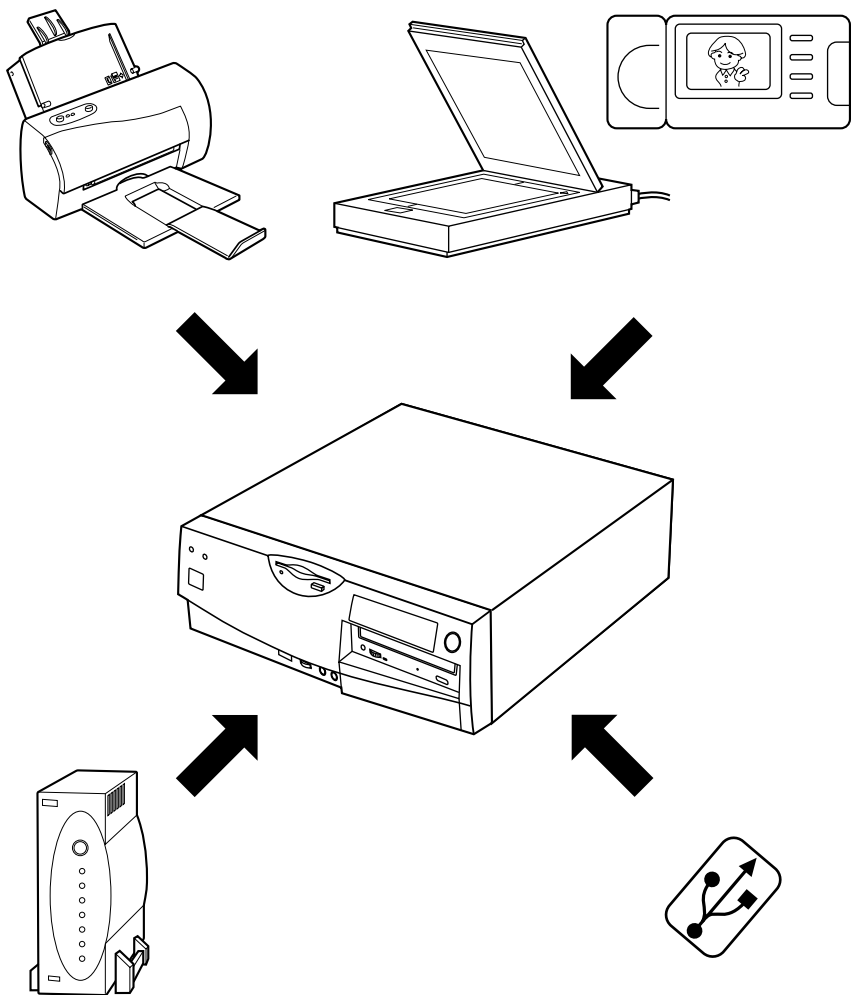
そのままつなごう！～本体カバーを外さないで接続できるもの～

文書や画像を印刷したい！

お気に入りのイラストや写真を取り込みたい！

～プリンタを接続する(☞P.58)～

～スキャナ/デジタルカメラを接続する(☞P.62)～



ISDN回線に接続するには？

～ターミナルアダプタを接続する(☞P.64)～

つないでラクラク！

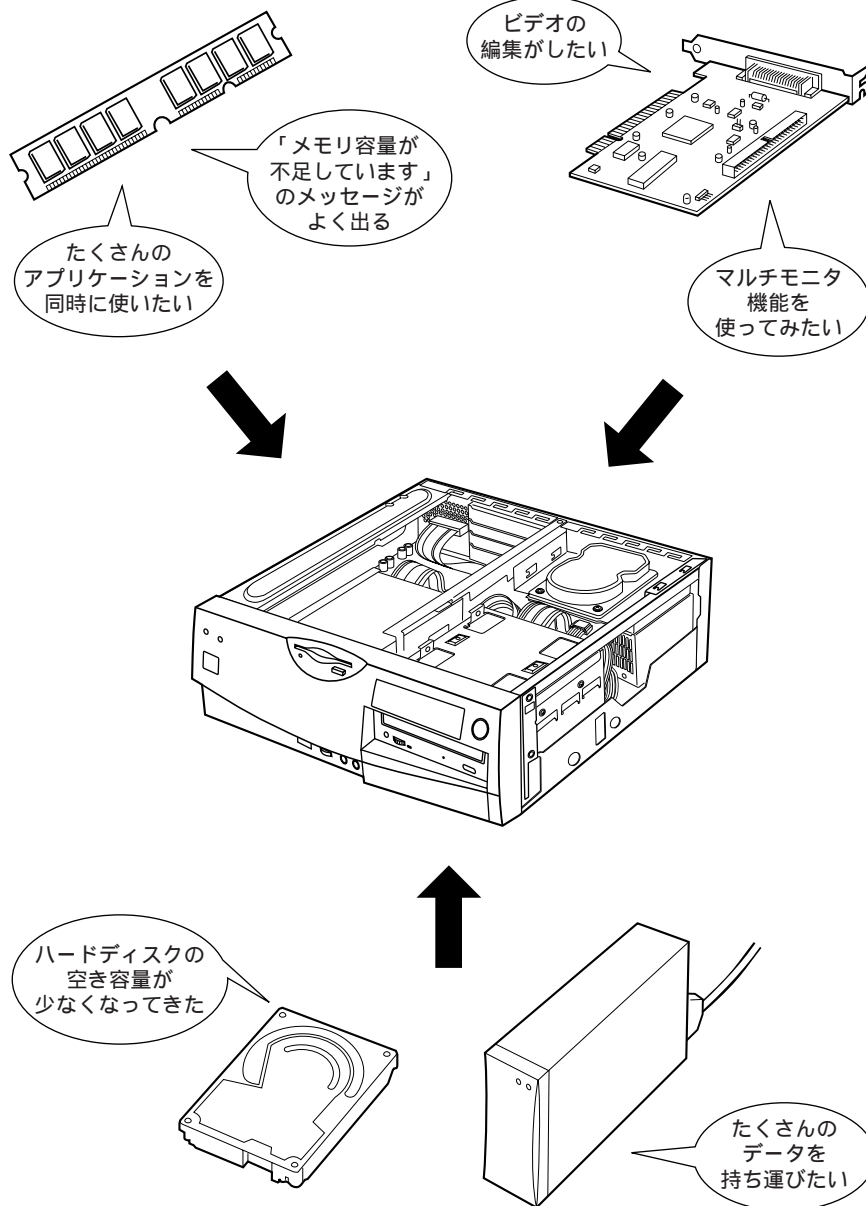
～USB機器を接続する(☞P.65)～



## パワーアップ！～本体カバーを外して接続するもの～

パソコンの処理を快適にしたい！  
～メモリを増設する（⇨P.74）～

パソコンの機能を増やしたい！  
～拡張カードを増設する（⇨P.82）～



よりたくさんのデータを保存したい！  
～ハードディスクを増設する（⇨P.89）～  
～MOドライブを増設する（⇨P.123）～

# 3

オプション機器を活用しよう！（オプション機器を取り付ける前に）

## オプション機器の接続にあたって

本パソコンで別売りのオプション機器をお使いになるときは、以下の流れにそって行ってください。



### アドバイス

純正品をお使いください

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。他社製品をお使いになる場合は、本パソコンで正しく動作することを製造元のメーカーにご確認ください。オプション機器がACPI機能に対応していない場合

増設するオプション機器がACPIに対応していないときは、本パソコンの設定をAPM機能に変更する必要があります。

APM機能への変更のしかたについては「APMについて」(P.172)をご覧ください。

### 用語

#### ドライバ

ドライバとは、パソコンに取り付けた機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、OSとオプション機器との仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、オプション機器が理解できるように翻訳するのが役目です。

ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどのオプション機器には、ドライバがCD-ROMやフロッピーディスクなどで添付されています。

### まずは準備から！必要なものを用意しよう

本パソコンは「PC/AT互換機」という規格のパソコンです。

接続に使うケーブルも「PC/AT互換機」と表示されたものを用意しましょう。

また、接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

### 準備が整ったら、いよいよ接続！

オプション機器によって取り付け方法が異なります。

必ずオプション機器のマニュアルも合わせてご覧ください。

#### 本体カバーを外さないで接続するもの

プリンタ、スキャナ、  
デジタルカメラ、USB機器、  
ターミナルアダプタ など

#### 本体カバーを外して接続するもの

メモリ、拡張カード、  
ハードディスク、  
MOドライブ など

### あと一歩！ドライバをインストールしよう

オプション機器には、接続するだけで使えるものと、設定作業が必要なものがあります。

必ずオプション機器のマニュアルも合わせてご覧ください。

### 完了！オプション機器を使いこなそう！

## 取り付けるときはここに注意！！

オプション機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

**Windows 98 のセットアップは終了していますか？**

Windows 98 のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。☞『取扱説明書』をご覧ください、Windows 98 のセットアップを行ってください。

**一度に取り付けるオプション機器はひとつだけ！**

一度に複数のオプション機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。

**作業前にパソコン本体および接続されている機器の電源は OFF に！**

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

さらに本体カバーを取り外して作業する場合には、次のことにも注意してください。

**電源を切った直後は作業をしない！**

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切って、電源プラグをコンセントから抜いたあと 10 分ほど待ってから、作業をはじめましょう。

**電源ユニットは分解しない！**

**内部のケーブル類や装置の扱いに注意！**

傷つけたり、加工したりしないでください。

**一度大きな金属質のものに手をふれて静電気を放電しよう！**

内蔵オプション機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらの部分は、人体にたまる静電気によって損傷を受ける場合があります。

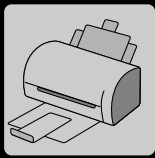
**基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には触れないで！**

金具の部分や基板のふちを持つようにしてください。

**工具を用意しましょう！**

パソコン本体のスロットカバーや金具などの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをお使いください。

なお、本書で説明している以外のオプション機器の取り付けや、分解を行った場合は、保証の対象外となります。



# 2

## つないで活用！！

ここでは、つなぐだけで簡単に使えるプリンタ、スキャナ、デジタルカメラ、ターミナルアダプタ、USB 機器の接続について説明します。

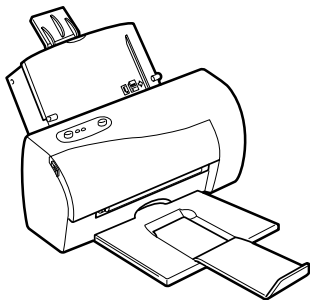
 <b>警告</b>	<p><b>感電</b> オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。 感電・火災または故障の原因となります。</p>
 <b>注意</b>	<p><b>故障</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オプション機器ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびオプション機器が故障する原因となることがあります。</li> <li>・オプション機器、およびオプション機器ケーブルは、弊社純正品をお使いください。純正品以外のオプション機器、およびオプション機器ケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。</li> </ul>

### 文書や画面を印刷したい！～プリンタを接続する～

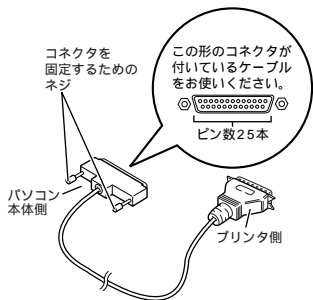
年賀状、カード、企画書… 作ったものを印刷したい時は、プリンタを接続します。

#### 必要なものを用意する

プリンタを接続するには、次のものがが必要です。



**プリンタ**  
パソコン本体背面の平行コネクタ(☛P.5)に接続するものや、本体前面のUSB コネクタ(☛P.2)に接続するものなどがあります。  
Windows 98 で動作可能なものをご購入ください。

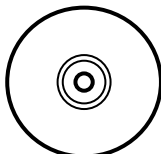


**プリンタケーブル**  
プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。  
「PC/AT 互換機用」などと記載されていて、コネクタが「D-SUB25ピン」で、ネジで固定する形のものをお使いください。  
プリンタケーブルは、通常プリンタに添付されていません。別途ご購入ください。  
また、USB ケーブルで接続するプリンタもあります。

フロッピーディスク



CD-ROM



プリンタのドライバ  
プリンタに添付されています。  
プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98対応」「PC/AT互換機用」などと記載されたものをお使いください。



プリンタのマニュアル  
CD-ROMで見るマニュアルもあります。

**重要**

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルを取り付けて正常に動かなかったり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

**プリンタを接続する**

ここでは、プリンタをパソコン本体の平行コネクタに接続する方法について説明します。

USB コネクタに接続するプリンタについては、「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」(←P.65)をご覧ください。

**重要**

プリンタは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(←『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

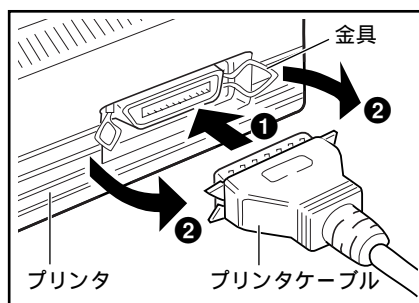
プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

- 1** パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

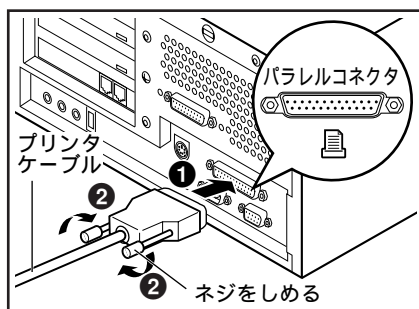
**2** プリンタ側のコネクタの形に合わせて、プリンタケーブルのネジが付いていないコネクタを接続します。

プリンタ側のコネクタの左右に金具が付いている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。



**3** パソコン本体背面のパラレルコネクタ(≡)の形に合わせて、プリンタケーブルのネジの付いているコネクタを接続します。

プリンタケーブルのコネクタの左右のネジをしめて、プリンタケーブルを固定してください。



**4** プリンタに電源ケーブルを接続します。

プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。

**5** 本パソコンおよび接続されている機器と、プリンタの電源プラグを、コンセントに差し込みます。

**6** 初めて接続するプリンタの場合は、続いてプリンタのマニュアルをご覧ください。ドライバをインストールします。

ここに注意してください

プリンタドライバのインストール時の注意

プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されていても、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「プリンタの追加」をクリックします。  
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。

Windows98のCD-ROMを要求するメッセージが表示されたときは「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されま

す。  
「ファイルのコピー元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

ご購入時のDVD-ROMドライブはEです

CD-ROMからプリンタのドライバをインストールする場合に、DVD-ROMドライブ名を指定するときは `e:` と入力してください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

弊社製プリンタ「XJ-350/XJ-550」をお使いのとき

- ・本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイでプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。  
XJ-350 : V1.0L10    XJ-550 : V1.0L10 (1999年7月現在)
- ・プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。
  - NIFTY SERVE 富士通FMシリーズ情報「FM INFO」  
(GO FMINFOでアクセスできます)
  - インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」  
(<http://www.fmworld.ne.jp>)
- ・最新版のドライバのインストールは、次の流れにそって行ってください。
  - 1 プリンタの電源を切ります。
  - 2 古いバージョンのドライバを削除します。  
削除のしかたについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
  - 3 本パソコンを再起動します。
  - 4 Windows98が起動したら、プリンタの電源を入れます。
  - 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。

本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。  
インストール方法などについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。

## 用語

### プラグアンドプレイ (Plug&Play/PnP)

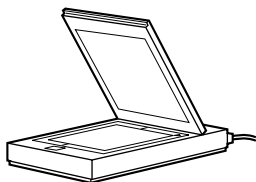
プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、プリンタやその他の機器を接続しただけで使えるようにします。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

## お気に入りのイラストや写真を取り込みたい! ~スキャナ/デジタルカメラを使う~

お気に入りのイラストや写真を取り込んで、オリジナルの画像を作りたい・・・  
そんなときはスキャナやデジタルカメラを接続します。

### 必要なものを用意する(スキャナ)

スキャナを使うには、次のものがが必要です。



#### スキャナ

スキャナは、コピー機のような形のフラットベッド型が一般的ですが、ほかにもハンディスキャナや、フィルムから直接写真を取り込めるフィルムスキャナなどもあります。

パソコン本体背面のパラレルコネクタ(←P.5)に接続するものや本体前面のUSBコネクタ(←P.2)に接続するもの、SCSIカードという拡張カードを使うもの(SCSI規格)などがあります。

スキャナにはTWAINという規格があり、フォトタッチソフトのほとんどがこの規格に対応しています。TWAIN対応のスキャナをお使いになることをお勧めします。

### アドバイス

SCSI規格のスキャナをお使いになるときは

スキャナの他に、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)が必要になります。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)について詳しくは、「SCSI規格の内蔵/外付けハードディスクを増設する場合」(←P.91)をご覧ください。

### フォトタッチソフト(画像を加工するソフトウェア)

取り込んだ画像の色を調整したり、画像を合成したり、自分の好きなファイル形式に変換したりするためのソフトウェアです。

本パソコンには、「らくらく写真館」というフォトタッチソフトが添付されています。

また、スキャナに添付されているフォトタッチソフトもあります。さらに多くの機能を使いたいときには市販のソフトウェアをご購入ください。

### スキャナのドライバ

### スキャナのマニュアル

## 用語

### SCSI(スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、ハードディスクのほかに、スキャナやMOドライブなどがあります。

### TWAIN(トゥウェイン)

画像データをコンピュータに取り込むための統一規格です。



## スキャナを使うには

ご購入されたスキャナによって、接続方法が異なります。詳しくは、スキャナのマニュアルをご覧ください。

### パソコン本体背面の平行コネクタに接続するもの

ケーブルで、スキャナとパソコン本体（平行コネクタ ←P.5）をつなぎます。本パソコンでは、コネクタをネジで固定する形のケーブルをお使いください。接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

### USB コネクタに接続するもの

「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」（←P.65）をご覧ください。

### SCSI カードに接続するもの

SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては「拡張カードを増設する」（←P.82）をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあとに、SCSIケーブルでSCSIカードとスキャナをつなぎます。スキャナには、終端抵抗（ターミネータ）という器具を取り付けます。また、終端抵抗が内蔵されているスキャナもあり、ディップスイッチなどで設定する必要があるものもあります。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

## 必要なものを用意する（デジタルカメラ）

デジタルカメラを使うには、次のものがが必要です。



### デジタルカメラ

デジタルカメラは、画像をデジタル情報として記録するカメラで、各社から発売されています。

デジタルカメラからパソコンに画像データを取り込む方法は、お使いのデジタルカメラによって異なります。パソコン本体のシリアルコネクタ（←P.5）やUSBコネクタ（←P.2）に接続して画像データを取り込むもの、PCカードやフロッピーディスクを使って画像データを取り込むものなどがあります。

デジタルカメラのマニュアルをご覧ください。必要なものをご用意ください。

## 専用ケーブル

パソコン本体に接続するタイプのデジタルカメラには、専用ケーブルが必要です。ケーブルはデジタルカメラに添付されている場合もあります。

## ソフトウェア

撮影した写真をパソコンに取り組むためのソフトウェアや、撮影した写真を見たり、文字やイラストを入れて編集したりするためのソフトウェアが必要です。これらのソフトウェアは、デジタルカメラに添付されている場合もあります。

本パソコンには、「らくらく写真館」や「ぷりんとフェア」など、写真をいろいろ活用できるソフトウェアが添付されています。

## デジタルカメラのマニュアル

### デジタルカメラを使うには


ご購入されたデジタルカメラによって、接続方法が異なります。

#### パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するもの

ケーブルで、デジタルカメラとパソコン本体(シリアルコネクタ ←P.5)をつなぎます。つないだあと、ケーブルのコネクタの左右のネジをしめて固定してください。

#### パソコン本体のUSBコネクタに接続するもの

「つないでらくらく! ~ USB 機器を接続する~」( ←P.65)をご覧ください。

なお、デジタルカメラの活用については、『使いこなす本ソフト編』をご覧ください。

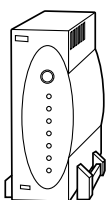
## ISDN回線に接続したい! ~ ターミナルアダプタを接続する ~

ISDN回線に接続して、もっと快適にネットワークを楽しみたい・・・そんなときはターミナルアダプタを接続します。

ISDN回線に接続する方法について詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。

### 必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには、次のものが 필요합니다。



#### ターミナルアダプタ

ISDN回線に接続するために必要な機器です。パソコン本体背面のシリアルコネクタ( ←P.5)に接続するものや、本体前面のUSBコネクタ( ←P.2)に接続するものなどがあります。

## 専用ケーブル

ターミナルアダプタと本パソコンをつなぐケーブルです。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

## ターミナルアダプタのマニュアル

### ターミナルアダプタを接続するには

ご購入されたターミナルアダプタによって、接続方法が異なります。

#### パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するもの

専用のケーブルでターミナルアダプタとパソコン本体（シリアルコネクタ ← P.5）をつなぎます。つないだあと、ケーブルのコネクタのネジをしめて固定してください。

#### USB コネクタに接続するもの

次の「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」をご覧ください。

ターミナルアダプタをISDN回線に接続するには、DSU（ディーエスユー）という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンでFAXを送受信するには、パソコン本体のモデムとターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。NTTにお問い合わせください。

## つないでらくらく！～USB 機器を接続する～

USB 機器を接続して、自分の思い通りのパソコンにしましょう。

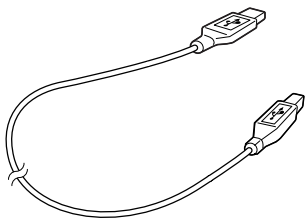
### 必要なものを用意する

USB 機器を使うには、次のものがが必要です。



#### USB 機器

マウス、キーボード、プリンタ、ターミナルアダプタ、スピーカーなどがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。



#### USB ケーブル

USB機器と本パソコンをつなぐケーブルです。USB機器に添付されている場合もあります。マウスなどのようにケーブルが不要なものもあります。

## USB 機器のドライバ

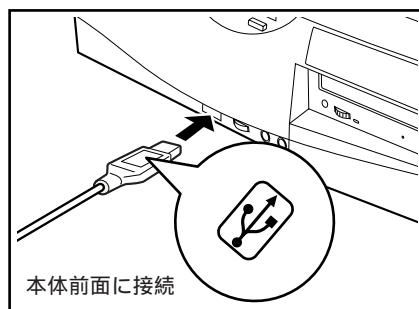
通常は USB 機器に添付されています。

## USB 機器のマニュアル

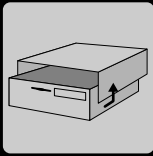
### USB 機器を使うには

取り付けかたは、次のとおりです。

- 1** USB 機器のケーブルのコネクタをパソコン本体前面の USB コネクタに接続します。



- 2** ドライバをインストールします。  
ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使える USB 機器もあります。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。



# 3

オプション機器を活用しよう！

## パワーアップするために～本体カバーを取り外す～

### 用語

**マザーボード**  
パソコン本体内部にある、CPUやメモリなど、パソコンの基本的な機能を果たす部品を搭載した基板のことです。

パソコンの内部にいろいろなオプション機器を取り付けて、パソコンをパワーアップすることができます。

パソコン本体内部にオプション機器を取り付けるときは、本体カバーを取り外します。また、取り付けるオプション機器によっては、パソコン本体内部のマザーボードと呼ばれる基板を取り外して作業する場合があります。

### 本体カバーを取り外す / 取り付ける

本体カバーは、次の作業を行うときに取り外します。

- ・メモリを取り付けるとき
- ・拡張カードを取り付けるとき
- ・内蔵ハードディスクを取り付けるとき
- ・3.5 インチの内蔵オプション機器を取り付けるとき
- ・5 インチの内蔵オプション機器を取り付けるとき
- ・BIOS セットアップでパスワードを有効にするとき、または無効にするとき



警告



**感電** 本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電・火災または故障の原因となります。



**誤飲** 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。  
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



注意



**けが** 本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



**けが** 基板表面上の突起物には手を触れないでください。  
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

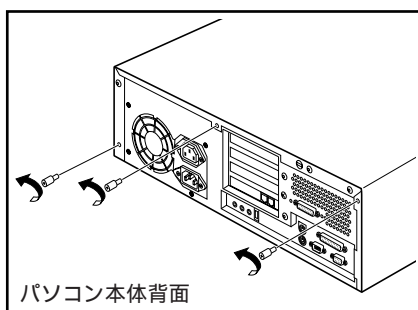
# 3

オプション機器を活用しよう！（パワーアップするために～本体カバーを取り外す～）

## 本体カバーを取り外す

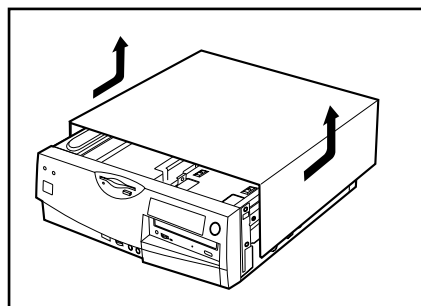
**1** パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、10分ほど待ちます。

**2** パソコン本体背面のツマミネジ（3カ所）を手で回して外します。



**3** 本体カバーを矢印の方向に取り外します。

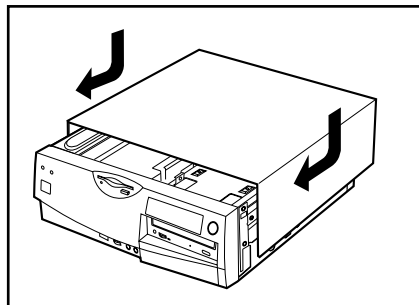
パソコン本体背面に向けてスライドさせたあと、持ち上げてください。



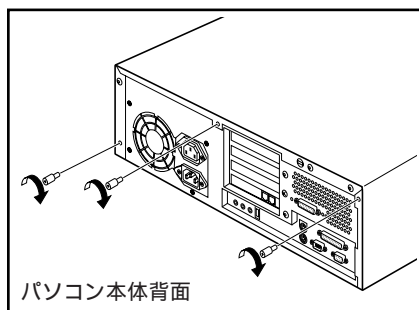
- |   |                       |
|---|-----------------------|
| ▶ メモリを取り付ける場合                             | ☛ P.78 手順2へ           |
| ▶ メモリを交換する場合                              | ☛ P.80 手順2へ           |
| ▶ 拡張カードを取り付ける場合                           | ☛ P.71 「マザーボードを取り外す」へ |
| ▶ IDE規格の内蔵ハードディスクを3.5インチ<br>ファイルベイに増設する場合 | ☛ P.94 手順2へ           |
| ▶ IDE規格の内蔵ハードディスクを5インチ<br>ファイルベイに増設する場合   | ☛ P.96 手順2へ           |
| ▶ SCSI規格の内蔵ハードディスクを<br>増設する場合             | ☛ P.101 手順3へ          |
| ▶ 3.5インチの内蔵オプション機器を<br>取り付ける場合            | ☛ P.118 手順2へ          |
| ▶ 5インチの内蔵オプション機器を<br>取り付ける場合              | ☛ P.120 手順2へ          |
| ▶ パスワードを設定する場合                            | ☛ P.71 「マザーボードを取り外す」へ |

## 本体カバーを取り付ける

- 1** 本体カバーを取り付けます。  
パソコン本体前面に向けてスライドさせます。



- 2** パソコン本体背面のツマミネジ（3カ所）を手で回して取り付けます。



- 3** パソコン本体および接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。

- |                           |                            |
|---------------------------|----------------------------|
| ▶ <u>メモリを取り付けた場合</u>      | ←P.78 「メモリ容量を確認してください」へ    |
| ▶ <u>拡張カードを取り付けた場合</u>    | ←P.88 手順 11 へ              |
| ▶ <u>内蔵ハードディスクを増設した場合</u> | ←P.104 「領域を設定する」へ          |
| ▶ <u>パスワードを設定した場合</u>     | ←P.142 「パスワード設定後のパソコンの起動」へ |

**3**

オプション機器を活用しよう！（パワーアップするために「本体カバーを取り外す」）

## マザーボードを取り外す / 取り付ける

ここでは、パソコン本体内部の側面の金具とマザーボードの取り外しかたと取り付けかたについて説明します。

### 重要

#### 電源を切ってから 10 分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。マザーボードを取り外すときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

#### 放電してから作業してください

マザーボードは、人体にたまった静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きい金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

また、マザーボードの取り外しや取り付けは、じゅうたんやカーペット敷きの場所で行わないでください。じゅうたんやカーペット敷きの場所で作業すると、静電気が発生しやすくなります。

取り外したマザーボードは、じゅうたんやカーペットの上に置かないでください。



**感電** マザーボードを取り外すときまたは取り付けるときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電・火災または故障の原因となります。



**誤飲** 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。  
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



**けが** マザーボードを取り外すときまたは取り付けるときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

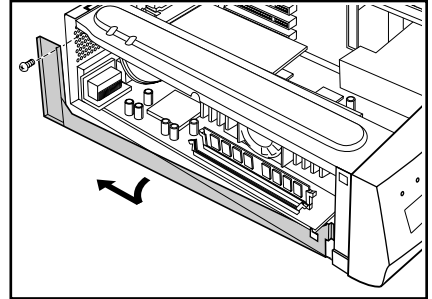


**けが** ・基板表面上の突起物には手を触れないでください。  
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。  
・マザーボードのパソコン本体背面側の金具には手を触れないでください。  
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



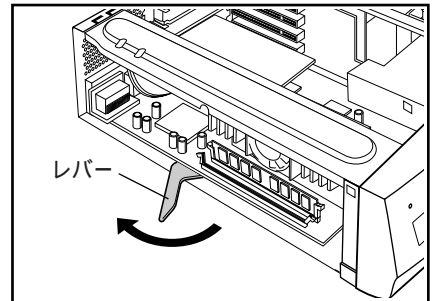
## マザーボードを取り外す

- 1** 側面の金具を取り外します。  
ネジ(1カ所)を外して、矢印の方向に取り外します。

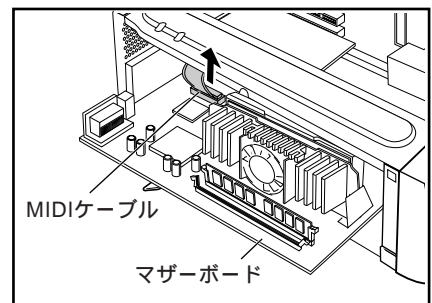


▶ ハーフサイズの拡張カードを取り付ける場合 ←P.86 手順3へ

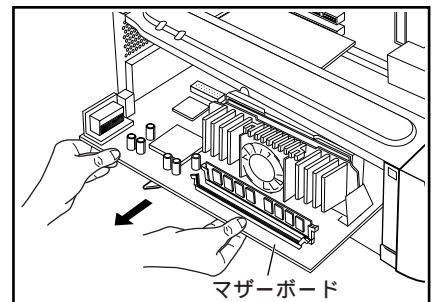
- 2** レバーを手前に引いて、マザーボードを少し引き出します。



- 3** MIDIケーブルを取り外します。



- 4** マザーボードを引き抜きます。  
マザーボードのふちを持って引き抜いてください。



▶ フルサイズの拡張カードを取り付ける場合 ←P.86 手順3へ

▶ パスワードを設定する場合 ←P.141 手順3へ

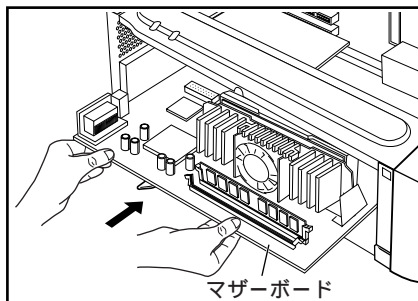
**3**

オプション機器を活用しよう！(パワーアップするために、本体カバーを取り外す)

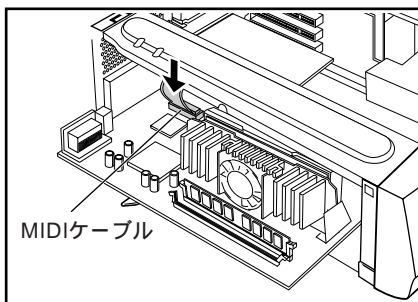
## マザーボードを取り付ける

### 1 マザーボードをパソコン本体内部に差し込みます。

マザーボード下面のレールと、パソコン本体下部のレールをしっかりとかみ合わせて差し込みます。



### 2 MIDI ケーブルを取り付けます。



### 3 マザーボードをパソコン本体内部に貼ってあるシールの線の位置まで、確実に押し込みます。

この位置まで押し込んでください。→

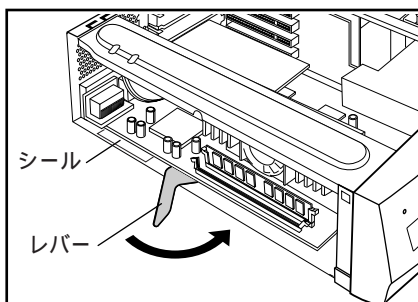
**注意**

マザーボードを装置に組み込む際は、マザーボードを、ガイドレールに沿ってまっすぐに挿入し中央のレバーでマザーボードの端面が、下の線の位置までくるように確実に押し込んで下さい。

▲マザーボードは線の位置まで確実に押し込んで下さい。

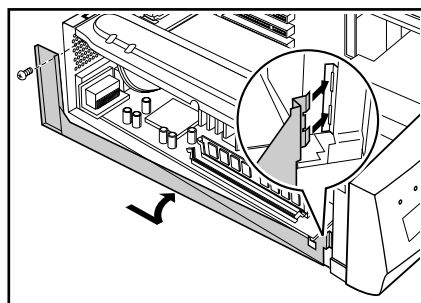
### 4 レバーを倒して、マザーボードを押し込みます。

マザーボードの端子が、パソコン本体のコネクタにしっかりと差し込まれたことを確認してください。



## 5 側面の金具を取り付けます。

側面の金具のツメを、パソコン本体前面側の溝に差し込み、ネジ（1カ所）で固定します。



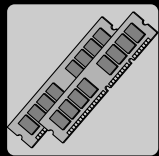
続いて、本体カバーを取り付けます。「本体カバーを取り付ける」(←P.69)をご覧ください。

### 重要

#### マザーボードを取り付けたあと電源を入れても起動しないときは

マザーボードを取り付け、本体カバーを取り付けたあと、電源が入らなかったり、起動しなかったりした場合は、マザーボードの端子がパソコン本体のコネクタにしっかりと差し込まれていない可能性があります。

その場合は、「本体カバーを取り外す」(←P.68)をご覧ください。本体カバーを取り外したあと、部品に触れないようにしてマザーボードの両端を押し込み、完全に差し込んでください。そのあと、本体カバーを取り付けてください。



# 4

## メモリを増やす

「複数のアプリケーションを起動したら、パソコンの動作が遅くなった」「大きなファイルを使おうとするとメモリ不足と表示されてしまう」  
 そういった場合に本パソコンのメモリを増やすと、パソコンの処理が速く快適になります。

### メモリを増やすとは？

#### メモリとはどんなもの？

メモリは、CPUが処理するデータやプログラムを一時的にためておく装置です。データやプログラムは本パソコンに内蔵されているハードディスクに保存されていますが、CPUが処理するたびにハードディスクから読み込んでくると時間がかかります。

CPUがメモリからデータを読み込む速度はハードディスクからデータを読み込む速度よりも早いため、必要なプログラムやデータをメモリにためておけば処理が早くなります。

メモリは、よく「机」にたとえられます。勉強や仕事をするときに引き出しから本や書類を取り出して机の上に広げるように、ハードディスクに保存されているデータやプログラムがメモリという「机の上」に広げられているのです。

#### メモリを増やすとパソコンの動作が速くなる

複数のアプリケーションを同時に動かしたり、データを一度にたくさん読み込むと、メモリはどんどん使われてしまいます。

机の上に本やノートを広げると空いた場所がなくなるのと同じです。

机が大きければ本やノートをたくさん広げられますが、机が小さいと少ししか広げることができません。

同じように、メモリも大きければ大きいほど、たくさんのソフトウェアやデータを読み込むことができようになり、快適に操作できます。

メモリの大きさは「容量」と呼ばれ、32MB、64MBというように表されます。別売りのメモリを本パソコンに増設して、メモリの容量を増やすと、「机」が広がったことになりパソコンの動作が速くなります。

#### 用語

##### CPU(シーピーユー)

Central Processing Unitの略で、パソコンの中核頭脳部分ともいわれる、中央処理装置のことです。

#### 用語

##### MB(メガバイト)

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさをあらわす単位のことです。M(メガ)は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということになります。

パソコンで使われる単位には、他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

## メモリはどこにある？

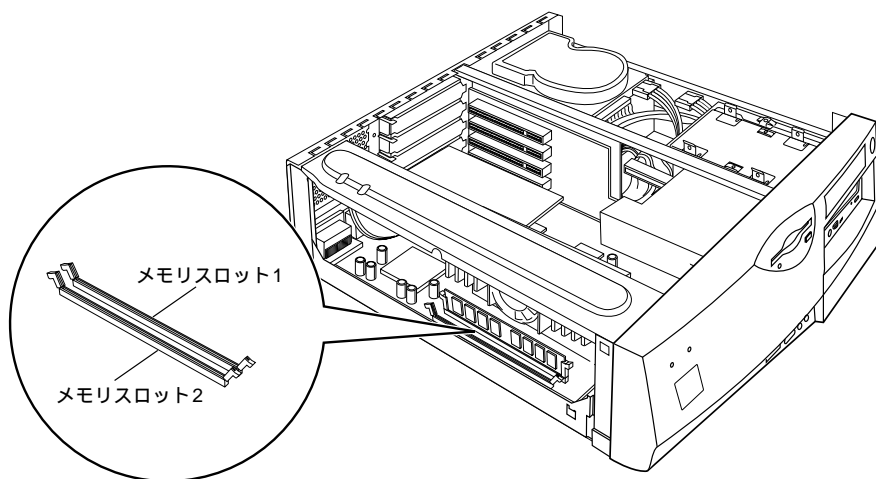
メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。

本パソコンのご購入時は、メモリスロット1に64MBのメモリが1枚取り付けられています。

メモリ容量を増やすには、メモリスロット2に、新たにメモリを取り付けます。

メモリは最大256MB(128MB×2枚)まで増やせます。

メモリを最大容量まで増やしたいときは、あらかじめ取り付けられているメモリ(メモリスロット1)を取り外して交換します。



## 取り付けられるメモリ

お使いになれるメモリは次のようなものです。

- |             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| ・種類         | SDRAM(エスディーラム) DIMM(ディム)(SPD付き) |
| ・システムバスクロック | 100MHz                          |
| ・ピン数        | 168ピン                           |
| ・容量         | 32MB、64MB、128MB                 |
| ・ECC        | なし                              |

### 重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のメモリを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

メモリのシステムバスクロックにご注意ください

本パソコンに取り付けるメモリは、100MHz対応のメモリをお使いください。

## 用語

### SPD(エスピーディー)

Serial Presence Detectの略で、メモリの機能のひとつです。

必ずSPD付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製のSDRAMは、SPD付きです。

### ECC(イーシーシー)

Error Correcting Codeの略で、データの中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。

本パソコンでは、この機能は使いません。

## メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。  
表以外の組み合わせにすると、本パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	メモリスロット1 (DIMM1)	メモリスロット2 (DIMM2)
64MB(ご購入時)	64MB	なし
96MB	64MB	32MB
128MB	64MB	64MB
192MB	64MB	128MB
256MB(最大)	128MB	128MB

あらかじめ取り付けられているメモリを交換します。

## メモリを取り付ける

ここでは、メモリを取り付ける方法を説明します。  
あらかじめ取り付けられているメモリを、大容量のメモリに交換するときは、「メモリを交換する」(←P.80)をご覧ください。



**感電** メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電・火災または故障の原因となります。



**けが** メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



**けが** 基板表面上の突起物には手を触れないでください。  
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



**故障**

- ・メモリは、弊社純正品をお使いください。  
純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。
- ・メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。

**重要**

メモリは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(☞『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ってから10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

メモリを取り付けるときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

放電してから作業してください

メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。

取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。

メモリのシステムバスクロックにご注意ください

本パソコンに取り付けるメモリは、100MHz対応のメモリをお使いください。

メモリは何度も抜き差ししないでください

故障の原因となることがあります。

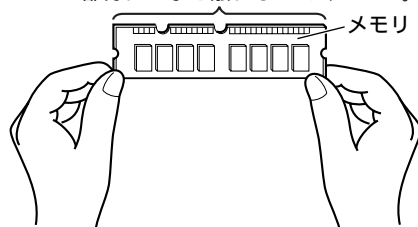
**アドバイス**

メモリの持ちかた

メモリは図のようにふちを持ってください。

金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

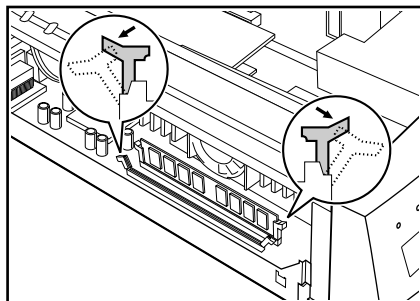
この部分には手を触れないでください。



**1** 「本体カバーを取り外す」(←P.68)をご覧ください、本体カバーを取り外します。

**2** メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。

メモリの取り付け場所については、「メモリはどこにある？」(←P.75)と「メモリの組み合わせ表」(←P.76)をご覧ください。

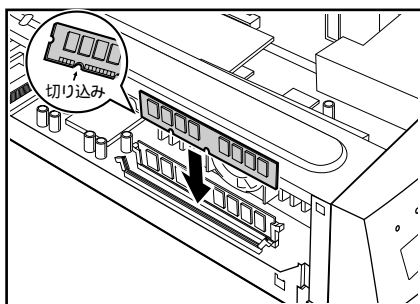


**3** メモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方をパソコン本体背面側に向けて、メモリスロットの上からまっすぐ下に差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



**重要**

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

無理に差し込むと故障の原因となります。

**4** 「本体カバーを取り付ける」(←P.69)をご覧ください、本体カバーを取り付けます。

メモリ容量を確認してください

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください。

必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

**1** パソコン本体の電源を入れます。

**2** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。



## アドバイス

電源を入れても何も表示されないときは

メモリが正しく取り付けられていないと、本パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。

その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。

メモリの取り外しかたについては、次ページの「メモリを交換する」をご覧ください。

### 3 (システム) をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

### 4 で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



メモリ容量

画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。

お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

### 5 「OK」をクリックします。

### 6 「コントロールパネル」ウィンドウ右上の (閉じるボタン) をクリックします。

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- ・増やしたメモリが本パソコンで使える種類のものか
  - ← 「取り付けられるメモリ」(P.75)
- ・メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか
  - ← 「メモリを取り付ける」(P.76)
- ・正しいスロットに取り付けられているか
  - ← 「メモリはどこにある？」(P.75)
- ・メモリを正しく組み合わせているか
  - ← 「メモリの組み合わせ表」(P.76)

3

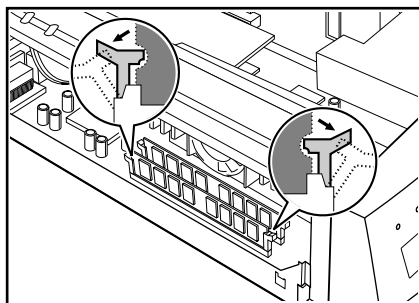
オプション機器を活用しよう！(メモリを増やす)

## メモ리를交換する

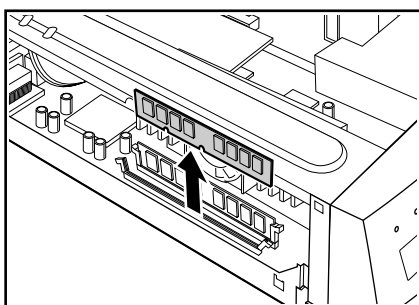
本パソコンに取り付けられているメモ리를取り外し、より大容量のメモりに交換することができます。

**1** 「本体カバーを取り外す」(←P.68)をご覧になり、本体カバーを取り外します。

**2** 取り外したいメモ리의メモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。  
メモ리가外れます。



**3** 메모리를上に引き抜きます。

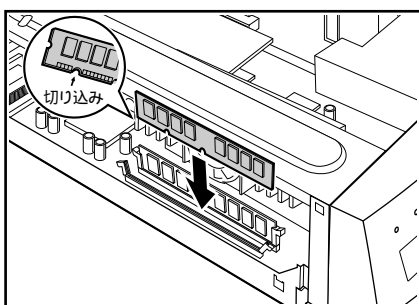


**4** 新しいメモ리를メモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方をパソコン本体背面側に向けて、メモリスロットの上からまっすぐ下に差し込んでください。

メモ리가メモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモ리가ロックされます。

必ず、メモ리가ロックされたことを確認してください。





**重要**

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

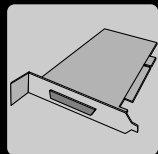
無理に差し込むと故障の原因となります。

## **5** 「本体カバーを取り付ける」(←P.69)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

このあと、「メモリ容量を確認してください」(←P.78)をご覧になり、交換したメモリが使える状態になっているかを確認してください。

**3**

オプション機器を活用しよう！(メモリを増やす)



# 5

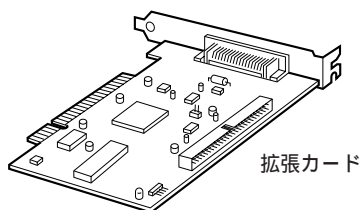
## 拡張カードを増設する

本パソコンにさまざまな機能を追加したいときは、拡張カードを取り付けます。ここでは、本パソコンに取り付けられる拡張カードにはどのようなものがあるか、拡張カードを取り付けるのに必要なものや、必要な作業について説明します。

### 拡張カードとは？

「拡張カード」は、パソコン本体内部に取り付けて、いろいろな機能を追加するためのものです。

たとえば、パソコンにビデオの画面を取り込んで編集したいとか、複数台のパソコン同士でネットワークを組んで使いたいといったときに拡張カードを増設して、それらの機能をパソコンに追加します。



拡張カード

### 代表的な拡張カードの種類

代表的な拡張カードには、以下のものがあります。

#### SCSIカード

SCSI規格のハードディスクやMO（光磁気ディスク）ドライブなどを接続するときに必要な拡張カードです。SCSI規格のハードディスクについて詳しくは「ハードディスクを増設する」（P.89）をご覧ください。

#### モデムカード

パソコン通信、インターネット、FAX送受信などを行うときに必要な拡張カードです。また、ボイス機能を備えているモデムカードは、留守番電話として使うこともできます（専用のソフトウェアが必要です）。

本パソコンには、ご購入時にあらかじめFAX / ボイスモデムカードが取り付けられています。

#### LANカード

複数台のパソコンやプリンタなどを接続し、データを転送したり共有したりするときに必要な拡張カードです。LANカードでパソコンやプリンタを接続するには、LANケーブルなどのLAN機材も必要となります。

#### ビデオキャプチャカード

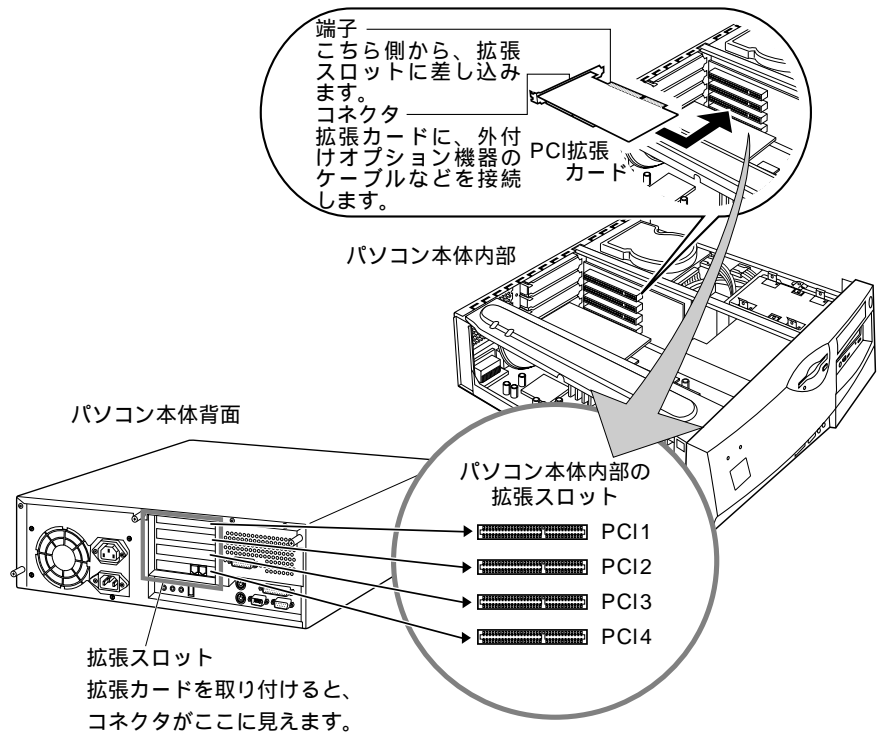
ビデオの画像をパソコンのディスプレイに表示したり、ビデオの画像をパソコンにデータとして取り込んで加工できるようにしたりする拡張カードです。カードによって、静止画だけを扱えるものと、静止画と動画の両方を扱えるものがあります。

## お使いになれる拡張カード

拡張カードには、いくつかの規格があります。本パソコンでは、「PCI(ピーシーアイ)」という規格に対応した拡張カードが使えます。

拡張カードは、パソコン本体内部の空いている「拡張スロット」に取り付けます。また、拡張カードの大きさには、大きく分けて「フルサイズ」と「ハーフサイズ」の2つがあります。一番上のスロットには、ハーフサイズの拡張カードのみ増設できます。その他のスロットには、フルサイズとハーフサイズのどちらでも増設できます。

拡張スロット	空き状況	取り付け可能なサイズ
PCI1	空き	ハーフサイズ
PCI2	空き	フルサイズ/ハーフサイズ
PCI3	空き	フルサイズ/ハーフサイズ
PCI4	FAX / ボイスモデムカードを搭載済み	フルサイズ/ハーフサイズ



拡張スロットは、上から順に PCI1、PCI2、PCI3、PCI4 となっています。

3

オプション機器を活用しよう！（拡張カードを増設する）

## 用語

### プラグアンドプレイ (Plug&Play/PnP)

プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、拡張カードやその他の機器を接続しただけで使えるようにします。Windows 98はプラグアンドプレイに対応しています。

## アドバイス

### お使いになる拡張カードによっては

お使いになる拡張カードが必要とするリソースが、本パソコンの空いているリソースに設定できない場合や、空きリソースがない場合は、拡張カードを取り付ける前に設定が必要です。詳しくは、「リソースを解放する」(←P.159)をご覧ください。

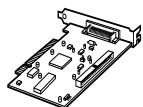
## 拡張カードを増設するには

拡張カードには、「プラグアンドプレイ」というしくみに対応しているものと、対応していないものがあります。本パソコンで使えるPCI規格の拡張カードはプラグアンドプレイに対応しています。

プラグアンドプレイに対応しているPCI規格の拡張カードを増設するときは、拡張カードを取り付けて、ドライバをインストールするだけで使えるようになります。

## 必要なものを用意する

拡張カードを増設するには、次のものがが必要です。

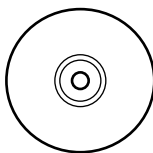


PCI規格の拡張カード

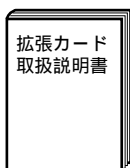
フロッピーディスク



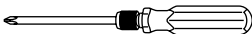
CD-ROM



拡張カードのドライバ  
拡張カードによっては、添付されていないこともあります。



拡張カードのマニュアル



プラスのドライバー

## 重要

### 弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の拡張カードを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

### DVD-ROMを再生するときは

『取扱説明書』に記載されているとおりに接続したディスプレイで再生してください。増設したグラフィックスカードに接続したディスプレイでは再生できません。

## 拡張カードを取り付ける

ここでは、拡張カードを取り付ける方法について説明します。



警告



**感電** 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電・火災または故障の原因となります。



**誤飲** 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。  
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



注意



**けが** 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



**けが** 基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。  
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



**故障** 拡張カードは、弊社純正品をお使いください。  
純正品以外の拡張カードをお使いになると、故障の原因となることがあります。



### アドバイス

#### SCSI カードを取り付けるときは

SCSI カードの SCSI ID (P.102) は 7 番に設定してください(通常、SCSI カードはあらかじめ 7 番に設定されています)。詳しくは、SCSI カードのマニュアルでご確認ください。

#### グラフィックスカードを取り付けるときは

取り付ける前に、「アドバイス」(P.88) をご覧になり設定してください。



### 重要

#### 拡張カードは、Windows 98 のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows 98 のセットアップ(『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows 98 のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

#### 電源を切ったあと 10 分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

拡張カードを取り付けるときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと 10 分ほど待ってから、作業を始めてください。

#### 拡張カードはしっかりと差し込んでください

拡張カードを取り付けるときは、拡張カードが拡張スロットに完全に差し込まれていることを確認してください。

完全に差し込まれていないと、拡張カードのドライバのインストールが正常に行われなかったり、故障の原因となることがあります。

3

オプション機器を活用しよう！(拡張カードを増設する)

**1** 「本体カバーを取り外す」(←P.68)をご覧になり、本体カバーを取り外します。

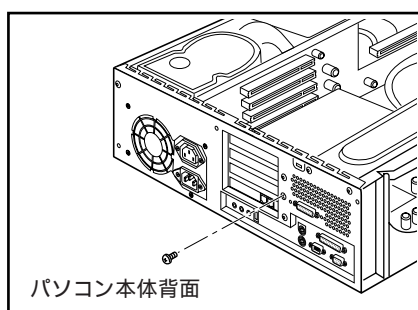
**2** ▶ フルサイズの拡張カードを取り付ける場合

←「マザーボードを取り外す」(P.71)をご覧になり、側面の金具とマザーボードを取り外します。

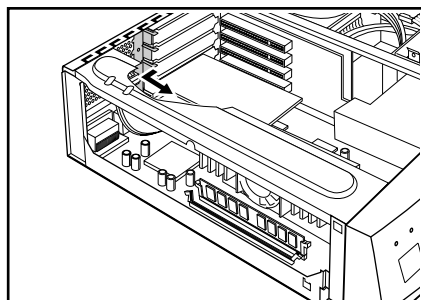
▶ ハーフサイズの拡張カードを取り付ける場合

←「マザーボードを取り外す」の手順1(P.71)をご覧になり、側面の金具を取り外します。

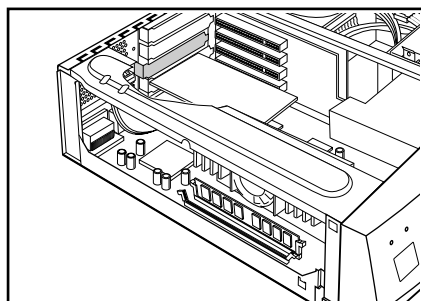
**3** 本体背面にあるネジ(1カ所)を外します。



**4** 金具を取り外します。  
矢印の方向に取り外します。



**5** スロットカバーを取り外します。



(イラストは、ハーフサイズの拡張カードを取り付ける場合です)

## アドバイス

スロットカバーは保管してください

取り外したスロットカバーは捨てずに保管してください。拡張カードを取り外した場合は、スロットカバーを取り付けてください。

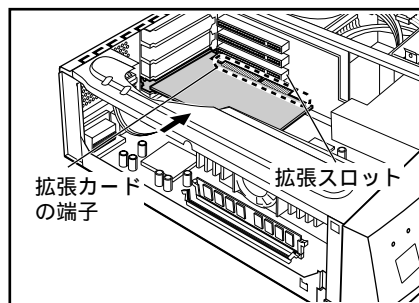


スロットカバー

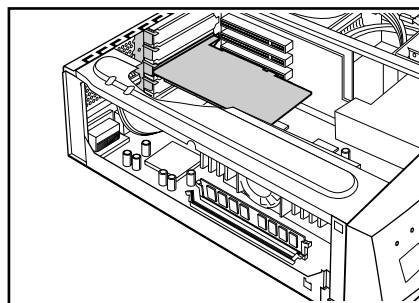


## 6 拡張スロットに、拡張カードを差し込みます。

拡張カードの端子を、拡張スロットの奥まで完全に差し込んでください。

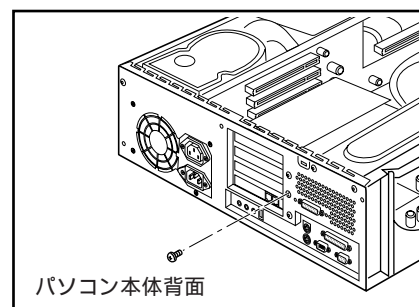


## 7 手順4で外した金具で、拡張カードを固定します。



## 8 金具を固定します。

手順3で外した本体背面のネジ（1カ所）で固定します。



## 9 ▶ フルサイズの拡張カードを取り付けた場合

☞ 「マザーボードを取り付ける」(P.72) をご覧になり、マザーボードと側面の金具を取り付けます。

## ▶ ハーフサイズの拡張カードを取り付けた場合

☞ 「マザーボードを取り付ける」の手順5(P.73) をご覧になり、側面の金具を取り付けます。

## 10 「本体カバーを取り付ける」(☞P.69) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

## アドバイス

「コンピュータを終了しますか?」というメッセージが表示されたときは

「はい」をクリックしてください。パソコン本体の電源が切れます。

10秒ほど待つてから、もう一度パソコン本体の電源を入れてください。ドライバのインストールが完了します。

## 11 パソコン本体の電源を入れ、拡張カードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。または、自動的にドライバがインストールされる場合もあります。

拡張カードにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合、パソコン本体の電源を入れると、「フロッピーディスクやCD-ROMをセットしてください」というメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従ってフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットし、ドライバをインストールしてください。

### 重要

#### 拡張カードの増設後に起動できなくなることがあります

本パソコンでは、IRQ(割り込み要求)(←P.158)の空きが少ないため、拡張カードを増設するとIRQの割り当て処理に時間がかかり、起動が遅くなることがあります。


また、場合によっては、起動中に本パソコンが停止してしまうことがあります。

そのときはパソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切ったあと、「IRQ(割り込み要求)が不足したときは」(←P.171)をご覧ください。

## アドバイス

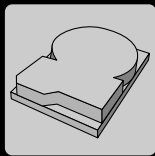
#### グラフィックスカードを取り付けるときは

グラフィックスカードを取り付ける場合は、取り付ける前に「ATI ディスプレイドライバ」を以下の手順で削除してください。ただし、Windows98でマルチモニタ機能を使う場合は、「複数のディスプレイを使う」(←P.124)をご覧ください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (アプリケーションの追加と削除)をクリックします。  
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ATI ディスプレイドライバ」をクリックします。
- 4 「追加と削除」をクリックします。  
「ATI Uninstall」ウィンドウが表示されます。
- 5 「はい」をクリックします。
- 6 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 7 BIOS セットアップを起動します。  
詳しくは、「BIOS セットアップを起動する」(←P.129)をご覧ください。
- 8 「詳細」メニューの「ディスプレイ設定」内にある「プライマリディスプレイ」の設定を「AGP」から「PCI」に変更します。
- 9 設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。  
詳しくは、「BIOS セットアップを終了する」(←P.132)をご覧ください。

#### グラフィックスカードを取り外したときは

本パソコンにあらかじめ接続されていたディスプレイの画面が正しく表示されない場合があります。その場合は、「ディスプレイドライバをインストールする」(←P.162)をご覧ください。



# 6

## ハードディスクを増設する

本パソコンにはあらかじめIDE規格のハードディスクが1台内蔵されています。さらに、内蔵ハードディスクをもう2台と、外付けハードディスク（SCSI規格）を増設できます。

### ハードディスクを取り付けるには

パソコンを使い込んでいくうちに、アプリケーションをたくさんインストールしたり、容量の大きな画像データなどをたくさん保存したりして、あらかじめ取り付けられているハードディスクの空き容量が少なくなることがあります。

そのようなときには、ファイルやデータを整理して空き容量を増やすのも一つの方法ですが、別売りのハードディスクを増設して、保存できる容量を増やすという方法もあります。

ここでは、本パソコンに取り付けられるハードディスクにはどのようなものがあるか、ハードディスクを取り付けるのに必要なもの、必要な作業について説明します。

### お使いになれるハードディスク

ハードディスクにはパソコン本体に内蔵するものと、外付けのものがあります。また、IDE（アイディーイー）とSCSI（スカジー）という2つの規格があります。本パソコンでは、IDE規格またはSCSI規格の内蔵ハードディスクを2台と、SCSI規格の外付けハードディスクを増設できます。

内蔵ハードディスクは、電源をパソコン本体からとるため、コンセントを必要とせず、省スペースというメリットがあります。

取り付け場所	規格	台数
内蔵	IDE	どちらか2台までまたは1台ずつ
	SCSI	
外付け	SCSI	1台以上（SCSIカードの仕様による）

### 用語

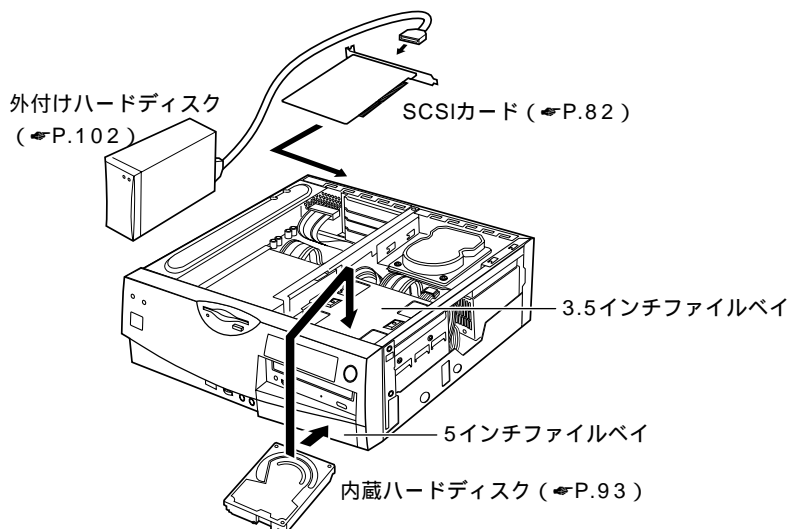
#### IDE（アイディーイー）

ハードディスクやDVD-ROMドライブなどの内蔵ドライブの規格のひとつです。

マザーボード上にコネクタがあるため、拡張カードなどを使わずに、内蔵ドライブを接続できます。

#### SCSI（スカジー）

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、ハードディスクのほかに、スキャナやMOドライブなどがあります。

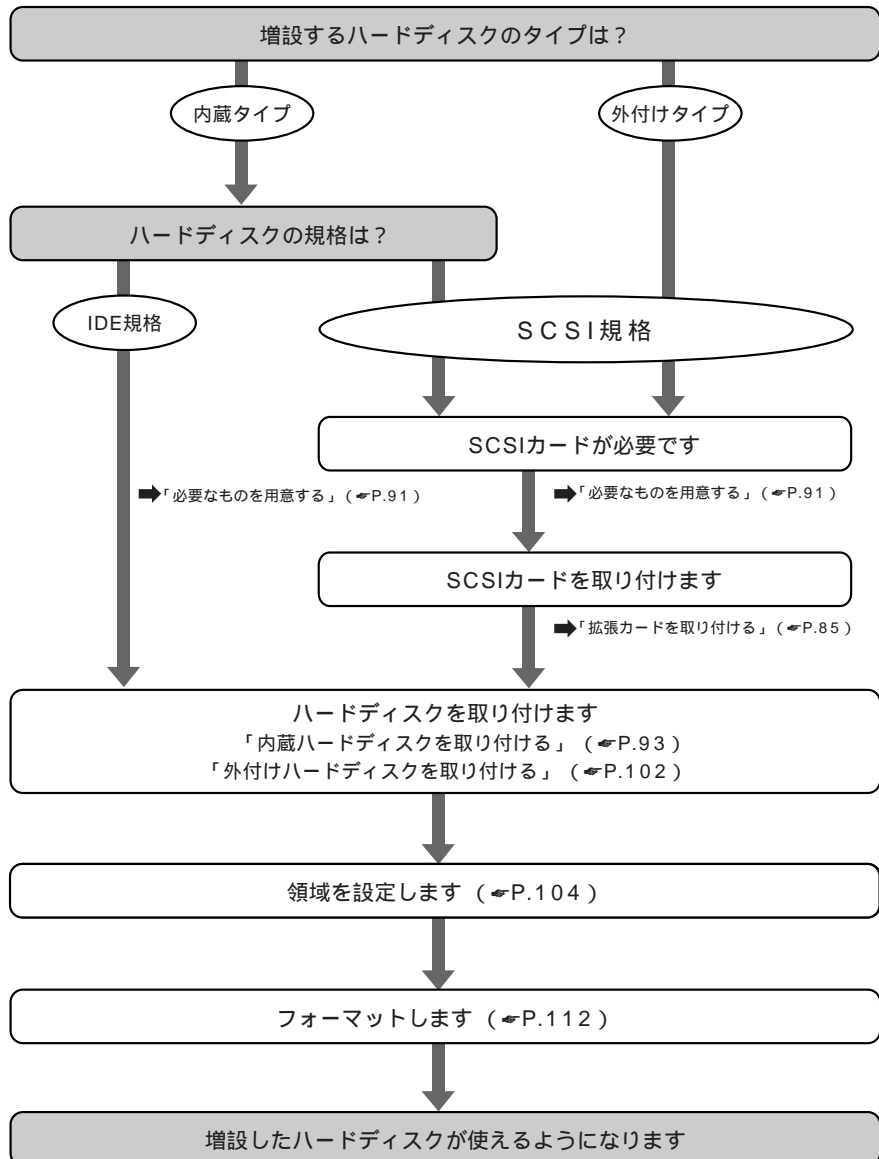


# 3

オプション機器を活用しよう！（ハードディスクを増設する）

## ハードディスクを増設するまで

ハードディスクを増設するときは、次の手順で作業を行います。  
増設するハードディスクが内蔵か外付けか、またIDE規格かSCSI規格かによって、手順が異なります。



## 必要なものを用意する

IDE規格の内蔵ハードディスクと、SCSI規格の内蔵／外付けハードディスクでは、必要なものが異なります。

### 重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

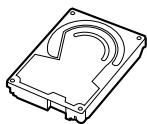
純正品以外のハードディスク、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗を取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

### お使いになれる内蔵ハードディスクのサイズ

本パソコンには、3.5インチと5インチの内蔵ハードディスクが増設できます。

また、本パソコンで増設できる内蔵ハードディスクは、「1インチハイト」と呼ばれる、高さが約25mmまでのものです。「ハーフハイト」と呼ばれる約41mmの高さの内蔵ハードディスクは増設できません。

## IDE規格の内蔵ハードディスクを増設する場合



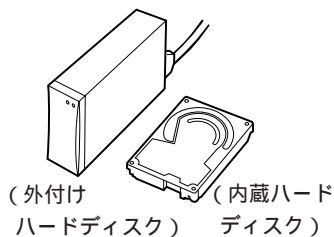
必要なものは増設するハードディスク本体とハードディスクのマニュアルのみです。

ケーブル類は、本パソコンに内蔵されているものを使います。

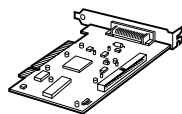
取り付け方法は、「内蔵ハードディスクを取り付ける」(P.93)をご覧ください。

## SCSI規格の内蔵／外付けハードディスクを増設する場合

SCSI規格のハードディスクをお使いになる場合は、次のものがが必要です。

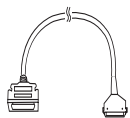


### SCSI規格のハードディスク



### SCSIカード (P.82)

SCSI規格のハードディスクを取り付けるときに必要な拡張カードです。



(外付けハードディスク用)



(内蔵ハードディスク用)

### SCSI ケーブル

SCSIカードとハードディスクをつなぐために必要なケーブルです。

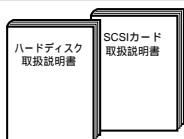
SCSI規格のコネクタには数種類あります。ご使用になる SCSI カードとハードディスクに合ったものをよくご確認のうえご購入ください。



### 終端抵抗 (ターミネータ)

電気信号が、SCSIケーブルを正しく伝わるようにするためのものです。詳しくは次の「コラム」をご覧ください。

終端抵抗は3つ以上、取り付けたり有効にしたりしないでください。



### ハードディスクと SCSI カードのマニュアル



### 終端抵抗 (ターミネータ)

コラム

SCSI 規格のオプション機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。

たとえば、SCSI 規格の外付けハードディスクを 1 台増設した場合は、SCSI カードと外付けハードディスクが両端となります。

SCSI カードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。ただし、SCSI カード上のジャンプスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要があるものもあります。

外付けハードディスクには、別売りの終端抵抗を取り付けます。SCSI 規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。

また、SCSI 規格の内蔵ハードディスクには、通常、終端抵抗が内蔵されています。内蔵ハードディスク上のディップスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要があるものもあります。

なお、SCSI 規格の内蔵ハードディスクと外付けハードディスクの両方を接続した場合は、SCSI 規格の内蔵ハードディスクと外付けハードディスクが、両端の機器となります。

- ▶ 内蔵ハードディスクを取り付ける場合 ◀ 次ページの「内蔵ハードディスクを取り付ける」をご覧ください。
- ▶ 外付けハードディスクを取り付ける場合 ◀ 「外付けハードディスクを取り付ける」(P.102)をご覧ください。

## 内蔵ハードディスクを取り付ける

内蔵ハードディスクは、パソコン本体内部の3.5インチファイルベイまたは5インチファイルベイに取り付けます。

ここでは、IDE規格の内蔵ハードディスクの取り付けかたについて説明します。SCSI規格の内蔵ハードディスクの取り付けかたについては、「SCSI規格の内蔵ハードディスクを増設するときは」(←P.101)をご覧ください。



**感電** ハードディスクの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電・火災または故障の原因となります。



**誤飲** 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。  
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



**故障** ・ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因となることがあります。  
・ハードディスクは、弊社純正品をお使いください。  
純正品以外のハードディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。



**けが** ハードディスクの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



**けが** 基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。  
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

### 重要

#### 電源を切ってから10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

内蔵ハードディスクを取り付けるときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業をはじめてください。

#### 内蔵ハードディスクは、Windows98のセットアップ終了後に取り付け てください

Windows98のセットアップ(←『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

#### 衝撃を与えないでください

内蔵ハードディスクは精密機器です。衝撃を与えると壊れるおそれがあります。取り付けるときは、落としたり倒したりしないよう十分ご注意ください。

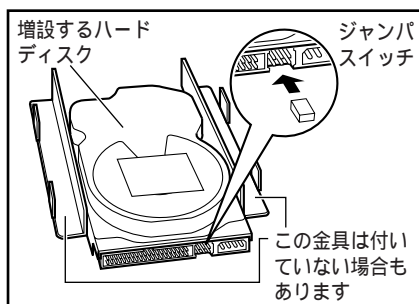
また、内蔵ハードディスクのマニュアルに記載されている取り扱い上の注意をよくご覧になってから、パソコン本体に取り付けてください。

## 3.5 インチファイルベイに取り付ける

- 1 「本体カバーを取り外す」(←P.68)をご覧になり、本体カバーを取り外します。

- 2 増設するハードディスクのジャンプスイッチが「ケーブルセレクト」に設定されているかを確認します。

弊社製のハードディスクは、ご購入時に「ケーブルセレクト」(←P.99)に設定されています。「ケーブルセレクト」に設定できないハードディスクの場合は、「スレーブ」(←P.99)に設定してください。ジャンプスイッチの設定が正しく行われていないと、増設したハードディスクが本パソコンに正しく認識されることがあります。設定方法については、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



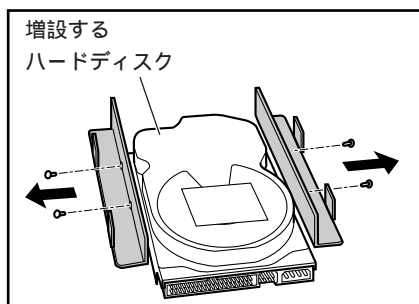
(イラストは一例です)

- 3 増設するハードディスクの両側に金具が付いている場合は、金具を取り外します。

ハードディスクを固定しているネジ(4カ所)を外すと、金具が取り外せます。

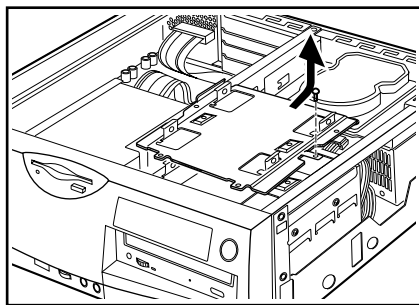
ハードディスクによっては、この金具が取り付けられていないものもあります。

詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



- 4 パソコン本体内部の、3.5 インチファイルベイの取り付け金具を取り外します。

ネジ(1カ所)を外して、パソコン本体の背面側にスライドさせながら持ち上げてください。



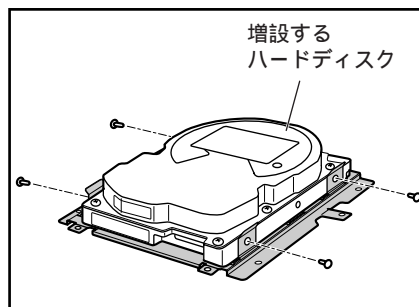


## 5 増設するハードディスクを、手順4で外した取り付け金具に取り付けます。

ハードディスクの部品面に取り付け金具を取り付けます。

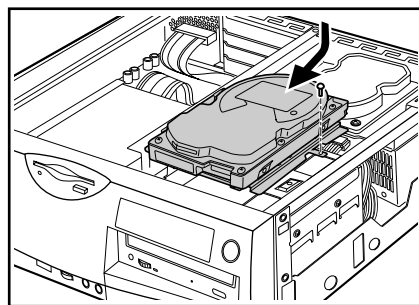
手順3で外したネジ、またはハードディスクに添付されているネジ(4カ所)で固定してください。

ハードディスクと金具を取り付けるときは、インチネジ(青色のネジ)をお使いください。



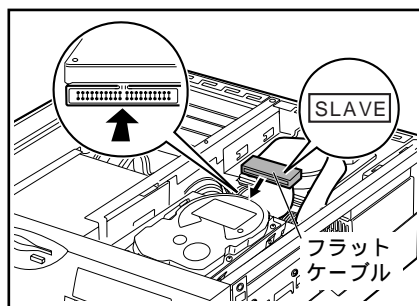
## 6 3.5 インチファイルベイに、ハードディスクを取り付けます。

ハードディスクをスライドさせて取り付けます。手順4で外したネジ(1カ所)で固定してください。

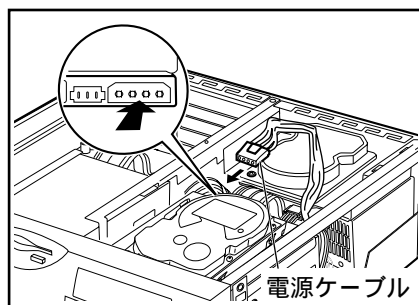


## 7 ハードディスクのコネクタに、フラットケーブルを接続します。

あらかじめ取り付けられているハードディスクのフラットケーブルの中間に「SLAVE」と書かれている黒いコネクタがあります。そのコネクタを増設するハードディスクのコネクタに差し込んでください。



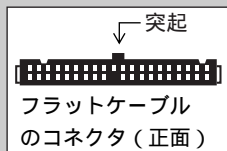
## 8 ハードディスクに、電源ケーブル(白いコネクタ)を接続します。



### アドバイス

コネクタの切り込みを合わせてください

フラットケーブルのコネクタにある突起とハードディスクのコネクタにある切り込みとを合わせて差し込んでください。



### アドバイス

コネクタの形を合わせてください

電源ケーブルのコネクタと、ハードディスクのコネクタは正面から見たと六角形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。

- 9** 「本体カバーを取り付ける」(←P.69)をご覧ください、本体カバーを取り付けます。

続いて、領域の設定を行います。「領域を設定する」(←P.104)をご覧ください。

## 5 インチファイルベイに取り付ける

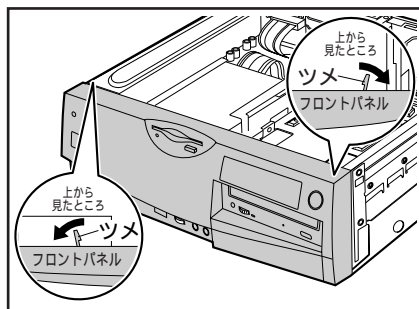
### 重要

5 インチファイルベイに取り付けるときは

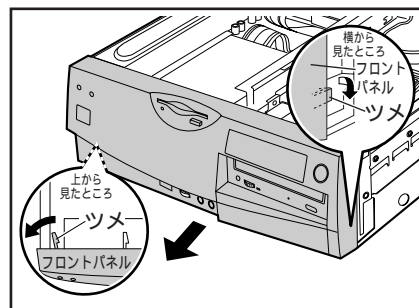
取り付けの前に「アドバイス」(←P.100)をご覧ください設定してください。

- 1** 「本体カバーを取り外す」(←P.68)をご覧ください、本体カバーを取り外します。

- 2** フロントパネル裏側の上側のツメ(2カ所)を外します。

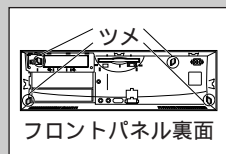


- 3** フロントパネル裏側の下側のツメ(2カ所)を外してフロントパネルを取り外します。



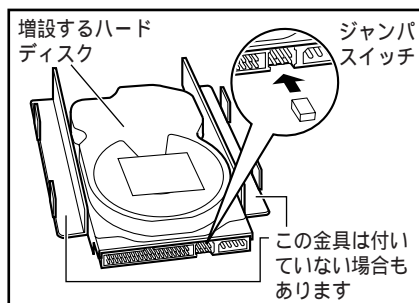
### アドバイス

フロントパネルのツメは4カ所あります。フロントパネルのツメは右図の4カ所あります。4カ所すべてのツメを外すと、フロントパネルが取り外せます。



#### 4 増設するハードディスクのジャンパスイッチが「ケーブルセレクト」に設定されているかを確認します。

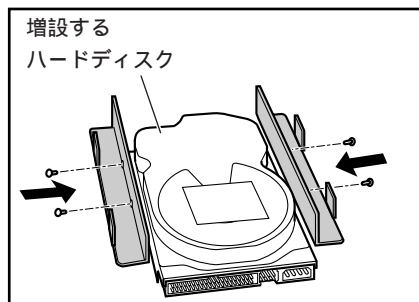
弊社製のハードディスクは、ご購入時に「ケーブルセレクト」(←P.99)に設定されています。「ケーブルセレクト」に設定できないハードディスクの場合は、「マスター」(←P.99)に設定してください。ジャンパスイッチの設定が正しく行われていないと、増設したハードディスクが本パソコンに正しく認識されないことがあります。設定方法について詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



(イラストは一例です)

#### 5 増設するハードディスクの両側に金具を取り付けます。

ハードディスクに添付されている金具を、添付されているネジ(4カ所)で固定します。ハードディスクに金具を取り付けるときは、インチネジ(青色のネジ)をお使いください。ハードディスクによっては、この金具が取り付けられているものもあります。詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



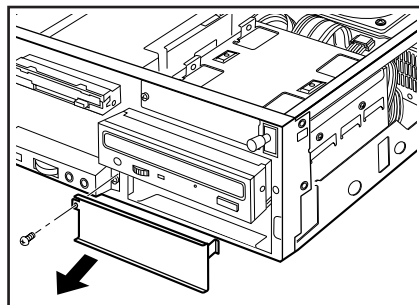
#### アドバイス

かくし板は保管してください

取り外したかくし板は捨てずに保管してください。

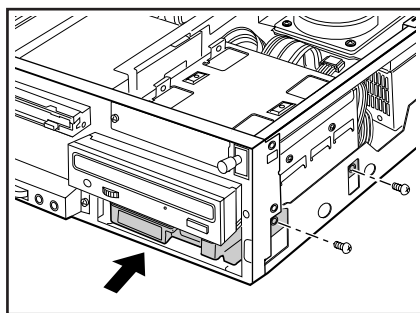
#### 6 パソコン本体のかくし板を取り外します。

左側のネジ(1カ所)を取り外します。



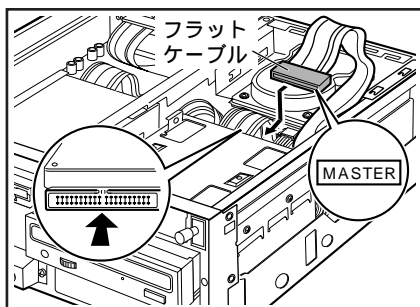
## 7 ハードディスクを取り付けます。

ネジ穴の位置が合うまでスライドさせ、ハードディスクに添付されているネジ（2カ所）で固定します。



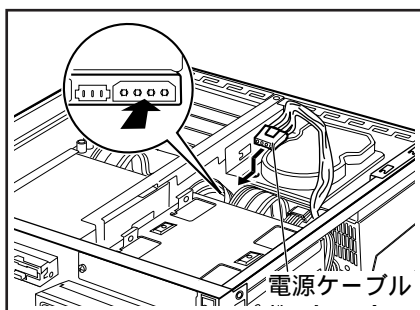
## 8 ハードディスクのコネクタに、フラットケーブルを接続します。

DVD-ROMドライブに接続されている「MASTER」と書かれている黒いコネクタを外します。それを増設したハードディスクのコネクタに差し込んでください。DVD-ROMドライブには、同じフラットケーブルの「SLAVE」と書かれているほうのコネクタを差し込んでください。



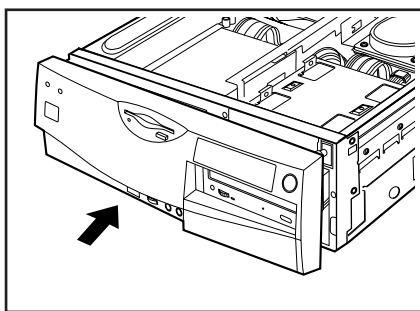
## 9 ハードディスクに、電源ケーブルを接続します。

パソコン本体内部にある電源ケーブル（白いコネクタ）のうち、使われていない1本を増設したハードディスクのコネクタに差し込んでください。



## 10 フロントパネルを取り付けます。

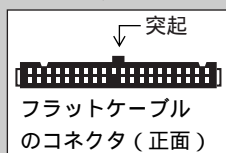
パソコン本体前面から、カチッと音がするまでまっすぐにはめ込みます。



### アドバイス

コネクタの切り込みを合わせてください

フラットケーブルのコネクタにある突起とハードディスクのコネクタにある切り込みとを合わせて差し込んでください。



### アドバイス

コネクタの形を合わせてください

電源ケーブルのコネクタと、ハードディスクのコネクタは正面から見ると六角形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。

## 11 「本体カバーを取り付ける」(P.69)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

続いて、領域の設定を行います。「領域を設定する」(P.104)をご覧ください。



### マスター/スレーブ、ケーブルセレクトについて

コラム

#### マスター/スレーブとは

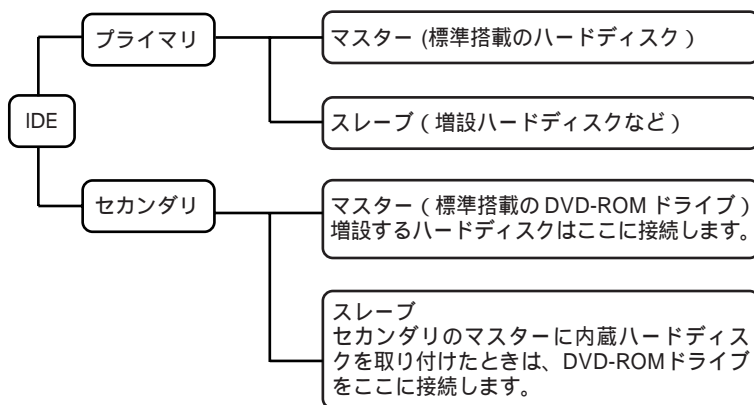
IDE規格では、規格に対応した内蔵ハードディスクやCD-ROMドライブなどを2系統で各2台、合計4台まで接続できます。

2系統をそれぞれ、プライマリ、セカンダリと呼び、各系統の1台目をマスター、2台目をスレーブとして区別します。

本パソコンにあらかじめ取り付けられているハードディスクは、「ケーブルセレクト」(以下参照)に設定され、プライマリのマスターとして認識されています。

増設するハードディスクは、プライマリのスレーブとなります。

本パソコンにあらかじめ取り付けられているDVD-ROMドライブは、セカンダリのマスターに接続されています。セカンダリにハードディスクを増設する場合は、増設するハードディスクをマスターに、DVD-ROMドライブをスレーブに接続し直してください。ATAデバイス(ハードディスク)とATAPIデバイス(MO、CD-ROM、DVD-ROMなど)が1つの系統に接続される場合は、ATAデバイスは必ずマスターに、ATAPIデバイスはスレーブに接続するようにします。



#### ケーブルセレクトとは

本パソコンは「ケーブルセレクト」という機能を備えています。ケーブルセレクトとは、IDE規格のハードディスクをケーブルの指定の場所に接続するだけで、取り付けたハードディスクがマスターであるかスレーブであるかを、本パソコンが自動的に認識するというものです。

増設するハードディスクをジャンプスイッチでケーブルセレクトに設定し、本パソコンの内部にあるハードディスク用フラットケーブルの空いているコネクタに接続するだけで、そのハードディスクはスレーブとして使うことができます。

3



オプション機器を活用しよう！(ハードディスクを増設する)



## アドバイス

### IDE デバイスを取り付けるときの注意

IDEのセカンダリのマスタにあらかじめ接続されていたDVD-ROMドライブを、セカンダリのスレーブに接続し直すと、接続したデバイスが認識されないことがあります。取り付ける前に、必ず次の設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「CD-ROM」の  をクリックし、「MATSHITA DVD-ROM SR-8584A」をクリックします。
- 4 「削除」をクリックします。
- 5 「警告：このデバイスをシステムから削除しようとしています。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
- 6 「今日はおしまい。電源を切るには？」(←P.15) をご覧になり、本パソコンの電源を切り、増設するデバイスを取り付けてください。

## SCSI 規格の内蔵ハードディスクを増設するときは

以下の手順に従って取り付けてください。

内蔵ハードディスクは精密機器です。衝撃を与えると壊れるおそれがありますので、取り付けるときは落としたり倒したりしないように十分ご注意ください。

### 1 SCSI 規格の内蔵ハードディスクと SCSI カードの SCSI ID (←P.102) を設定します。

終端抵抗 (ターミネータ) の設定が必要な場合もあります。詳しくは、内蔵ハードディスクと SCSI カードのマニュアルをご覧ください。

### 2 「本体カバーを取り外す」(←P.68) をご覧になり、本体カバーを取り外します。

### 3 SCSI カードを取り付けます。

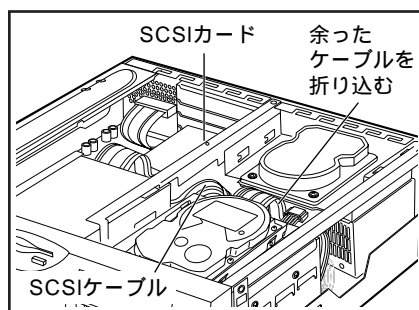
詳しくは、「拡張カードを増設する」(←P.82) をご覧ください。

### 4 「内蔵ハードディスクを取り付ける」の手順 3 ~ 6 (←P.94) をご覧になり、内蔵ハードディスクを取り付けます。

### 5 SCSI カードに添付されているフラットケーブルで、増設した内蔵ハードディスクと SCSI カードを接続します。

フラットケーブルがプリント配線板などに接触しないように、余ったケーブルをパソコン本体内部に折り込んでください。

フラットケーブルがプリント配線板に接触すると、本パソコンが故障するおそれがあります。



### 6 「内蔵ハードディスクを取り付ける」の手順 8 (←P.95) をご覧になり、増設した内蔵ハードディスクに電源ケーブルを接続します。

### 7 「本体カバーを取り付ける」(←P.69) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

続いて、領域の設定を行います。「領域を設定する」(←P.104) をご覧ください。

## 外付けハードディスクを取り付ける

ここでは、SCSI規格の外付けハードディスクの取り付けかたについて説明します。



**感電** ハードディスクの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電の原因となります。

**誤飲** 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。  
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



**故障** ・ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。  
・ハードディスクは、弊社純正品をお使いください。  
純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

**けが** ハードディスクの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



SCSIカードと外付けハードディスクは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

### 1 ハードディスクとSCSIカードのSCSI IDを設定します。

SCSI規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI IDは0から7番までの番号があります。

SCSIカードには、通常7番が設定されています。SCSI IDが設定されていないSCSIカードをお使いになるときは、SCSI IDを7番に設定してください。

ハードディスクにはその他の番号を設定してください。

設定のしかたについては、SCSIカードとハードディスクのマニュアルをご覧ください。

### 2 SCSIカードを取り付けます。

取り付けかたなどについて詳しくは、「拡張カードを増設する」(P.82)をご覧ください。

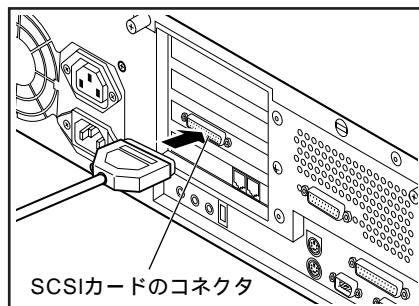


## アドバイス

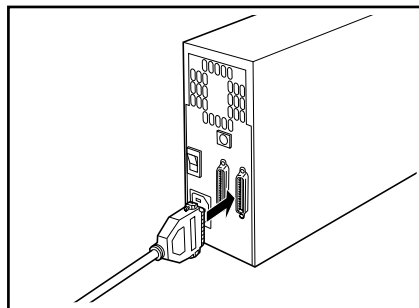
コネクタに IN/OUT の指定がないときは

ハードディスクによってはコネクタに IN/OUT の指定がないものもあります。そのときは、どちら側に接続してもかまいません。

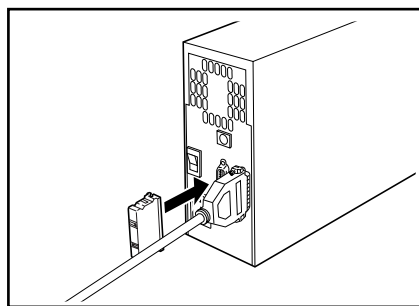
- 3** SCSI カードのコネクタに SCSI ケーブルを接続します。SCSI ケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体背面にある SCSI カードのコネクタに接続します。



- 4** ハードディスクの IN コネクタに、SCSI ケーブルのもう片方のコネクタを接続します。



- 5** ハードディスクに終端抵抗を取り付けます。  
ハードディスクの OUT コネクタに終端抵抗を取り付けます。



## 重要

**終端抵抗は 3 つ以上取り付けないでください**

終端抵抗は、SCSI カードおよび末端となる機器にのみ取り付けてください (SCSI カードには通常、終端抵抗が内蔵されています)。

すでに SCSI 規格の内蔵オプション機器を増設していた場合は、SCSI カードの終端抵抗を無効にする必要がある場合があります。詳しくは、SCSI カードのマニュアルをご覧ください。

終端抵抗を 3 つ以上、取り付けたり有効にしたりすると、故障の原因となることがあります。

- 6** ハードディスクに電源ケーブルを接続します。  
ハードディスクに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。

**3**

オプション機器を活用しよう！ (ハードディスクを増設する)

## 7 本パソコンと、接続されている機器、接続したハードディスクの電源プラグをコンセントに差し込みます。

続いて、領域の設定を行います。次の「領域を設定する」をご覧ください。

### 領域を設定する

初めてハードディスクを取り付けたときは、取り付けたあとにハードディスクの領域を設定します。領域の設定は、増設したハードディスクを使えるようにするための作業です。

また、この作業では、増設したハードディスクをいくつかの領域に分けることもできます。

領域を分けると、それぞれの領域が1つ1つのドライブになります。たとえば、増設したハードディスクを2つの領域に分けると、2つのドライブができ、1台のハードディスクが2台のハードディスクであるかのように扱えます。

増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかは、使いやすいほうを選んでください。

ここでは、ハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。使っていたハードディスクの領域を設定し直す場合は、「領域を削除する」(☞P.109)をご覧ください。領域を削除してからこの作業を行ってください。

#### 重要

##### ドライブ名が変更されます

ハードディスクを増設して本書の手順に従って領域の設定を行うと、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成する場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更されます。DVD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。詳しくは、「コラム」(☞P.111)をご覧ください。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

##### 保存されていたデータが失われます

ハードディスクの領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

#### アドバイス

##### 初めに外付けハードディスクの電源を入れてください

外付けハードディスクを増設したときは、パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。

##### 常駐しているアプリケーションを終了してください

領域を設定する前に、常駐しているアプリケーション(「FM便利ツール」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション)やスクリーンセーバーを終了させてください。



## アドバイス

起動途中でエラーメッセージが表示される場合

本パソコンのご購入時に搭載されているハードディスクのフラットケーブルのコネクタが抜けていると、起動途中でエラーメッセージが表示されたまま、本パソコンが停止してしまいます。その場合は、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切ったあと、フラットケーブルのコネクタ(パソコン本体側とハードディスク側の両方)がしっかり差し込まれているか確認してください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
- 3 C:¥WINDOWS> に続けて `fdisk` と入力して、**[Enter]** を押します。

```
Microsoft(R) Windows 98
(C) Copyright Microsoft Corp 1981-1998.
```

```
C:¥WINDOWS>fdisk
```

- 4 **[Y]** を押し、**[Enter]** を押します。

512MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません(Windows 95とWindows NTの特定のバージョン以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む)。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N) ..... ? [Y]

- 5 **[5]** を押し、「5. 現在のハードディスクドライブを変更」を選び、**[Enter]** を押します。

### FDISKオプション

現在のハードディスク: 1

次のうちからどれを選んでください:

1. MS-DOS 領域または論理MS-DOS ドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれを選んでください: [5]

# 3

オプション機器を活用しよう！(ハードディスクを増設する)



## アドバイス

### 「5.現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは



領域の設定を中断し、次のことを確認してください。領域の設定を中断するには、手順16、18、19（←P.108）を行ったあと、「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。

- ・ハードディスクが正しく接続されているか
- ・外付けハードディスクの場合は、電源が入っているか

確認したあと、再び手順1（←P.105）から操作し直してください。

SCSI規格のハードディスクを増設した場合で、上記のことを確認しても「5.現在のハードディスクドライブを変更」が表示されないときは、増設したハードディスクをWindows98が認識していない可能性があります。

以下の手順に従って確認してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 （システム）をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「ディスクドライブ」の  をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。  
「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のものが増設したハードディスクです。
- 4 「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 5 「オプション」欄の「Int13ユニット」が  になっていることを確認し、「OK」をクリックします。  
 になっているときは、 をクリックして  にし、「OK」をクリックしてください。
- 6 「OK」または「閉じる」をクリックします。  
「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックして本パソコンを再起動してください。
- 7 再び手順2（←P.105）から操作し直します。

### ドライブ名やハードディスクの番号は異なる場合があります

ハードディスクなどのオプション機器を増設する台数によって、以降の画面や、手順のドライブ名、ハードディスクの番号は異なる場合があります。

## 6 を押して増設したハードディスクを選び、 を押します。

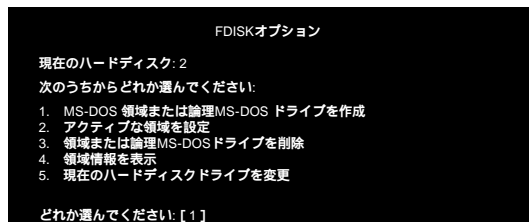
ディスク1は、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスクです。

ディスク2が増設したハードディスクです。

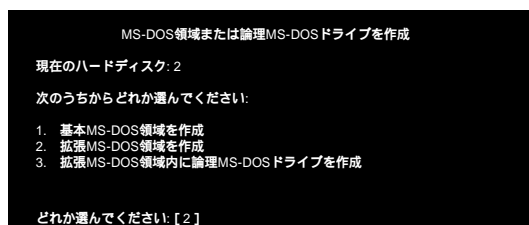
現在のハードディスクドライブを変更				
ディスク	Drv	Mバイト	空き	使用
1		xxxx	1	100%
	C:	xxxx		
	D:	xxxx		
2		xxxx	xxxx	%

(1Mバイト=1048576バイト)  
ハードディスクドライブの番号を入力してください(1-2)..... [2]

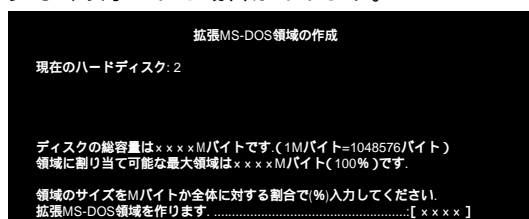
- 7** 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、**①**を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]**を押します。



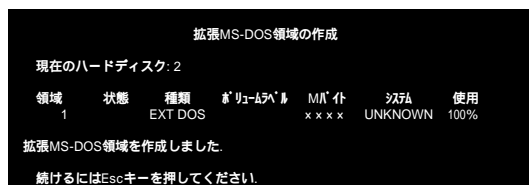
- 8** **②**を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]**を押します。



- 9** 「ディスクの総容量は ... 拡張 MS-DOS 領域を作ります .」というメッセージが表示されたら、そのまま**[Enter]**を押します。増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。



- 10** 「拡張 MS-DOS 領域を作成しました .」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。



- 11** ここからは、増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、進む手順が異なります。

- ▶ 領域を分けない場合 ⇐ 手順 12 へ進みます。
- ▶ 領域を分ける場合 ⇐ 手順 13 へ進みます。

## 領域を分けない場合

**12** そのまま **[Enter]** を押して、手順 15 へ進みます。

```
拡張MS-DOS領域内に論理MS-DOSドライブを作成
論理ドライブは定義されていません。
拡張MS-DOS領域は全部でxxxxMバイトです。(1Mバイト=1048576バイト)
論理ドライブに割り当て可能な最大領域はxxxxMバイトです。(100%)
論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。[xxxx]
```

## 領域を分ける場合

**13** 1つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押し  
ます。

```
拡張MS-DOS領域内に論理MS-DOSドライブを作成
論理ドライブは定義されていません。
拡張MS-DOS領域は全部でxxxxMバイトです。(1Mバイト=1048576バイト)
論理ドライブに割り当て可能な最大領域はxxxxMバイトです。(xx%)
論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。[xxxx]
```

**14** 「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または  
追加されました。」というメッセージが表示されたら、2 つ目の領域  
に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押し  
ます。  
この手順を繰り返すと、さらに領域を分けられます。  
表示されている数値を確認し、そのまま **[Enter]** を押してもかまいません。表  
示されている数値が、分けた領域の容量となります。

```
拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成
Drv # ユーザー Mnt 点 使用
E: XXXX UNKNOWN XX%
拡張MS-DOS領域は全部でxxxxMバイトです。(1Mバイト=1048576バイト)
論理ドライブに割り当て可能な最大領域はxxxxMバイトです。(XX%)
論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。[xxxx]
論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。
```

**15** 「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り  
当てられています。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押し  
ます。

**16** **[Esc]** を押し  
ます。

**17** 「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」とい  
うメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押し  
ます。

```
変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。
変更または作成したドライブは、すべて再起動後にフォーマット
する必要があります。
再起動する前にWindowsを終了してください。
```

## アドバイス

容量を入力するときに

単位は「MB」または「%」  
で入力してください。  
「MB」で指定する場合は  
「XXXX」と数字のみを入  
力します。「%」で指定する  
場合は、「XX%」と単位を  
付けて入力します。

画面に表示されている「割  
り当て可能な最大領域」の  
数値を目安に、それ以下の  
数値を入力してください。  
「MB」で指定した場合は、  
入力した値と画面に表示さ  
れる値が若干異なることが  
あります。

**18** 「C:¥WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、**exit** と入力し、**[Enter]** を押してください。

**19** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

**20** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

続いて、増設したハードディスクをフォーマットします。「フォーマットする」(←P.112) をご覧ください。

#### 領域を削除する

増設したハードディスクの領域は分け直すことができます。

たとえば、本書の手順に従って増設したハードディスクの領域を分けないで使っていた場合に、領域の設定をし直すことで領域を分けることができます。ただし、領域の設定をし直すと、増設したハードディスクに保存されていたデータは消去されます。

**1** 「領域を設定する」の手順 1 ~ 6 (←P.105) の作業を行います。

**2** 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、**③** を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。

**3** **③** を押して「3. 拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。

**4** 「Drv」の下に表示されているドライブ名(アルファベット1文字)を入力し、**[Enter]** を押します。

領域を削除する増設ハードディスクの領域が2つ以上に分かれている場合は、「Drv」の下にドライブ名(アルファベット)が複数表示されています。そのうちのどのドライブ名を入力してもかまいません。残りのドライブは、あとで選べます。

**5** 「ボリュームラベルを入力してください」というメッセージが表示されます。

▶ 画面上部の「ボリュームラベル」の下に何も表示されていない場合

← そのまま **[Enter]** を押します。

▶ 画面上部の「ボリュームラベル」の下に文字や記号が表示されている場合

← 表示されている文字や記号を入力し、**[Enter]** を押します。

**6** 「よろしいですか(Y/N)」というメッセージが表示されたら、**[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。

「Drv」の下に表示されているドライブ名(アルファベット)の右横に「ドライブを削除しました。」というメッセージが表示されます。

**7** ここでは、領域を削除する増設ハードディスクの領域が分かれているかいないかによって、行う手順が異なります。

▶ 領域が分かれていない場合

← 画面下に「拡張MS-DOS領域の論理ドライブはすべて削除されました。」というメッセージが表示されているのを確認し、**[Esc]** を押します。

▶ 領域が分かれている場合

← 手順4～6を繰り返して、ドライブを削除します。「Drv」の下に表示されているすべてのドライブ名(アルファベット)の右横に「ドライブを削除しました。」というメッセージが表示され、画面下に「拡張MS-DOS領域の論理ドライブはすべて削除されました。」というメッセージが表示されたことを確認します。そのあと、**[Esc]** を押します。

**8** 「論理ドライブは定義されていません。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。

**9** **[3]** を押して「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。

**10** **[2]** を押して「2. 拡張MS-DOS領域を削除」を選び、**[Enter]** を押します。

**11** **[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。

**12** 「拡張MS-DOS領域を削除しました。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。



基本MS-DOS領域が作成されている増設ハードディスクの領域を削除するときは、このあと基本MS-DOS領域も削除してください。

続いて、領域を削除した増設ハードディスクの領域を設定し直します。「領域を設定する」の手順7（←P107）から作業を行ってください。



### ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て

コラム

ハードディスクを増設して領域の設定を行うと、ハードディスクとDVD-ROMドライブのドライブ名が変更されます。

本パソコンにハードディスクを1台増設した場合、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスク、増設したハードディスク、DVD-ROMドライブには、以下の表のとおり順番でドライブ名が割り当てられます。

ドライブ名（ア）は増設ハードディスクの領域を分けなかった場合、ドライブ名（イ）は増設ハードディスクの領域を2つに分けた場合です。

割り当て順	ドライブ	ドライブ名（ア）	ドライブ名（イ）	備考（FDISKとの対応）
1	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の1つ目の領域	C	C	ハードディスク1の基本MS-DOS領域
2	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の2つ目の領域	D	D	ハードディスク1の論理MS-DOSドライブ
3	「増設したハードディスク」の1つ目の領域	E	E	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
4	「増設したハードディスク」の2つ目の領域	-	F	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
5	DVD-ROMドライブ	F	G	-

・増設ハードディスクの領域を3つ以上に分けた場合は、割り当て順4番と5番の間に増設ハードディスクの3つ目以降の領域が割り当てられ、最後にDVD-ROMドライブが割り当てられます。

・増設ハードディスクに基本MS-DOS領域を作成した場合は、通常は割り当て順1番と2番の間に増設ハードディスクの1つ目の領域（ハードディスク2の基本MS-DOS領域）が入り、ドライブ名「D」が割り当てられます。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

## フォーマットする

新しくハードディスクを取り付けたときには、領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。

また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。


### 重要

#### フォーマットするとデータは失われます

ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられていたハードディスクを誤ってフォーマットしないようにご注意ください。

#### BIOS セットアップの設定値を変更した場合

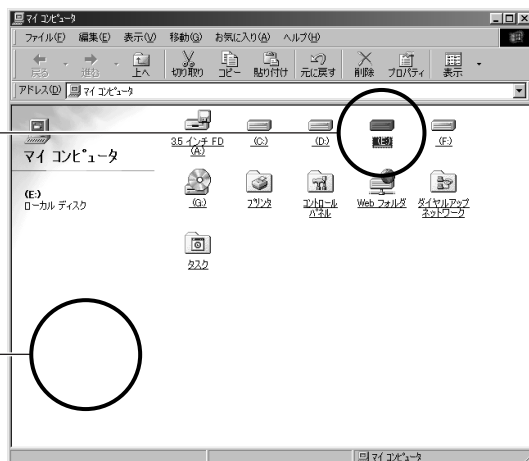
本パソコンのご購入時は、BIOSセットアップのメインメニューのIDEプライマリスレーブまたはIDEセカンダリマスターで、サブメニューにあるタイプは「自動」に設定されているので、通常は変更しないでください。詳しくは「第4章 BIOS セットアップ」(←P.127)をご覧ください。

- 1 アプリケーションやスクリーンセーバーを終了してください。**  
ハードディスクのフォーマットを行う前に、常駐しているアプリケーション(「FM便利ツール」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション)やスクリーンセーバーを終了させてください。
- 2 デスクトップの  (マイコンピュータ) をクリックします。**

### 3 増設したハードディスクのドライブにマウスポインタを合わせます。マウスポインタがからに変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。

増設したハードディスクのドライブ

ここに何も表示されていないことを確認してください。



増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。

上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域（拡張 MS-DOS 領域）を2つに分けた場合です。

#### アドバイス

「アクセスできません。」と表示されたときは

増設したハードディスクのドライブのアイコンをクリックしてしまうと、「アクセスできません。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

#### 重要

どのドライブが増設したハードディスクのものか調べてください

本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域を設定すると、Eドライブ以降（基本 MS-DOS 領域を作成した場合はDドライブ以降）のドライブ名が変更される場合があります。増設したハードディスクがどのドライブに割り当てられているか、調べてください。

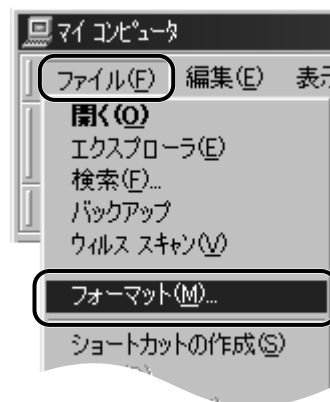
増設したハードディスクのドライブのアイコンを反転表示させたとき、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄は何も表示されません。

あらかじめ取り付けられていたハードディスクのドライブのアイコンを反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。

## 3

オプション機器を活用しよう！（ハードディスクを増設する）

#### 4 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。

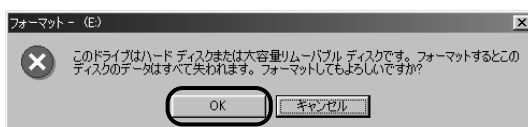


#### 5 「フォーマットの種類」の「通常のフォーマット」の をクリックして にし、「開始」をクリックします。

増設したハードディスクのドライブ名であることを確認してください。

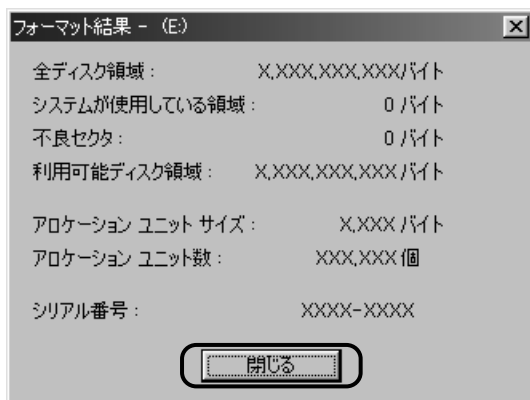


#### 6 「OK」をクリックします。

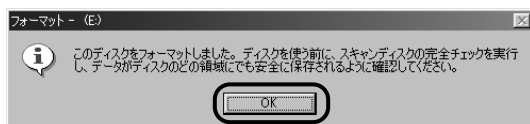


フォーマットが始まります。

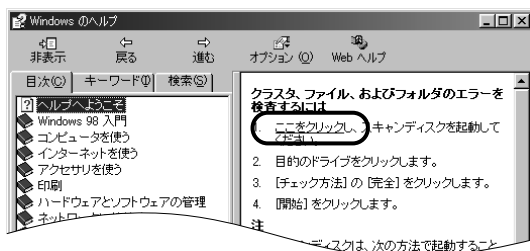
## 7 フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。



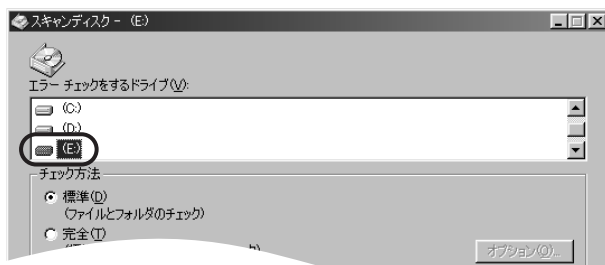
## 8 「OK」をクリックします。



## 9 増設したハードディスクに、スキャンディスクを実行します。 スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。 ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



## 10 「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。



## 11 「チェック方法」で「完全」を選びます。



## アドバイス

エラーが検出されたときは

スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。



## アドバイス

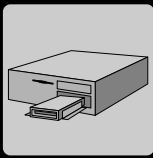
長いファイル名を使ったファイルをコピーするには

増設したIDE規格のハードディスクをフォーマットした直後は、Windows98で作成した長いファイル名(半角で8文字の基本名と、3文字の拡張子より長いファイル名)を使ったファイルを、増設したハードディスクにコピーできません。

本パソコンを再起動すると、長いファイル名のファイルもコピーできるようになります。

なお、SCSI規格のハードディスクを増設した場合は、再起動しなくても長いファイル名のファイルをコピーできます。

- 12** 「開始」をクリックします。
- 13** スキャンディスクが終了したら、「結果レポート」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。
- 14** 「スキャンディスク」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。
- 15** 「Windowsのヘルプ」ウィンドウの右上の **×** (閉じるボタン) をクリックします。
- 16** 「フォーマット」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。  
領域を2つ以上に分けたときは、手順2～15(←P.112)を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。
- 17** 「マイコンピュータ」ウィンドウの右上の **×** (閉じるボタン) をクリックします。



# 7

オプション機器を活用しよう！

## 3.5 インチ / 5 インチの内蔵オプション機器を取り付ける

パソコン本体内部の3.5インチ / 5インチファイルベイに、SCSI規格の内蔵MO（光磁気ディスク）ドライブなどの内蔵オプション機器を取り付けられます。内蔵ハードディスクの取り付けかたについては、「内蔵ハードディスクを取り付ける」(←P.93)をご覧ください。



警告



感電

3.5インチ / 5インチの内蔵オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電・火災または故障の原因となります。



誤飲

取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



注意



故障

・ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因となることがあります。  
・3.5インチ / 5インチの内蔵オプション機器は、弊社純正品をお使いください。純正品以外の3.5インチ / 5インチの内蔵オプション機器をお使いになると、故障の原因となることがあります。



けが

3.5インチ / 5インチの内蔵オプション機器の取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをすることがあります。また、故障の原因となることがあります。



けが

基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。けがをすることがあります。また、故障の原因となることがあります。



### アドバイス

SCSI規格のオプション機器を取り付けるとき

SCSI規格の3.5インチ / 5インチの内蔵オプション機器を取り付けるときは、SCSIカードを取り付けてください。SCSIカードの取り付けかたなどについては、「拡張カードを増設する」(←P.82)をご覧ください。

また、SCSI規格のオプション機器のSCSI ID (←P.102)の設定や、終端抵抗の設定も行ってください。詳しくは、オプション機器とSCSIカードのマニュアルをご覧ください。



### 重要

電源を切ってから 10 分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

3.5インチ / 5インチの内蔵オプション機器を取り付けるときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと 10 分ほど待ってから、作業をはじめてください。

3.5インチ / 5インチの内蔵オプション機器は、Windows 98 のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows 98 のセットアップ(←『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows 98 のセットアップが正常に行われぬおそれがあります。

DVD-ROM ドライブの接続を変更して内蔵オプション機器を取り付ける場合

取り付ける前に設定が必要です。詳しくは、「アドバイス」(←P.100)をご覧ください。

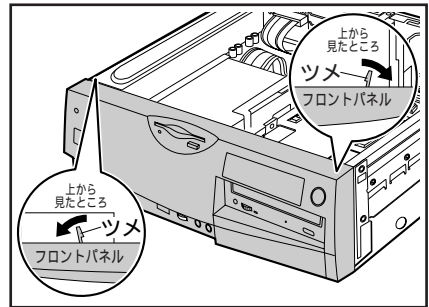
3

オプション機器を活用しよう！(3.5インチ / 5インチの内蔵オプション機器を取り付ける)

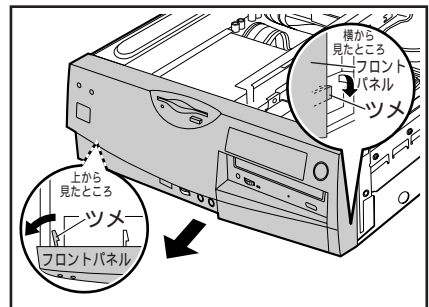
### 3.5 インチファイルベイにオプション機器を取り付ける

**1** 「本体カバーを取り外す」(←P.68)をご覧になり、本体カバーを取り外します。

**2** フロントパネル裏側の上側のツメ(2カ所)を外します。



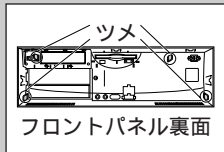
**3** フロントパネル裏側の下側のツメ(2カ所)を外してフロントパネルを取り外します。



#### アドバイス

フロントパネルのツメは4カ所あります

フロントパネルのツメは下図の4カ所あります。4カ所すべてのツメを外すと、フロントパネルが取り外せます。



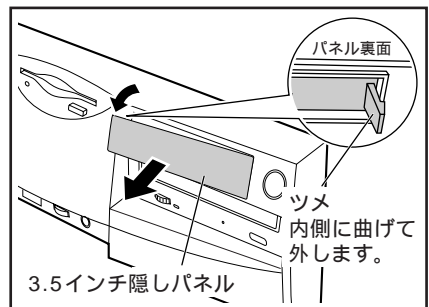
#### アドバイス

隠しパネルは保管してください

取り外した隠しパネルは捨てずに保管してください。3.5インチの内蔵オプション機器を取り外したときは、隠しパネルをパソコン本体に取り付けてください。

**4** フロントパネルから隠しパネルを取り外します。

隠しパネルの裏側にあるツメを内側に曲げて外します。



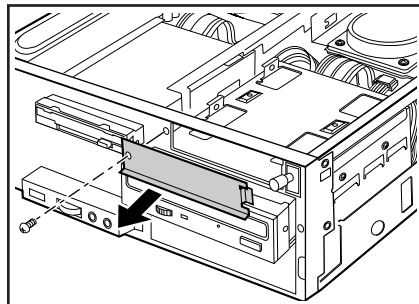


## アドバイス

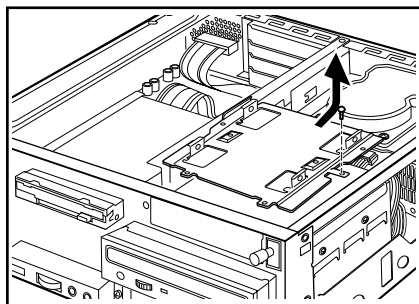
金具とネジは保管してください

取り外した金具とネジは捨てずに保管してください。3.5 インチの内蔵オプション機器を取り外したときは、金具をパソコン本体に取り付けてください。

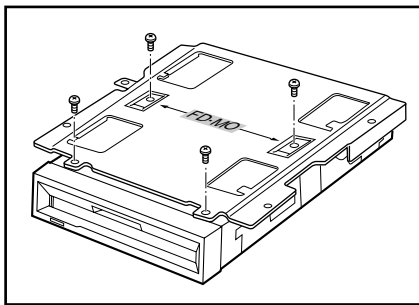
- 5** パソコン本体前面からネジ(1カ所)を外して、金具を取り外します。



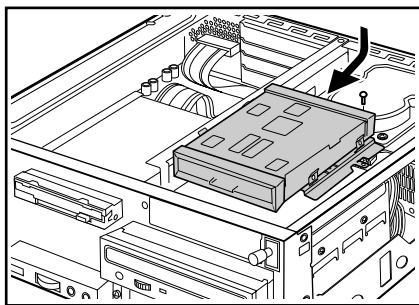
- 6** パソコン本体内部の、3.5 インチファイルベイの取り付け金具を取り外します。  
ネジ(1カ所)を外して、パソコン本体の背面側にスライドさせてから持ち上げてください。



- 7** 増設する 3.5 インチの内蔵オプション機器を、手順 6 で外した取り付け金具に取り付けます。  
取り付け金具を裏返して、オプション機器のネジ穴のある面に取り付けます。  
オプション機器に添付されているネジ(4カ所)で固定します。



- 8** 3.5 インチファイルベイに、オプション機器を取り付けます。  
パソコン本体前面側にスライドさせて取り付けます。手順 6 で外したネジ(1カ所)で固定してください。



3

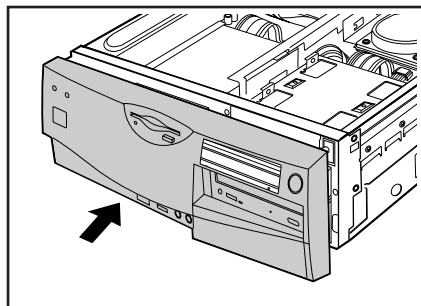
オプション機器を活用しよう！(3.5 インチ/5 インチの内蔵オプション機器を取り付ける)

## 9 フラットケーブルと電源ケーブルを接続します。

SCSI規格の3.5インチの内蔵オプション機器の場合は、アドバイス「SCSI規格の内蔵ハードディスクを増設するときは」の手順7、8(←P.101)をご覧ください。フラットケーブルと電源ケーブルを接続してください。

## 10 フロントパネルを取り付けます。

パソコン本体前面から、カチッと音がするまでまっすぐにはめ込みます。

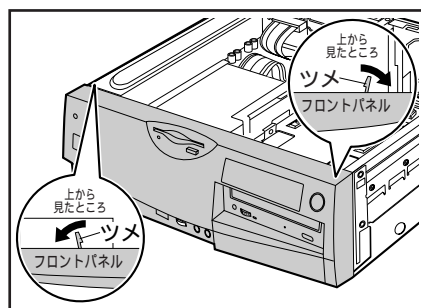


## 11 「本体カバーを取り付ける」(←P.69)をご覧ください、本体カバーを取り付けます。

### 5 インチファイルベイにオプション機器を取り付ける

## 1 「本体カバーを取り外す」(←P.68)をご覧ください、本体カバーを取り外します。

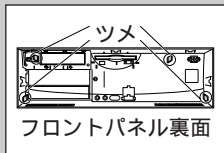
## 2 フロントパネル裏側の上側のツメ(2カ所)を外します。



### アドバイス

フロントパネルのツメは4カ所あります

フロントパネルのツメは下図の4カ所あります。4カ所すべてのツメを外すと、フロントパネルが取り外せます。



### アドバイス

かくし板は保管してください

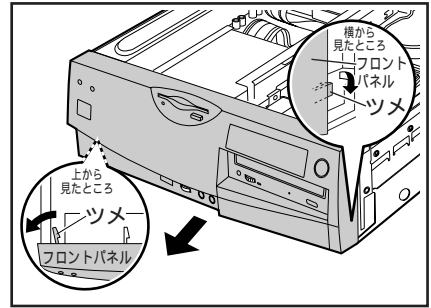
取り外したかくし板は、捨てずに保管してください。

### アドバイス

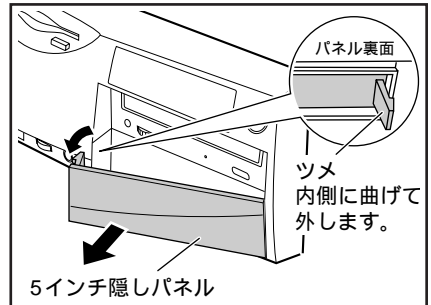
かくし板は保管してください

取り外したかくし板は捨てずに保管してください

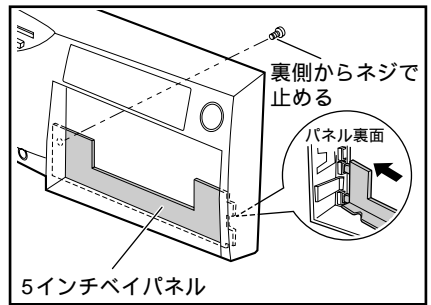
- 3** フロントパネル裏側の下側のツメ(2カ所)を外してフロントパネルを取り外します。



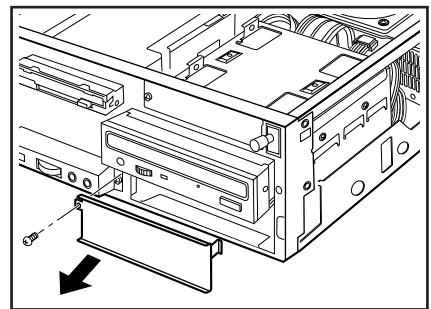
- 4** フロントパネルからかくし板を取り外します。  
隠しパネルの裏側にあるツメを内側に曲げて外します。



- 5** フロントパネルに、本パソコンに添付されているベイパネルを取り付けます。  
なお、5インチの内蔵オプション機器を取り付ける場合には、この手順は必要ありません。



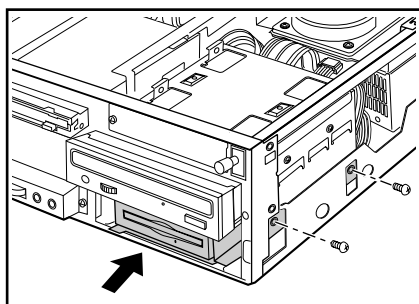
- 6** パソコン本体のかくし板を取り外します。  
左側のネジ(1カ所)を取り外します。



3

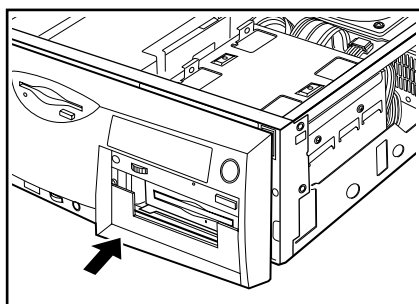
オプション機器を活用しよう！(3.5インチ/5インチの内蔵オプション機器を取り付ける)

- 7** 5 インチファイルベイに、オプション機器を取り付けます。  
ネジ穴の位置が合うまでスライドさせて取り付けます。

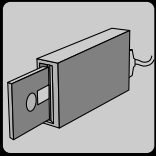


- 8** フラットケーブルと電源ケーブルを接続します。

- 9** フロントパネルを取り付けます。  
パソコン本体前面から、カチッと音がするまでまっすぐにはめ込みます。



- 10** 「本体カバーを取り付ける」(P.69)をご覧ください、本体カバーを取り付けます。



## 8

## その他のオプション機器を使う



## 用語

## SCSI (スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI 規格の機器には、MO ドライブのほか、スキャナやハードディスクなどがあります。

## MO (光磁気ディスク) ドライブを使う

MO (エムオー) ドライブとは、レーザーと磁気で MO (光磁気ディスク) にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。MO は、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

## 必要なものを用意する

MO ドライブを使うには、次のものがが必要です。

## MO ドライブ (SCSI 規格)

MO ドライブには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのがあります。本パソコンではどちらの MO ドライブもお使いになれます。

## SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗 (ターミネータ)

SCSI 規格の MO ドライブを使うために必要なものです。

終端抵抗 (ターミネータ) は、内蔵されている場合もあります。

SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗 (ターミネータ) について詳しくは、「SCSI 規格の内蔵 / 外付けハードディスクを増設する場合」(P.91)をご覧ください。

## MO

128MB、230MB、540MB、640MB の容量のものが市販されています。お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになる MO ドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになる MO ドライブが対応している容量の MO をご購入ください。

## MO ドライブを使うには

お使いになる MO ドライブによって、接続方法が異なります。詳しくは、MO ドライブのマニュアルをご覧ください。

## SCSI 規格の MO ドライブを使う

SCSI カードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては、「拡張カードを増設する」(P.82)をご覧ください。SCSI カードを取り付けたあと、SCSI ケーブルで SCSI カードと MO ドライブをつなぎます。

## 内蔵 MO ドライブを使う

内蔵の MO ドライブは、ディップスイッチなどで終端抵抗を設定する必要があるものもあります。詳しくは、「3.5 インチ / 5 インチの内蔵オプション機器を取り付ける」(P.117)をご覧ください。

### 外付けの MO ドライブを使う

外付けの MO ドライブには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。詳しくは、「外付けハードディスクを取り付ける」(P.102)をご覧ください。

## 複数のディスプレイを使う

Windows 98 には、1 台のパソコンに複数のグラフィックスカードとディスプレイを接続して、複数台のディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。

ここでは、例として、2 台のディスプレイでマルチモニタ機能を使うために必要なものを行う作業について説明します。

### 必要なものを用意する

マルチモニタ機能を使うには、本パソコンのほかに次のものがが必要です。

- ・マルチモニタ機能に対応している PCI 規格のグラフィックスカード
- ・用意したグラフィックスカード用のディスプレイドライバ  
(マルチモニタ機能対応のもの)
- ・ディスプレイ

#### 重要

#### グラフィックスカードを選ぶときの注意


- ・ AGP 規格のグラフィックスカードは、本パソコンには AGP スロットが無いため、お使いになれません。
- ・ Windows 98 に対応しているグラフィックスカードであっても、添付されているディスプレイドライバがマルチモニタ機能には対応していない場合があります。  
マルチモニタ機能に対応しているか製造元のメーカーにご確認ください。

#### BIOS セットアップの設定を確認してください

マルチモニタ機能をお使いになる場合は、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「ディスプレイ設定」内にある「プライマリディスプレイ」の設定が「AGP」になっていることを確認します。「AGP」になっていない場合は、「第 4 章 BIOS セットアップ」(P.127)をご覧ください、設定を変更してください。

ご購入時の設定では、「プライマリディスプレイ」の設定は「AGP」になっています。「PCI」に設定した場合は、マルチモニタ機能をお使いになれません。

#### DVD-ROM を再生するときは

 『取扱説明書』に記載されているとおりに接続したディスプレイで再生してください。増設したグラフィックスカードに接続したディスプレイでは再生できません。


## グラフィックスカードとディスプレイを接続する

グラフィックスカードを取り付けてディスプレイを接続し、ディスプレイドライバをインストールします。

- 1** 「拡張カードを取り付ける」(P.85)をご覧ください、グラフィックスカードを本パソコンに取り付けます。
- 2** 取り付けたグラフィックスカードに、ディスプレイを接続します。接続方法については、ディスプレイとグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。
- 3** ディスプレイの電源ケーブルを接続します。接続方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4** 接続したディスプレイと、パソコン本体の電源を入れます。
- 5** ディスプレイドライバをインストールします。  
グラフィックスカードのマニュアルをご覧ください、新たに取り付けたグラフィックスカードのディスプレイドライバをインストールしてください。ドライバをインストールしたあと、本パソコンを再起動してください。

## マルチモニタ機能を設定する

ディスプレイドライバをインストールし、本パソコンを再起動したあと、次の操作を行ってください。

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2**  (画面) をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「設定」タブをクリックします。

**3**

オプション機器を活用しよう！(その他のオプション機器を使う)

**4** 「2」と書かれたディスプレイをクリックして選びます。  
「このモニタを使用可能にしますか?」というメッセージが表示されます。

**5** 「はい」をクリックします。

**6** 接続したディスプレイの解像度と発色数を設定します。  
解像度と発色数の設定のしかたについては、「画面の解像度や発色数を変える」(P.46)をご覧ください。  
「互換性の警告」ウィンドウが表示された場合は、「新しい色の設定で再起動する」を選び、「OK」をクリックしてください。  
「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。



#### プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイ

コラム

パソコン本体の電源を入れると、起動画面はプライマリディスプレイに表示されます。プライマリディスプレイは、「設定」タブで「1」と表示され、セカンダリディスプレイは「2」と表示されます。  
本パソコンでは、『取扱説明書』に記載されているとおりに接続したディスプレイがプライマリディスプレイとなり、増設したグラフィックスカードに接続したディスプレイがセカンダリディスプレイになります。



## 第 4 章

# BIOS セットアップ

BIOS セットアップの設定方法や、パスワードの設定方法などについて説明しています。

BIOS セットアップは、本パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常적으로お使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。また、正しく設定しないと本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

設定が必要な場合のみ、お読みください。

また、BIOS セットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1. BIOS セットアップとは .....	128
2. BIOS セットアップの操作のしかた .....	129
3. ご購入時の設定に戻す .....	133
4. BIOS のパスワード機能を使う .....	138
5. BIOS が表示するメッセージ一覧 .....	144

# BIOS セットアップとは

BIOS (バイオス) セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのソフトウェアです。本パソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。次のような場合にのみ設定を行ってください。

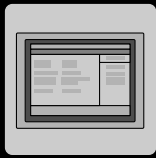
- ・ 特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワード (暗証番号) を設定するとき
- ・ メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- ・ 省電力モード (電源を入れた状態で一定時間使わなかったときに、消費する電力を減らして待機している状態) を変更するとき
- ・ 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたとき
- ・ 他の OS をお使いになるとき

## アドバイス

### バッテリーの交換について

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM (シーモス ラム) と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリーによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリーが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

パーソナルエコーセンターのご利用については、「富士通サポート ご案内」をご覧ください。



# 2

## BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

### BIOS セットアップを起動する

- 1** それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。  
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 3** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 4** 画面下に「<Esc>キー：自己診断画面 起動メニュー / <F2>キー：BIOS セットアップ」と表示されている間に、**[F2]** を押します。  
BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

# 4

BIOS セットアップ (BIOS セットアップの操作のしかた)

### アドバイス

#### BIOS セットアップを始められなかったら

Windows98が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。Windows98 が完全に起動するのを待ってから、再度手順 2 ~ 4 の操作を行ってください。

#### [Esc] を押したときは

手順 4 で [Esc] を押したときは、自己診断画面が表示されます。自己診断テストが完了したら、[Esc] を押してください。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ

メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
システム時刻: [ 03:56 ]						項目ヘルプ
システム日付: [ 1999/07/09 ]						現在の時刻を、時：分：秒で設定します。(24時間制)
フロッピーディスクA: [ 1.44/1.2 MB 3.5" ]						<Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。
▶ IDEプライマリマスター [8455MB]						<Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。
▶ IDEプライマリスレーブ [なし]						
▶ IDEセカンダリマスター [CD-ROM]						
▶ IDEセカンダリスレーブ [なし]						
言語 (Language): [ 日本語 (JP) ]						

メニューバー  
メニューの名称が表示されます。

ヘルプフィールド  
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

カーソル  
設定する項目に合わせます。

設定フィールド  
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧  
設定時に使うキーの一覧です。

F1 ヘルプ    項目選択    /Space 値の変更    F9 標準設定  
Esc 終了    メニュー選択    Enter ▶サブメニュー選択    F10 保存して終了

## 設定を変更する

- 1**   を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。

選択したメニュー画面が表示されます。

メニューバー  
メニューの名称が表示されます。

ヘルプフィールド  
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

カーソル  
設定する項目に合わせます。

設定フィールド  
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧  
設定時に使うキーの一覧です。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ		項目ヘルプ
メイン	詳細	セキュリティ
システム時刻:	[03:34:56]	現在の時刻を、時：分：秒で設定します。(24時間制)
システム日付:	[1999/07/09]	<Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。
フロッピーディスクA:	[1.44/1.2 MB 3.5"]	<Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。
▶ IDEプライマリマスター	[8455MB]	
▶ IDEプライマリスレーブ	[なし]	
▶ IDEセカンダリマスター	[CD-ROM]	
▶ IDEセカンダリスレーブ	[なし]	
言語 (Language):	[日本語 (JP)]	

F1 ヘルプ      項目選択    -/Space 値の変更      F9 標準設定  
Esc 終了      メニュー選択 Enter    ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

- 2**   を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。

▶の付いている項目はサブメニューがあることを表します。

▶の付いている項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、サブメニューが表示されます。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ

メイン 詳細 セキュリティ 省電力 起動 情報 終了

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ		項目ヘルプ
メイン	詳細	セキュリティ
プラグアンドプレイ対応OS:	[はい]	[はい] BIOSはOSの起動に必要なデバイスだけを初期化します。
デバイス設定の保護:	[いいえ]	[いいえ] BIOSは全てのデバイスを初期化します。
▶ シリアル/パラレルポート設定		プラグアンドプレイまたはACPIに対応していないOSを使用する場合に選択します。
▶ キーボード/マウス設定		
▶ その他の内蔵デバイスの設定		
▶ ディスプレイ設定		
▶ CPU設定		
拡張CHS変換:	[使用する]	

F1 ヘルプ      項目選択    -/Space 値の変更      F9 標準設定  
Esc 終了      メニュー選択 Enter    ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了












### 3 を押して、設定を変更します。

画面の左に、各設定値の説明が表示されます。参考にしてください。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順 1 から繰り返します。

BIOS セットアップを終了するときには、「BIOS セットアップを終了する」( ←P.132 ) をご覧ください。

#### 設定時に使う各キーの役割

- ・  : 「一般ヘルプ」画面を表示します。「一般ヘルプ」画面は、BIOS セットアップの操作で使用するキーについて説明しています。「一般ヘルプ」画面を閉じるには  を押します。
- ・   : メニューを切り替えます。
- ・   : 設定する項目にカーソルを移動します。
- ・  : ▶ が付いている項目のサブメニューを表示します。
- ・  : 「終了」メニューを表示します。  
サブメニューが表示されているときは、1 つ前の画面に戻ります。
- ・  : 設定を変更します。
- ・  : すべての設定を、本パソコンのご購入時の状態 (標準設定値) に戻します。
- ・  : 設定した内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。

#### 変更内容を取り消す

前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

### 1 を押します。

「終了」メニューが表示されます。

### 2 「変更前の値を読み込む」を選び、 を押します。

「変更前の値を読み込みますか?」というメッセージが表示されます。

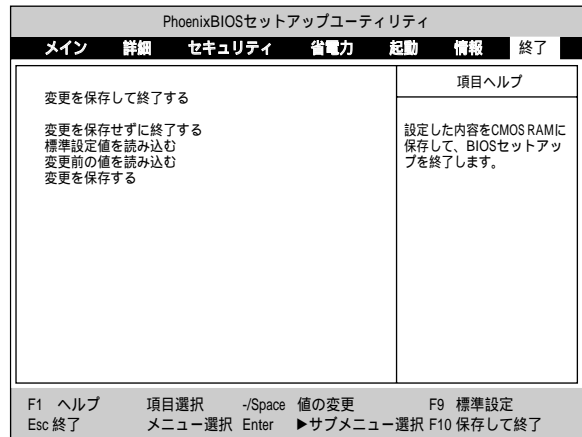
### 3 「はい」を選び、 を押します。

設定が前回保存したときの値に戻ります。

保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」( ←P.133 ) をご覧ください。

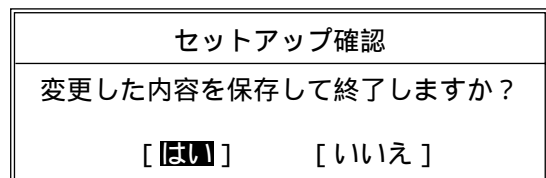
## BIOS セットアップを終了する

- 1 各メニューの設定を終了し、  を押して「終了」メニューを表示します。



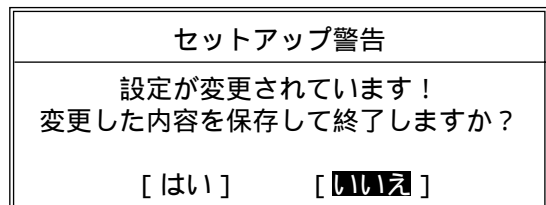
- 2 ▶ 設定を保存してBIOS セットアップを終了し、Windows 98 を起動する場合

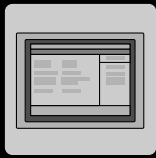
- ←   を押して、「変更を保存して終了する」にカーソルを合わせ、 を押します。  
メッセージが表示されたら、  を押して「はい」にカーソルを合わせ、 を押します。



- ▶ 設定を保存しないでBIOSセットアップを終了し、Windows 98 を起動する場合

- ←   を押して、「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ、 を押します。  
メッセージが表示されたら、  を押して「いいえ」にカーソルを合わせ、 を押します。





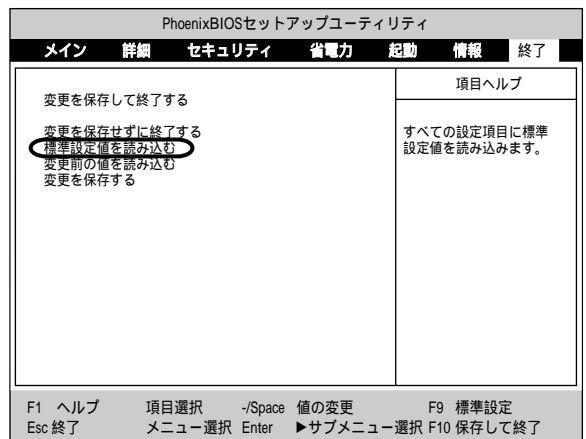
## ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態（標準設定値）に戻す方法は次のとおりです。

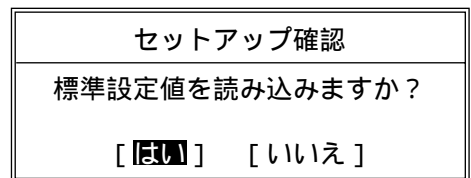
- 1** 各メニューの設定を終了し、  を押して「終了」メニューを表示します。

BIOSセットアップを起動していない場合は、「BIOSセットアップを起動する」(←P.129)をご覧ください。

- 2**   を押して「標準設定値を読み込む」にカーソルを合わせ、 を押します。

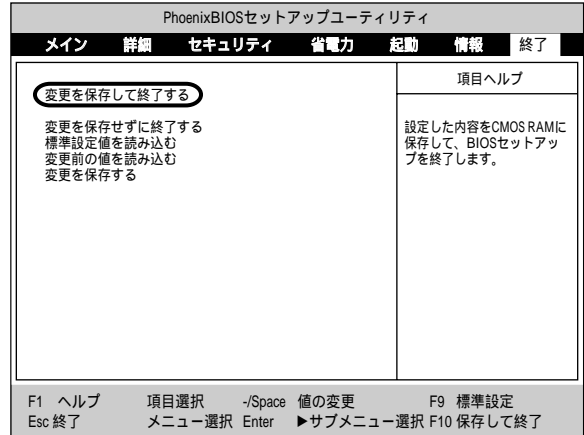


- 3**   を押して「はい」にカーソルを合わせ、 を押します。

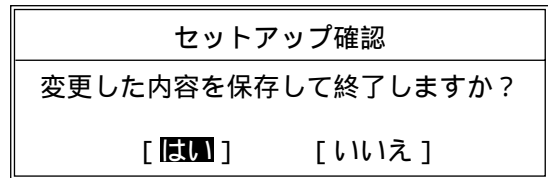


設定をご購入時の状態に戻ります。

- 4   を押して「変更を保存して終了する」にカーソルを合わせ、  
 を押します。



- 5   を押して「はい」にカーソルを合わせ、 を押します。



BIOS セットアップが終了し、Windows 98 が起動します。



## 標準設定値一覧

ご購入時に設定されている値は、以下の通りです。

「ご購入時の設定に戻す」( ←P.133 ) の操作を行うと、以下の値に設定されます。

メインメニュー

項目	標準設定値	備考
システム時刻	-	現在の時刻が表示
システム日付	-	現在の日付が表示
フロッピーディスクA	1.44 / 1.2 MB 3.5"	
IDEプライマリマスター	8455MB	
タイプ	自動	
シリンダ数	-	表示のみ (設定変更不可)
ヘッド数	-	表示のみ (設定変更不可)
セクタ数	-	表示のみ (設定変更不可)
最大容量	-	表示のみ (設定変更不可)
マルチセクタ転送	16セクタ	表示のみ (設定変更不可)
LBAモード制御	使用する	表示のみ (設定変更不可)
転送モード	高速PIO 4	表示のみ (設定変更不可)
DMAモード	ウルトラDMA2	表示のみ (設定変更不可)
IDEプライマリスレーブ	なし	サブメニュー項目はIDEプライマリマスターを参照
IDEセカンダリマスター	CD-ROM	サブメニュー項目はIDEプライマリマスターを参照
IDEセカンダリスレーブ	なし	サブメニュー項目はIDEプライマリマスターを参照
言語 ( Language )	日本語 ( JP )	

詳細メニュー

項目	標準設定値	備考
プラグアンドプレイ対応OS	はい	
デバイス設定の保護	いいえ	
シリアル/パラレルポート設定	-	
シリアルポート1	使用する	
I/Oアドレス	3F8-3FF	IRQ10と3F8, 3E8/IRQ11と2F8, 2E8に設定しないでください
割り込み要求	IRQ 4	
パラレルポート	使用する	
モード	双方向	
I/Oアドレス	378-37F	
割り込み要求	IRQ 7	
キーボード/マウス設定	-	
起動時のNumlock設定	オン	
PS/2マウス	使用する	
USBキーボード/マウス	自動	
その他の内蔵デバイスの設定	-	
フロッピーディスクコントローラ	使用する	
IDE コントローラ	両方使用する	
サウンドコントローラ	使用する	
ディスプレイ設定	-	
プライマリディスプレイ	AGP	
AGPアパーチャサイズ	64MB	
CPU設定	-	
プロセッサシリアルナンバ	使用する	
拡張CHS変換	使用する	

## セキュリティメニュー

項目	標準設定値	備考
管理者用パスワード	使用不可	パスワード設定状況によって、表示は異なります
ユーザー用パスワード	使用不可	パスワード設定状況によって、表示は異なります
管理者用パスワード設定	-	
ユーザー用パスワード設定	-	
ユーザー用パスワード文字数設定	16	
起動時のパスワード	使用しない	
自動ウェイクアップ時のパスワード	使用しない	
ハードディスク以外からの起動	常に可能	
フロッピーディスクアクセス	常に可能	
ハードディスク起動セクタ	通常動作	

## 省電力メニュー

項目	標準設定値	備考
省電力モード	使用しない	
ハードディスク省電力	使用しない	
ディスプレイ省電力	使用しない	
電源スイッチ	スタンバイ	
自動ウェイクアップ	-	
モデム着信によるウェイクアップ	使用しない	
PCI PMEによるウェイクアップ	使用しない	
時刻によるウェイクアップ	使用しない	
ウェイクアップ時刻	00:00:00	
ウェイクアップ日付	毎日	
APMによる電源管理	使用する	
ACPI設定	-	
スタンバイモード	標準	

## 起動メニュー

項目	標準設定値	備考
高速起動	使用する	
起動時の自己診断画面	表示しない	
ATA/ATAPIドライブの待ち時間	3秒	
起動デバイスの優先順位	-	
1. フロッピーディスクドライブ		
2. ハードディスクドライブ		
3. ATAPI CD-ROM ドライブ		
ハードディスク		ハードディスクの種類を選べます

## 4

## BIOS のパスワード機能を使う

本パソコンでは、特定の人だけが起動やBIOS セットアップを行えるように、パスワードを設定することができます。

ここでは、パスワードの設定方法や変更方法などについて説明します。

## パスワードの種類

## 設定できるパスワード

本パソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

- ・ 管理者用パスワード  
特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。  
パスワード機能を使うときは、必ず設定してください。
- ・ ユーザー用パスワード  
「管理者」以外の方がお使いになるパスワードです。  
このパスワードでBIOS セットアップを起動した場合は、設定できる項目が制限されます。

## パスワードで制限 / 保護できる機能

- ・ BIOS セットアップの起動  
パスワードを入力しないとBIOS セットアップが起動しないように制限します。  
「管理者用パスワード」を設定すると、自動的に働きます。
- ・ 起動時のパスワード  
パスワードを入力しないとOS が起動しないように制限します。
- ・ 自動ウェイクアップ時のパスワード  
自動ウェイクアップ時にパスワードの入力を要求されます。  
この機能は、通常は本パソコンではお使いになれません。
- ・ ハードディスク以外からの起動  
起動をハードディスクのみに制限します。
- ・ フロッピーディスクアクセス  
フロッピーディスクを使えないようにします。
- ・ ハードディスク起動セクタ  
ウィルスから保護するため、ハードディスクの起動セクタへの書き込みを禁止します。

## パスワードを設定する

管理者用パスワード、ユーザー用パスワードを設定する方法を説明します。

### 重要

ユーザー用パスワードを設定するときは管理者用パスワードを設定してください  
ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

- 1 BIOS セットアップを起動します。  
起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」(←P.129)をご覧ください。
- 2   を押して、「セキュリティ」メニューを表示します。
- 3   を押して、「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」にカーソルを合わせます。
- 4  を押します。  
パスワードを入力するウィンドウが表示されます。

管理者用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]

または

ユーザー用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]

### アドバイス

ユーザー用パスワードを設定するときは「ユーザー用パスワード文字数設定」で、入力しなければならない最低の文字数を設定することができます。なお、本設定はユーザー用パスワードで BIOS セットアップを起動した場合にのみ有効です。

- 5 パスワードを入力します。  
入力できる文字はアルファベットと数字です。管理者用パスワードは、最大 16 文字までです。  
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
- 6  を押します。  
カーソルが「新しいパスワードを確認してください。」の項目に移ります。

## アドバイス

パスワードを間違えると

メッセージが表示されず、**[Enter]** を押して、前ページの手順5から操作し直してください。

**7** 手順5で入力したパスワードをもう一度入力し、**[Enter]** を押します。  
「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

**8** **[Enter]** を押します。  
これでパスワードが設定されました。

**9** 続いてユーザー用パスワードを設定する場合は、手順3～8を繰り返し、そのまま手順10へ進みます。

**10**   を押して、「起動時のパスワード」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。  
設定内容を選ぶウィンドウが表示されます。

**11**   を押して、「毎回」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

**12**   を押して「終了」メニューを表示します。

**13**   を押して、「変更を保存する」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

### 重要

必ず「変更を保存する」を選択してください

誤って「変更を保存して終了する」を実行すると、パスワードは設定されません。

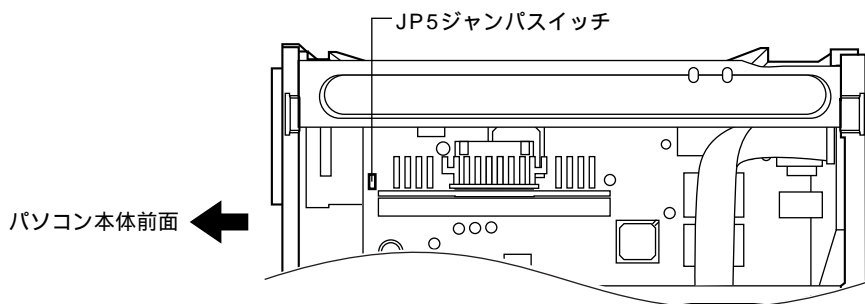
**14** メッセージが表示されたら、  を押して「はい」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。  
設定が保存されます。

**15** 電源スイッチを4秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ります。  
必ず本パソコンの電源ランプが消えていることを確認してください。  
電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、もう一度電源スイッチを4秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。

**16** 次ページの「ジャンプスイッチを設定する」をご覧ください、ジャンプスイッチを変更します。

## ジャンプスイッチを設定する

BIOS セットアップで、パスワードを設定した場合に、そのパスワードを有効にするためにパソコン本体内部のジャンプスイッチを変更する必要があります。

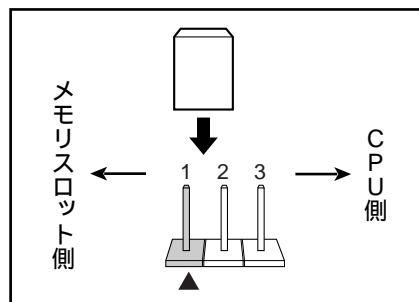


**感電** ジャンプスイッチを変更するときは、パソコン本体と接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。



**けが** 基板表面上の突起物には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

- 1** 「本体カバーを取り外す」(☞P.68)をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 2** 「マザーボードを取り外す」(☞P.71)をご覧になり、マザーボードを取り外します。
- 3** ジャンプスイッチを「2-3番」から「1-2番」に変更します。本パソコンのご購入時は、「2-3番」に設定されています。



- 4** 「マザーボードを取り付ける」(☞P.72)をご覧になり、マザーボードを取り付けます。
- 5** 「本体カバーを取り付ける」(☞P.69)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

## パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定の状態によって次の場合にパスワードの入力を要求されます。

- ・本パソコンを起動するとき
- ・BIOS セットアップを起動するとき

「パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。設定してあるパスワードを入力して、**[Enter]**を押してください。

パスワードを入力して下さい。 [ XXXXXXXXXX ]

### 重要

#### 誤ったパスワードを 3 回入力すると

「システムは使用できません。」というメッセージが表示されて、パソコンが停止します。その場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し続けてパソコン本体の電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。そのあと、正しいパスワードを入力してください。

## パスワードを忘れてしまったら

設定したパスワードを忘れてしまい、BIOS セットアップや起動ができなくなった場合は、パソコン本体内部のジャンプスイッチを元に戻してください。パスワードチェックが解除され、BIOS セットアップや起動ができるようになります。ジャンプスイッチの変更方法については、「ジャンプスイッチを設定する」(P.141)をご覧ください。

## パスワードを変更 / 削除する

- 1** BIOS セットアップを起動します。
- 2**   を押して、「セキュリティ」にカーソルを合わせます。  
「セキュリティ」メニューが表示されます。



- 3**   を押して、「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。  
パスワードを入力するウィンドウが表示されます。

管理者用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]

または

ユーザー用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを入力して下さい。	[ <input type="password"/> ]
新しいパスワードを確認して下さい。	[ <input type="password"/> ]

- 4** 設定してあるパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。  
カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」の項目に移ります。

#### アドバイス

ユーザー用パスワードで BIOS セットアップを起動した場合は

「ユーザー用パスワード文字数設定」が 0 以外の場合は、パスワードを削除できません。

#### アドバイス

再入力したパスワードが間違っているときは

メッセージが表示されます。**[Enter]** を押して、正しいパスワードを入力し直してください。

- 5** **▶** **パスワードを変更する場合**  
 ← 新しく設定したいパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。
- ▶** **パスワードを削除する場合**  
 ← 何も入力せずに、**[Enter]** を押します。  
 カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」の項目に移ります。
- 6** **▶** **パスワードを変更する場合**  
 ← 手順 5 で入力した新しいパスワードをもう一度入力し、**[Enter]** を押します。
- ▶** **パスワードを削除する場合**  
 ← 何も入力せずに、**[Enter]** を押します。  
 「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。
- 7** **[Enter]** を押します。
- 8** 設定内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。

# BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージ ( BIOS メッセージ ) について説明しています。必要に応じてお読みください。

## メッセージが表示されたときは

「メッセージ一覧」をご覧になり、次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

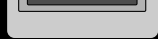
- BIOS セットアップの設定を変更する  
指示に従って BIOS セットアップを起動して、設定をご購入時の状態 ( 標準設定値 ) に戻してください。詳しくは、「ご購入時の設定に戻す」( ←P.133 ) をご覧ください。
- オプション機器の取り付けを確認する  
オプション機器の拡張カードやメモリなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているかを確認してください。また、IRQ ( 割り込み要求 ) ( ←P.157 ) が正しく設定されているかも確認してください。このとき、オプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の方法で対処してもメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

## メッセージ一覧

次のメッセージが表示されると、本パソコンが停止します。指示に従って対処してください。

1. システムメモリエラー。オフセットアドレス:xxxx  
System Memory Failed at offset:xxxx  
システムメモリのテスト中に、エラーが発見されました。  
本パソコンの電源を切り、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
2. 拡張メモリエラー。オフセットアドレス:xxxx  
Extended RAM Failed at offset:xxxx  
拡張メモリのテスト中に、エラーが発見されました。  
本パソコンの電源を切り、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
3. メモリキャッシュのエラーです。- キャッシュは使用できません。  
System cache error - Cache disabled  
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されました。  
本パソコンの電源を切り、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。



## アドバイス

### 電源を切るときは

電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、もう一度電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。その後、必ず本パソコンの電源ランプが消えていることを確認してください。

4. キーボードコントローラのエラーです。  
Keyboard controller error  
キーボードコントローラのテスト中に、エラーが発見されました。  
本パソコンの電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示される  
ときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
5. キーボードエラーです。  
Keyboard error  
キーボードのテスト中に、エラーが発見されました。  
本パソコンの電源を切り、キーボードが正しく接続されているかを確認して  
ください。正しく接続されているときは、弊社パーソナルエコーセンター、また  
はご購入元にご相談ください。
6. フロッピーディスク A のエラーです。  
Diskette drive A error  
フロッピーディスクドライブのテスト中に、エラーが発見されました。  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
7. ディスクエラーです。:ハードディスク n  
Failure Fixed Disk  
ハードディスクドライブの設定にエラーが発見されました。  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
8. システムタイマーのエラーです。  
System timer error  
システムタイマーのテスト中に、エラーが発見されました。  
本パソコンの電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示される  
ときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
9. リアルタイムクロックのエラーです。  
Real time clock error  
リアルタイムクロックのテスト中に、エラーが発見されました。  
本パソコンの電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示される  
ときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
10. システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定  
されました。  
System CMOS checksum bad - Default configuration used  
CMOS RAM のテスト中に、エラーが発見されたため、いったん標準設定値  
に設定されました。  
BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」( ←P.133 ) の操作  
を行ってください。  
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、  
またはご購入元にご相談ください。

11. 前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。  
Previous boot incomplete - Default configuration used  
前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値に設定されました。  
このメッセージは、起動途中で電源を切ってしまったとき、BIOSセットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。  
そのまま起動する場合は、**[F1]**を押してください。BIOSセットアップを起動する場合は、**[F2]**を押してください。
12. <F1> キーを押すと継続、<F2> キーを押すとセットアップを起動します。  
Press <F1> to resume, <F2> to Setup  
起動時の自己診断テストでエラーが発生しました。  
**[F1]**を押すと発生しているエラーを無視して起動します。**[F2]**を押すとBIOSセットアップが起動します。
13. 日付と時刻の設定を確認してください。  
Check date and time Settings  
BIOSセットアップを起動し、「メイン」メニューの「システム時刻」と「システム日付」を正しく設定してください。
14. Invalid system disk  
Replace the disk, and then press any key  
フロッピーディスクドライブに、システム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れる则表示されます。  
フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
15. Non-System disk or disk error  
Replace and press any key when ready  
フロッピーディスクドライブに、システム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れる则表示されます。  
フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
16. Operating system not found  
OSが見つかりませんでした。BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか、指定したドライブにOSが入っているかを確認してください。
17. メモリがシステムバスクロックに適合していません。  
WRONG MEMORY : Serial Presence Detected (SPD) indicates 66MHz Memory  
This processor requires 100MHz memory. Shut system down.  
取り付けたメモリは66MHzのメモリで、システムバスクロックが適合していません。  
本パソコンの電源を切り、システムバスクロックが100MHzのメモリに交換してください。
18. メモリのスピードが不明です。  
SERIAL PRESENCE DETECT (SPD) Unavailable - memory speed unknown  
This processor requires 100MHz memory. Shut system down.  
スピードが不明なメモリが取り付けられています。  
本パソコンの電源を切り、システムバスクロックが100MHzのメモリに交換してください。

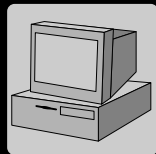
# 第 5 章

---

## 技術情報

本パソコンの仕様やドライバのインストール、その他の注意事項などについて説明しています。

1. 仕様一覧 .....	148
2. 本パソコンのリソースについて .....	157
3. ドライバのインストール .....	161
4. その他の注意事項 .....	170



## 1

## 仕様一覧

## パソコン本体

製品名称	FMV-DESKPOWER S/457	
CPU	Pentium® プロセッサ 450MHz	
キャッシュメモリ	L1 32KB + L2 512KB	
BIOS ROM	512KB (フラッシュROM)	
システムバスクロック	100MHz	
システムRAM	標準 64MB (SDRAM) パリティなし 最大 256MB	
フロッピーディスク	3.5 インチ × 1 (3モード対応)	
ハードディスク	8.4GB (Cドライブ 2.5GB、Dドライブ 5.9GB)	
DVD-ROM	最大 32 倍速 (CD) 最大 6 倍速 (DVD)	
グラフィック	ATI社製 RAGE™ 128VR (SDRAM : 8MB)	
ディスプレイ	17 インチ平面型ダイヤモンドトロンCRT (DDC対応)	
オーディオ機能	Crystal 社製 CS4614 + CS4297 (AC97)	
I/F	ディスプレイ	VGA/SVGA D-SUB 15pin
	USB	USB コネクタ 4pin × 2 (前面 × 1、背面 × 1) 1 つは標準添付キーボード用 (標準添付マウスは標準添付キーボードに接続)
	シリアルポート	非同期 RS-232C × 1 D-SUB 9pin
	パラレルポート	セントロニクス準拠 D-SUB 25pin
	サウンド	マイク入力 (専用マイク用) × 1、ヘッドホン端子 × 1 (前面) LINE 入力 × 1、LINE 出力 × 1、スピーカー出力 × 1、 MIDI/JOYSTICK 端子 × 1 (背面)
	FAX/ボイスモデム	モジュージャック × 2 (LINE × 1、PHONE × 1) DATA56Kbps (受信), 33.6Kbps (送信) / FAX 14.4Kbps
	キーボード	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin (オプション用)
	マウス	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin (オプション用)
拡張スロット数	4 PCI × 1 (ハーフ) PCI × 3 (フル、うち 1 つに FAX/ボイスモデムカードを標準搭載)	
ストレージベイ数	5 上段 A 3.5 インチオプション機器装着エリア (増設用) B 3.5 インチフロッピーディスクドライブ搭載済 C 3.5 インチハードディスク搭載済 中段 5 インチファイルスロット (DVD-ROMドライブ搭載済) 下段 5 インチファイルスロット (増設用)	
電源 / 周波数	AC100V 50/60Hz	
消費電力	約 36W (最大 145W)	
重量	約 12.5Kg	
外形寸法	415mm × 446mm × 139mm (W × D × H)	
使用環境	温度 10 ~ 35 湿度 20 ~ 80% (RH)	
省エネ法に基づく エネルギー消費効率	約 25W	
対応 OS	Windows98, WindowsNT4.0 SP4	

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

WindowsNT4.0をお使いになるときは、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」( <http://www.fmworld.ne.jp/support/hikken/index.html> )をご覧ください。

## FAX / ボイスモデムカード

品名	FAX / ボイスモデムカード-56000 (全二重)
型名	FMV-FX53Z6
通信方式	2線式 全二重 (FAXモードでは2線式 半二重)
通信規格	K56flex™ ITU-T V.90 V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22 /V.21/Bell212A, 103 (データモード) ITU-T V.17/V.29/V.27ter (FAXモード)
通信速度	データモード : 56000,54667,54000,53333,52000, (受信時) 50667,50000,49333,48000,46667, 46000,45333,44000,42667,42000, 41333,40000,38667,38000,37333, 36000,34667,34000,33333,32000, 30667,29333,28000bps データモード : 33600,31200,28800,26400,24000, (送受信) 21600,19200,16800,14400,12000, 9600,7200,4800,2400,1200bps FAXモード : 14000,12000,9600,7200,4800, 2400bps
同期方式	調歩同期
データ転送	MNP class 4/5
プロトコル	ITU-T V.42/V.42bis
コマンド	V.25 ter (ATコマンド)
バスインターフェース	PCI
FAXインターフェース	TIA/EIA578 (class 1)
音声蓄積機能	AD PCM
寸法	長さ 165 mm × 幅 120 mm × 高さ 22 mm
直流抵抗値	256
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動速度検出</li> <li>・発信音、呼び出し音、話し中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状況を示す応答音の検出</li> <li>・記憶した電話番号による自動ダイヤルおよび再ダイヤル</li> <li>・トーン式/パルス式ダイヤルの選択</li> </ul>

- ・本モデムはWindows 98、Windows NT 4.0以外のOSでの動作はサポートしていません。
- ・K56flexはRockwell International社、Lucent Technologies社が提唱している通信企画です。
- ・V.90およびK56flexでの接続においては、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- ・56000bpsはV.90およびK56flexの理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90による33600bps(K56flexは31200bps)を超える通信速度は受信時のみで、V.90送信時は33600bps(K56flexは31200bps)が最高速度になります。  
日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては、同規格での通信が行えない場合があります。
- ・MS-DOSモードおよびWindows 98のMS-DOSプロンプトではお使いになれません。
- ・本モデムはヘッドセットをサポートしておりません。

## サウンド機能

チップセット	CS4614 + CS4297 (AC97)
録音再生機能	サンプリング周波数 5 ~ 48kHz 16bit Stereo Wave ファイル 最大 96 個同時再生可能 同時録音再生動作可能
MIDI 機能	Wavetable Synthesizer (最大 64 音) GM 音源
ゲームポート	MPU-401 互換 MIDI I/F Game Port I/F
リソース	IRQ : 1 個使用
その他	サウンドアクセラレーション機能

## スピーカー

方式	アンプ内蔵パスレフ型ボックススピーカー
機能	VOLUME (音量調整) BASS (低音域調整) TREBLE (高音域調整)
スピーカーユニット	口径 : 3 インチ・1 インチ
アンプ回路	7.5W/ch インピーダンス : 5k
再生周波数	100Hz ~ 18kHz
外形寸法	100 × 221 × 145 (mm)
重量	約 2.8kg (AC アダプタを含む)



## DVD-ROM ドライブ

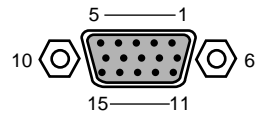
インタフェース	ATAPI 規格準拠 (SFF8020/8090) (IDE 接続)
オーディオインタフェース	アナログのみ (ATAPI 規格準拠)
ディスク・ローディング	トレイローディング
データ転送速度	CD-ROM 最大 32 倍速 DVD-ROM 最大 6 倍速
対応フォーマット	CD 媒体 CD-DA, CD-ROM Model1, CD-ROM XA( Mode, Form1, Form2 ) Photo-CD, CD-Bridge, CD-I, Video-CD, CD エクストラ規格準拠, CD-R, CD-RW DVD 媒体 DVD-5, DVD-9, DVD-10, DVD-R

8cm disk にはアダプタを使用せずに対応。

## コネクタのピン配列と信号名

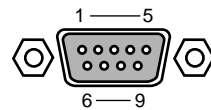
各コネクタのピンの配列および信号名は次のとおりです。

### ディスプレイコネクタ



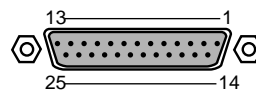
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5~8	GND	-	グランド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

### シリアルコネクタ



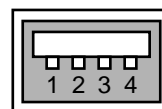
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

## パラレルコネクタ



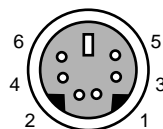
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA0	入出力	データ0
3	DATA1	入出力	データ1
4	DATA2	入出力	データ2
5	DATA3	入出力	データ3
6	DATA4	入出力	データ4
7	DATA5	入出力	データ5
8	DATA6	入出力	データ6
9	DATA7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18~25	GND	-	グラウンド

## USB コネクタ



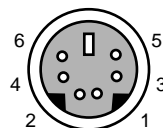
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

## マウスコネクタ



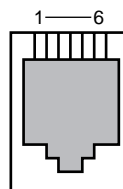
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グランド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

## キーボードコネクタ



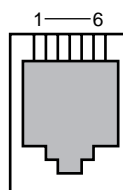
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グランド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

LINE 端子（モデム）



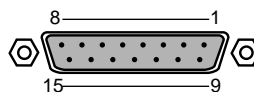
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	PHONE端子の5ピンと接続
3	LINE	入出力	公衆回線に接続
4	LINE	入出力	公衆回線に接続
5	-	-	PHONE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

PHONE 端子（モデム）



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	LINE端子の5ピンと接続
3	TEL	入出力	電話機に接続
4	TEL	入出力	電話機に接続
5	-	-	LINE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

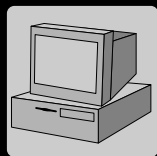
## MIDI/JOYSTICK 端子



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	+ 5V	-	電源
2	JOYF0	入力	ジョイスティックAボタン1
3	JRC0	入力	ジョイスティックA X座標
4	GND	-	グラウンド
5	GND	-	グラウンド
6	JRC1	入力	ジョイスティックA Y座標
7	JOYF1	入力	ジョイスティックAボタン2
8	+ 5V	-	電源
9	+ 5V	-	電源
10	JOYF2	入力	ジョイスティックBボタン1
11	JRC2	入力	ジョイスティックB X座標
12	MIDIOUT	出力	MIDI出力
13	JRC3	入力	ジョイスティックB Y座標
14	JOYF3	入力	ジョイスティックBボタン2
15	MIDIIN	入力	MIDI入力

## 本体のコネクタ / ジャックで利用できるケーブル

パラレルコネクタ	D-SUB25 ピンコネクタ付きケーブル
シリアルコネクタ	D-SUB9 ピンコネクタ付きケーブル
USB コネクタ	USB ケーブル
MIDI/JOYSTICK 端子	D-SUB15 ピンコネクタ付きケーブル
LINE/PHONE 端子	モジュラーケーブル
LINE OUT/LINE IN 端子	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル
MIC IN 端子	ミニプラグ (モノラル) ケーブル
ヘッドホン端子 (音楽 CD 用)	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル



## 2

## 本パソコンのリソースについて

本パソコンの IRQ (割り込み要求)、DRQ (DMA 要求)、I/O ポートアドレスを、どのハードウェアが使っているかの一覧と、リソース (IRQ、DRQ) の解放のしかたを説明しています。

**アドバイス**

リソースの値は変更されることがあります

ここに記載しているリソースの値は、ご購入時のものです。拡張カードなどのオプション機器を増設すると、値が変更されることがあります。

現在のリソースを確認するには

拡張カードなどのオプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 罟(システム)をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。リソースの値の一覧が表示されます。

## リソース一覧

ご購入時の本パソコンの IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスは、次のように設定されています。

## IRQ (割り込み要求)

IRQ (割り込み要求)	使っているハードウェア
0	システムタイマ
1	キーボード
2	スレーブ割り込みコントローラ
3	空き
4	シリアルコネクタ (COM1)
5	空き
6	フロッピーディスクドライブ
7	パラレルコネクタ
8	リアルタイムクロック
9	USB / サウンド / モデム
10	空き
11	空き
12	PS/2 マウス
13	浮動小数点コプロセッサ
14	ハードディスク
15	DVD-ROM ドライブ

## DRQ (DMA 要求)

IRQ (割り込み要求)	使っているハードウェア
0	空き
1	空き
2	フロッピーディスクコントローラ
3	空き
4	DMA コントローラ
5	空き
6	空き
7	空き

## I/O ポートアドレス

I/O ポートアドレス	使っているハードウェア
200H ~ 207H	サウンド
2F8H ~ 2FFH	内蔵 FAX / ボイスモデム (COM2)
378H ~ 37FH	パラレルコネクタ
3F8H ~ 3FFH	シリアルコネクタ (COM1)



コラム

### リソース、IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスとは

#### リソース

本パソコンの各周辺機器 ( キーボード、マウスなど ) や、拡張カードなどに割り当てられている IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスなどを総称して「リソース」と呼んでいます。これらのリソースには識別のための番号が割り当てられます。

#### IRQ ( 割り込み要求 : Interrupt Request )

周辺装置が要求する処理はすべて CPU が行いますが、CPU はどの装置からいつ「こういう処理を行ってほしい」という要求が来るかを予想できません。CPU が常にすべての装置を監視していると、処理を行っている時間よりも、監視している時間のほうが長くなってしまい、非効率的です。そこで、各周辺装置や拡張カードのほうで、CPU に実行してほしいことが発生したときに、IRQ の番号を使って現在 CPU が行っている処理に「割り込み」、「自分のほうを優先してほしい」と要求します。

CPU は、どの装置から要求が来たのかを IRQ から判断して、処理を行います。それが終われば、CPU はふたたび元の処理に戻ります。

#### DRQ ( DMA 要求 : Direct Memory Access Request )

CPU がひんばんに使うデータやプログラムは、処理にかかる時間を短縮するためにメモリにおかれます。

DMA ( Direct Memory Access ) とは、それらのデータやプログラムなどをハードディスクなどの装置から読み込み、メモリに書き込む作業を CPU が行うのではなく、かわりに専用のプロセッサ ( 制御回路 ) が行うというしくみのことです。その間、CPU は他の処理を行えるために、CPU の作業効率が上がります。その専用のプロセッサのことを DMA コントローラと呼びます。

DRQ とは DMA コントローラが、どの周辺装置から DMA 要求が出されたかを認識するための番号のことです。

#### I/O ( Input/Output ) ポートアドレス

CPU と個々の周辺機器との間には、それぞれ情報をやりとりする出入り口があります。その出入り口に割り当てられる番号が「I/O ポートアドレス」です。



## リソースを解放する

オプション機器をお使いになる場合には、オプション機器を取り付ける前に以下の設定が必要になることがあります。

取り付けるオプション機器が必要とするリソースが本パソコンですでに使われているときは、そのままではそのオプション機器を使えません。オプション機器を取り付ける前に、オプション機器が必要とするリソースを本パソコンで空ける必要があります。この作業を「リソースの解放」といいます。

本パソコンのリソースの使用状況について詳しくは、「リソース一覧」(←P.157)をご覧ください。

ここでは、シリアルポートまたはパラレルポートのIRQを解放する手順を例に、リソースを解放する方法を説明します。

### 重要


#### リソースを解放したデバイスは使えません

リソースを解放すると、それまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは、使えなくなりますのでご注意ください。

再びお使いになるときは、リソースを再設定してください。

#### リソースは不用意に解放しないでください

リソースは、不用意に解放すると、本パソコンが動作しなくなることがあります。「リソース一覧」(←P.157)でよくご確認のうえ、リソースを解放してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。  
本パソコンのハードウェアの一覧が表示されます。
- 4 解放したいリソースを使っているデバイスをクリックして選びます。  
IRQ4を解放するにはポート(COM/LPT)内の「通信ポート(COM1)」を選びます。  
IRQ7を解放するにはポート(COM/LPT)内の「プリンタポート(LPT1)」を選びます。
- 5 「プロパティ」をクリックします。  
デバイスのプロパティの「情報」が表示されます。

### アドバイス

#### 拡張カードのリソースを解放するには

お客様が取り付けた拡張カードが使っているリソースを解放したいときは、拡張カードを取り外してください。そのあと、本パソコンの電源を入ると、リソースが自動的に解放されます。

### 用語

#### デバイス

パソコン本体内部の装置(メモリ、拡張カードなど)や、パソコンに接続する機器(マウス、キーボードなど)のことをデバイスと呼びます。

### アドバイス

リソースを解放するとそれまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは使えなくなります。

IRQ4を解放すると、パソコン本体背面のシリアルコネクタ(COM1)(←P.5)が使えなくなります。

IRQ7を解放すると、パラレルコネクタ(←P.5)が使えなくなります。これらのコネクタにオプション機器を接続している場合は、そのオプション機器も使えなくなります。

**6** 「デバイスの使用」の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のをクリックしてにし、「OK」をクリックします。

「デバイスマネージャ」タブに戻ります。

リソースを解放したデバイスに×印が付きます。

**7** 「閉じる」をクリックします。

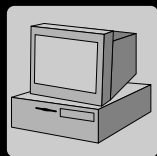
「システムのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

デバイスによっては、「閉じる」をクリックしたあとに、再起動するメッセージが表示されるものがあります。この場合は「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。再起動したら、操作は終了です。

**8** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

**9** 「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動します。



## 3

# ドライバのインストール

パソコンの調子が悪いとき、その原因がドライバにある場合があります。ゲームなどをインストールして、パソコンに合わないドライバに更新されてしまうと、パソコンは正しく動作しません。パソコンの状態に合わせて、ドライバを再インストールしてください。

画面が正しく表示されない場合はディスプレイドライバをインストールします。音が正しく出ない場合はサウンドドライバをインストールします。

## インストールのときに気をつけること

正常にインストールを行うために、注意していただくことがいくつかあります。

### アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」→「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows 98 の標準画面に切り替わります。

インストール終了後、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

### アプリケーションやウィンドウの終了

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「Virus Scan」や「FM 便利ツール」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。

また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

### 「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。その場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず「アプリケーション CD」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。

- ▶ ディスプレイドライバをインストールする場合 ← 次ページの「ディスプレイドライバをインストールする」をご覧ください。
- ▶ サウンドドライバをインストールする場合 ← 「サウンドドライバをインストールする」(P.165)をご覧ください。

### アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何も無いところで右クリックし、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

## ディスプレイドライバをインストールする




インストールを始める前に、必ず前ページの「インストールのときに気をつけること」をご覧ください。



ディスプレイドライバのインストールは  「アプリケーションCD」から行います。

### アドバイス

「既存のファイルをそのまま使いますか？」と表示された場合

インストール中、「既存のファイルをそのまま使いますか？」というメッセージが表示される場合があります。その場合は、「いいえ」をクリックしてください。

- 1** それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。  
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3**  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。  
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4** 一覧の中の「ATI ディスプレイドライバ」をクリックします。
- 5** 「追加と削除」をクリックします。  
「ATI Uninstall」ウィンドウが表示されます。
- 6** 「はい」をクリックします。
- 7** さらにメッセージが表示されたら「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 8**  「アプリケーションCD」をDVD-ROMドライブにセットします。
- 9** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (画面) をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 10** 「設定」タブをクリックします。
- 11** 「詳細」をクリックします。
- 12** 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。  
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 13** 「次へ」をクリックします。  
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。

**14** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の  をクリックし、 にします。

**15** 「次へ」をクリックします。  
「モデル」の一覧が表示されます。

**16** 「ディスク使用」をクリックします。  
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。

**17** 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:¥update¥display¥ATI¥128VR

- e には、お客様がお使いの DVD-ROM ドライブ名を入力してください。  
「デバイスの選択」ウィンドウの一覧が表示されます。

**18** 「モデル」一覧の中の「ATI Rage 128 VR AGP (日本語)」をクリックします。

「ATI Rage 128 VR AGP」が 2 つ表示されている場合は、上に表示されているほうを選んでください。

**19** 「OK」をクリックします。  
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されます。

**20** 「次へ」をクリックします。  
ファイルのコピーが始まります。  
「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合には、「いいえ」をクリックしてください。

**21** 「ATI Rage 128 VR AGP ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されたことを確認し、「完了」をクリックします。  
「ATI Rage 128 VR AGP のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

**22**  「アプリケーションCD」を DVD-ROM ドライブから取り出します。

**23** 「閉じる」をクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。



### アドバイス

メッセージが表示されたら

「ドライバ更新の警告ウィンドウ」が表示された場合には、「はい」をクリックします。

- 24** 「閉じる」をクリックします。  
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

- 25** 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。



### アドバイス

#### 画面の設定を変更するには

このあと、ご購入時の状態に戻すには、解像度や発色数、リフレッシュレートなどの画面の設定を変更する必要があります。変更のしかたについて詳しくは、「画面の解像度や発色数を変える」(←P.46)をご覧ください。本パソコンのご購入時には、解像度は1024×768ドット、発色数は32ビット、リフレッシュレートは85Hzに設定されています。

「モニターを設定してください」というメッセージが表示されたときは

「はい」をクリックします。モニターの設定について詳しくは、『トラブル解決Q&A』の「画面が乱れる」をご覧ください。

#### アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。  
アクティブデスクトップに切り替わります。


#### ディスプレイドライバはバージョンアップされることがあります



最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。


- NIFTY SERVE 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」  
(GO INFO でアクセスできます)
- インターネット富士通パソコン情報ページ  
(<http://www.fmworld.ne.jp>)

## サウンドドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気をつけること」(P.161)をご覧ください。

サウンドドライバのインストールは、「アプリケーションCD」から行います。操作中、同じような手順を何度か行います。ご自分が何番の操作を行っているかわかるように、本書にチェックしながら操作することをお勧めします。

- 1** **それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。**  
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2**  **「アプリケーションCD」をDVD-ROMドライブにセットします。**
- 3** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 4**  **(アプリケーションの追加と削除) をクリックします。**  
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「インストール」をクリックします。  
「フロッピーディスクまたはCD-ROMからのインストール」ウィンドウが表示されます。
- 6** 「次へ」をクリックします。  
しばらくすると、「インストールプログラムの実行」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「インストールプログラムのコマンドライン」に次のファイル名を入力し、「完了」をクリックします。  
`e:¥cs4614¥setup.exe`  
- eには、お客様がお使いのDVD-ROMドライブ名を入力してください。  
「Crystal ドライバ インストール/削除」ウィンドウが表示されます。
- 8** 「インストール」をクリックします。  
しばらくすると、「インストール終了」というメッセージが表示されます。
- 9** 「再起動」をクリックします。  
本パソコンが再起動されます。  
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示され、「次の新しいドライバを検索しています: PCI Multimedia Audio Device」というメッセージが表示されます。

- 10** 「次へ」をクリックします。  
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 11** 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」がになっていることを確認し、「次へ」をクリックします。
- 12** 「検索場所の指定」のをにし、次のフォルダ名を入力します。  
`e:¥cs4614`  
- eには、お客様がお使いのDVD-ROMドライブ名を入力してください。
- 13** 「検索場所の指定」以外の項目にがあるときは、をクリックしてにします。
- 14** 「次へ」をクリックします。  
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。 : Crystal SoundFusion( tm) PCI オーディオアクセラレータ」というメッセージが表示されます。
- 15** 「次へ」をクリックします。  
ファイルがコピーされ、「Crystal SoundFusion( tm) PCI オーディオアクセラレータ 新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 16** 「完了」をクリックします。  
しばらくすると「Crystal SoundFusion( tm) ジョイスティック」および「Crystal SoundFusion( tm) 仮想MPU-401」がインストールされます。

### アドバイス

Windows98のCD-ROMを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に `c:¥windows¥options¥cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

「再起動しますか?」と表示された場合は、「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。

Crystal Sound Fusion( tm) ディスクを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に次のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

`e:¥crystal¥win9x`

- eには、お客様がお使いのDVD-ROMドライブ名を入力してください。

「ファイルが見つかりません。」というメッセージが表示された場合は、次のいずれかのフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。


`c:¥windows¥options¥cabs` または `c:¥windows¥system`



## アドバイス


「!」や「x」が表示されていたり、画面例のように表示されていない場合

「!」や「x」が表示されていたり、画面例のように表示されていない場合は、手順4 (P.165) からやり直してください。それでも「!」や「x」が表示されている場合は、弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。

- 17** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。

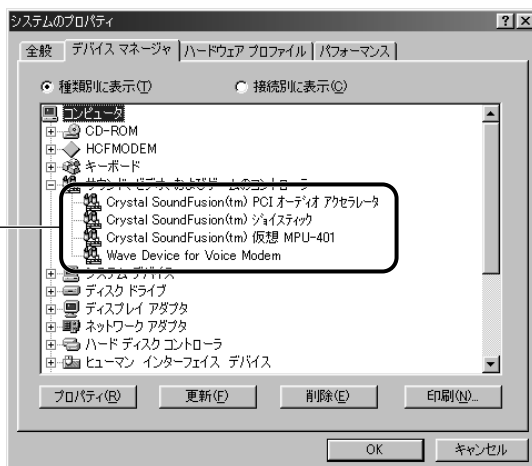
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 18** 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

- 19** 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の  をクリックします。

一覧が表示されます。


このように表示されることを確認します。



(お客様のお使いの状況により、表示される画面が異なる場合があります。)

- 20** 「OK」をクリックします。

次に、MIDI の設定を行います。

- 21** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (マルチメディア) をクリックします。

「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが表示され、「オーディオ」タブが前面に表示されます。

## 22 「再生」、「録音」の「優先するデバイス」が「Crystal SoundFusion (tm)」になっていることを確認します。

なっていない場合は、右側の▼をクリックし、「Crystal SoundFusion (tm)」をクリックします。



## 23 「MIDI」タブをクリックします。



## 24 「単一の機器」が「Crystal SoundFusion (tm)」になっていることを確認し、「OK」をクリックします。

なっていない場合は、「Crystal SoundFusion (tm)」をクリックします。



## 25 「コントロールパネル」ウィンドウの SF (SoundFusion (tm)) をクリックします。

「Crystal SoundFusion (tm) プロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 26** 「3Dステレオ・エンハンスメント」の「使用する」がになっていることを確認します。  
なっていない場合は、「使用する」をクリックし、にします。
- 27** 「SoundFusion(tm) DSound」の「DSoundアクセラレーションを使用する。」のをクリックし、にします。
- 28** 「タスクバー」の「SoundFusion(tm)コントロールをタスクバーに表示する。」がになっていることを確認します。  
なっていない場合は、「SoundFusion (tm) コントロールをタスクバーに表示する。」をクリックし、にします。
- 29** 「OK」をクリックします。
- 30** 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある  (閉じるボタン) をクリックします。
- 31**  「アプリケーションCD」をDVD-ROMドライブから取り出します。
- 32** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。  
「Windowsの終了」ウィンドウが表示されます。
- 33** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。

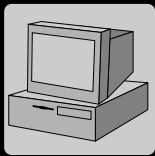


#### アドバイス

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」>「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。  
アクティブデスクトップに切り替わります。



## 4

## その他の注意事項

## インテル® プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティについて

## インテル プロセッサ・シリアル・ナンバ


インテル® Pentium® プロセッサに組み込まれた電氣的に読み取り可能なシリアル番号で、ウェブ上でのセキュリティ向上や情報管理・資産管理などに利用することができます。

プロセッサ・シリアル・ナンバはソフトウェア アプリケーションを使用して読み取りが可能です。また、インテル プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティまたはBIOS セットアップ(←P.127)を使用して読み取り機能の「有効」/「無効」を設定することができます。



## インテル プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティ

本パソコンにはインテル プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティがあらかじめインストールされています。


このユーティリティを使用して、プロセッサ・シリアル・ナンバの確認と読み取り機能の設定をWindows 98 上から行うことができます。

本パソコンのご購入時には「無効」に設定されており、タスクバーのアイコン表示はになっています。

プロセッサ・シリアル・ナンバの読み取り機能を有効にするには

- 1** タスクバーのを右クリックし、「設定」をクリックします。
- 2** 「有効」のチェックボタンを選び「OK」をクリックします。
- 3** 「Windows の再起動」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 4** タスクバーにと表示され、プロセッサ・シリアル・ナンバの読み取り機能が有効になります。

プロセッサ・シリアル・ナンバを見るには

本パソコンのプロセッサ・シリアル・ナンバを見るには、タスクバーの右クリックし、「ステータス」をクリックしてください。

## 注意事項

### BIOS セットアップについて

BIOS セットアップ (←P.127) の「詳細」メニュー内の「CPU 設定」でもプロセッサ・シリアル・ナンバの読み取り機能の設定をすることができます。「プロセッサシリアルナンバー」を「使用しない」に設定した場合は、プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティで読み取り機能を有効に設定できません。

### プロセッサ・シリアル・ナンバについての詳細情報

プロセッサ・シリアル・ナンバおよびプロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティの詳細については、<http://www.intel.com/jp/pentiumiii>を参照してください。

インテル プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティは、弊社よりとくに指示がない場合、本パソコンに添付されているものを使用してください。



## アドバイス

Safeモードで起動する場合があります

パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切ると、次に起動したときに「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示され、「3.Safe mode」が反転表示される場合があります。その場合は、いったん Safe modeで起動したあと、本パソコンを再起動してください。

## IRQ (割り込み要求) が不足したときは

拡張カードの増設などにより、割り当てる必要のある IRQ (割り込み要求) (←P.157、158) が増えた場合に、Windows98 では、空いている IRQ に自動的に割り当てたり、IRQ が不足した場合は自動的に IRQ を共有させたりして、IRQ を必要とする全てのデバイスに IRQ を割り当てるように動作します。

ただし、自動的に IRQ を割り当てるために本パソコンの起動が遅くなったり、場合によっては割り当てに失敗し、起動中に本パソコンが停止してしまうことがあります。その場合は、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切ったあと、次のいずれかの方法で対処してください。

IRQ を解放する

BIOS セットアップで IRQ の割り当てを行う

### IRQ を解放する

取り付けた拡張カードをいったん取り外してから本パソコンを起動し、「リソースを解放する」(←P.159) をご覧になって、増設した拡張カードなどが必要としている IRQ で、本パソコンで使う予定のないデバイスの IRQ を解放してください。そのあと、再び拡張カードを取り付けてください。

なお、IRQ を解放したあとも状況が変わらない場合は、 の方法で対処してください。

## BIOS セットアップで IRQ の割り当てを行う

Windows 98 が自動的に IRQ の割り当てを行うと、場合によっては起動中に本パソコンが停止してしまいます。この場合、BIOS セットアップで IRQ の割り当てを行うと正常に起動するようになります。

以下の手順に従って、BIOS セットアップの設定を変更してください。

- 1** 「BIOS セットアップを起動する」(←P.129) をご覧になり、BIOS セットアップを起動します。
- 2**   を押して、「詳細」にカーソルを合わせ、 を押します。詳細メニューが表示されます。
- 3**   を押して、「プラグアンドプレイ対応OS」にカーソルを合わせます。
- 4**   を押して、設定を「いいえ」に変更します。
- 5** 「BIOS セットアップを終了する」(←P.132) をご覧になり、設定内容を保存して BIOS セットアップを終了します。

## APM について

本パソコンでは、省電力機能として、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 機能と APM (Advanced Power Management) 機能のどちらかを選んでお使いになれます。ご購入時の設定は ACPI 機能です。

### 重要


#### ハードディスクをご購入時の状態に戻してください

Windows 98 の APM 機能に設定を変更するには、パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。ハードディスク (C ドライブ) 内のファイルはすべて消えることになるため、お客様が作成したデータなどの大切なファイルは、事前にフロッピーディスクなどにコピーして保存してください。

また、ご購入後にインストールされたアプリケーションは、もう一度インストールし直す必要があります。

#### ACPI 機能に戻すときには






再度ハードディスクをご購入時の状態に戻す必要があります。

ACPI 機能へ設定を戻すには、『トラブル解決 Q&A』をご覧になり、ご購入時の状態に戻してから設定を変更してください。

## Windows 98 の APM 機能を設定する

### 必要なものを用意する

APM の設定には、以下のものがが必要です。

-  『トラブル解決 Q & A』
-  『取扱説明書』
-  『リカバリ CD-ROM 起動ディスク』
-  『リカバリ CD-ROM』( 1 / 2 )( 2 / 2 )
-  『アプリケーション CD』

### APM 切り替えプログラムを使う

いったん APM 機能に切り替えると、ACPI 機能に戻すには、増設したオプション機器 ( 拡張カードやプリンタ、スキャナなど ) を取り外し、作成したデータを保存して、再度ハードディスク ( C ドライブ ) をご購入時の状態に戻す必要があります。前述の注意事項を再度確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、以下の操作を行ってください。

#### 1 『トラブル解決 Q & A』、 『取扱説明書』をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻します。

ご購入後に増設されたオプション機器 ( 拡張カード類やプリンタ、スキャナなど ) はすべて取り外してください。これらのオプション機器は、すべての作業が終了するまで取り付けないでください。

また、ご購入後に作成したデータ、インストールしたアプリケーションなどは、すべて削除されます。必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。

#### 2 本パソコンの電源を入れます。

#### 3 『アプリケーション CD』を DVD-ROM ドライブにセットします。

#### 4 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

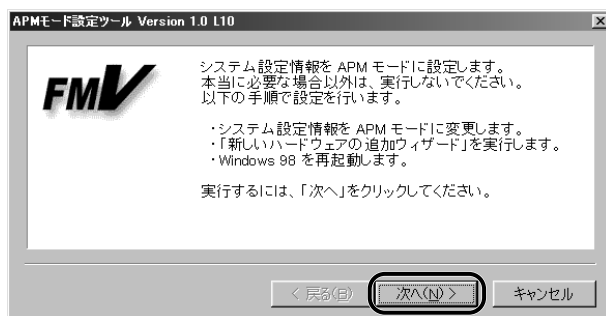
#### 5 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

`e:¥chgapm¥chgapm.exe`

- e には、お使いの DVD-ROM ドライブ名を入力してください。

「APM モード設定ツール」ウィンドウが表示されます。内容をよくお読みください。

## 6 「次へ」をクリックします。



## 7 「APM モードに設定する」のをクリックし、にします。

## 8 「次へ」をクリックします。

## 9 「完了」をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

## 10 「次へ」をクリックします。

「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。

## 11 「次へ」をクリックします。

## 12 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら、「デバイスは一覧にない」のをクリックしてにし、「次へ」をクリックします。

## 13 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」というメッセージが表示されます。

## 14 「次へ」をクリックします。

新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」というメッセージが表示されます。

## 15 「完了」をクリックします。



## アドバイス


メッセージが表示されたら


- ・「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックしてください。
- ・「Windows98のCD-ROM」を要求するメッセージが表示された場合には、`c:\windows\options\cabs`と入力し、「OK」をクリックしてください。
- ・「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、続いて表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。

**16** 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、フロッピーディスクがセットされていないことを確認し、「はい」をクリックします。

Windows98 が再起動し、新しいハードウェアの検出が実行されます。

**17** 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

**18** 本パソコンが再起動したら、DVD-ROM ドライブから  「アプリケーション CD」を取り出します。

**19** 「コントロールパネル」ウィンドウの  （ハードウェアの追加）をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

**20** 「次へ」をクリックします。

**21** 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。

**22** 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら、「デバイスは一覧にない」の  をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。

**23** 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。

**24** 「次へ」をクリックします。

新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。

## アドバイス

「詳細」ボタンが表示されたら

検出が完了すると「詳細」ボタンが表示されます。このボタンをクリックして、「アドバンスドパワー マネジメント サポート」が検出されたことを確認してください。



**25** 「完了」をクリックします。

**26** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。





**27** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。

**28** APM 機能に設定されたことを確認するため、「スタートボタン」をクリックし、「Windows の終了」をクリックします。  
「Windows の終了」ウィンドウで「スタンバイ」が表示されることを確認し、「キャンセル」をクリックします。

#### 画面の設定をする

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2**  (画面) をクリックします。
- 3** 「設定」タブをクリックし、「色」を「High Color (16 ビット)」に設定します。
- 4** 「OK」をクリックします。
- 5** 「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 6** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (画面) をクリックします。
- 7** 「設定」タブの「画面の領域」と「色」を設定します。  
ご購入時の設定値は、「画面の領域」が「1024 × 768 ピクセル」、「色」が「True Color (32 ビット)」です。
- 8** 「OK」をクリックします。
- 9** 「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」の  をクリックして  にし、「OK」をクリックします。
- 10** 「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

### 3 モードフロッピードライブを再インストールする

- 1** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 2** 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「フロッピーディスクコントローラ」の  をクリックします。
- 3** 「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series)」をクリックし、「削除」をクリックします。  
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「OK」をクリックします。
- 5** 「閉じる」をクリックします。
- 6** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (ハードウェアの追加) をクリックします。  
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。
- 8** 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 9** 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら、「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 10** 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「いいえ」の  をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。
- 11** 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 12** 「ディスク使用」をクリックします。  
「ディスクからインストールウィンドウ」が表示されます。
- 13**  「アプリケーションCD」をDVD-ROMドライブにセットします。

**14** 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:¥3mode

- eには、お使いのDVD-ROMドライブ名を入力してください。


**15** 「次へ」をクリックします。

**16** 「完了」をクリックします。


ファイルのコピーが始まり、しばらくすると「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。


**17** 「はい」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

**18** 本パソコンが再起動したら、DVD-ROMドライブから「アプリケーションCD」を取り出します。

通信ポート (COM2) を設定する



**1** 「コントロールパネル」ウィンドウの (システム)をクリックします。

**2** 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「ポート (COM/LPT)」のをクリックします。

**3** 「通信ポート (COM2)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。

「通信ポート (COM2) のプロパティ」ウィンドウが開きます。




**4** 「全般」タブをクリックします。

**5** 「デバイスの使用」の「このハードウェア プロファイルで使用不可にする」のをクリックし、にします。

**6** 「OK」をクリックします。

**7** 「閉じる」をクリックします。

**8** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

- 9 「再起動する」をクリックし、「はい」をクリックします。
- 10 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 11 「デバイスマネージャ」タブをクリックして、「モデム」の  をクリックします。
- 12 「FMV-FX53Z6」をクリックし、「削除」をクリックします。  
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 13 「OK」をクリックします。  
「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 14 「閉じる」をクリックします。  
「再起動しますか？」というメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックします。
- 15 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 16 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。
- 17  「アプリケーションCD」をDVD-ROMドライブにセットします。
- 18 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 19 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。  
`e:¥fixapm¥fixapm.exe`  
- eには、お使いのDVD-ROMドライブ名を入力してください。  
「APMシステム情報設定ツール」ウィンドウが表示されます。
- 20 「OK」をクリックします。
- 21 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動します。

## 22 DVD-ROM ドライブから「アプリケーションCD」を取り出します。

これで APM 機能の設定は終了です。  
このあとにオプション機器の接続、アプリケーションのインストールを行ってください。

### モデムについて

#### 内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意



**感電**  
近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。



**感電**  
モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。

#### モデムが使用可能な回線

本モデムは、接続する電話回線が NTT の一般公衆電話回線の電気的な仕様と同じでないと正常に動作しません。

#### ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません

本モデムが接続できる回線は、一般の NTT 公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ボタン電話などは、NTT の電話回線と電気的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカーや保守業者にお問い合わせください。

#### デジタル回線に接続する場合

本モデムはデジタル網 (ISDN 等) やデジタル構内交換網 (デジタル PBX) の回線に直接接続することはできません。モデムカードが故障する恐れがありますので、ターミナルアダプタ等を経由して、アナログポートに接続してご使用ください。

## PBX に接続する場合

PBXに接続される通信回線の仕様がNTTの電話回線と電氣的な仕様が異なる場合、本モデムが使用できない場合があります。例えば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについてはNTT回線の仕様に準拠しています。接続する前に、使用されているPBXの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。

ただし、「0」発信によって外線に接続するPBX内線電話の場合、ご使用のアプリケーションの設定で初期化コマンドにATX3を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信できることがあります。

## キャッチホン 1 契約をしている場合

キャッチホン 1 契約をしている場合は、パソコン通信やFAX送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その際、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キャッチホン 2 に変更するか、または同一の回線ではご使用にならないでください。

## FAX 受信時の注意

自分側からダイヤルした場合、またはハンドセットで通話している間は、相手側からのFAXを受信できません。

## 通信アプリケーションご使用時の注意

通信アプリケーションでデータのアップロード・ダウンロードを行う際には、パソコンをサスペンド状態にならないように設定してください。アップロード・ダウンロードの途中でサスペンド状態になると、データ転送が中断することがあります。

## 電源ケーブル等は離してご使用ください

電源ケーブル等は、ノイズを発生して電話回線に影響をおよぼす場合があります。モデムをご使用になる際は、これらのノイズ源と回線に影響のない程度に離してご使用ください。

## 他のモデムを接続しないでください

他の外付けモデム、または電話機付きのモデムなどが、本モデムの「TEL」端子に接続されている場合は取り外してください。

## 分岐アダプタを使用してインターネットやパソコン通信をしているときの注意

通信中は電話機の受話器をはずさないようにしてください。受話器がはずれると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。

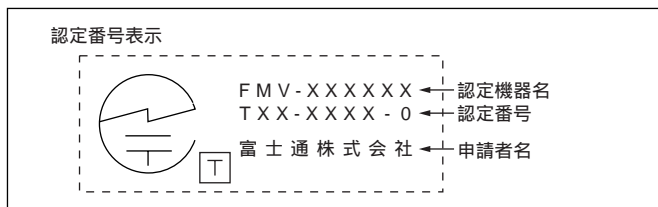
また、分岐アダプタを使用する場合は、なるべく2分岐以内にしてご使用ください。

## モジュラーケーブルの長さが足りないとき

添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品をご購入ください。

## 認定番号の表示

本モデムの技術基準適合認定番号は、モジュージャック差込み口の横に表記されています。





## 索引

## 記号

2DD .....	19
2HD .....	19
3.5 インチ隠しパネル .....	3
3.5 インチの内蔵オプション機器 .....	117
- を取り付ける .....	118
3.5 インチファイルベイ .....	7
3 モードドライブ .....	19
5 インチ隠しパネル .....	3
5 インチの内蔵オプション機器 .....	117
- を取り付ける .....	120
5 インチファイルベイ .....	7

## A

Alt キー .....	8
APM .....	172
Application キー .....	8
Application ボタン .....	10
Application ボタン 1 / E-mail ボタン .....	10
Application ボタン 2 / Internet ボタン .....	10
Application ボタン 3 .....	10
ATAPI .....	6

## B

Back space キー .....	9
BIOS セットアップ .....	128
- のパスワード機能を使う .....	138
- 標準設定値一覧 .....	135
- メッセージ一覧 .....	144
- を起動する .....	129
- をご購入時の設定に戻す .....	133
- を終了する .....	132
BUSY ランプ .....	3

## C

Caps Lock 英数キー .....	8
CD .....	22
CD-ROM .....	22
- が取り出せないとき .....	24
- をセットする .....	23
- を取り出す .....	24

CD 操作ボタン .....	10
CMOS RAM .....	128
CPU .....	74
Ctrl キー .....	8

## D

Delete キー .....	9
DIMM .....	75
DMA 要求 .....	157, 158
DRQ .....	157, 158
DVD-ROM .....	22
- が取り出せないとき .....	24
- を再生する .....	29
- をセットする .....	23
- を取り出す .....	24
DVD-ROM ドライブ .....	3, 7
- 仕様 .....	151
DVD プレーヤー .....	25

## E

ECC .....	75
EJECT ボタン .....	3
End キー .....	9
Enter キー .....	9
Esc キー .....	8

## F

FAX / ボイスモデムカード .....	6, 82
- 仕様 .....	149
F キー .....	8

## H

Home キー .....	9
---------------	---

## I

I/O ポートアドレス .....	158
IDE .....	6, 89
Insert キー .....	9
IRQ .....	157, 158
- の不足 .....	171

<b>L</b>	
LAN カード .....	82
LINE IN 端子 .....	4
LINE OUT 端子 .....	4
LINE 端子 .....	5, 155

<b>M</b>	
MB .....	19, 74
MIDI/JOYSTICK 端子 .....	5, 156
MO .....	123
MO ドライブ .....	123
Mute (消音) ボタン .....	10

<b>N</b>	
Num Lock キー .....	9

<b>P</b>	
Page Down キー .....	9
Page Up キー .....	9
Pause キー .....	9
PC/AT 互換機 .....	56
PCI .....	83
PHONE 端子 .....	5, 155
Plug&Play .....	61, 84
PnP .....	61, 84
Print Screen キー .....	9

<b>S</b>	
Scroll Lock キー .....	9
SCSI .....	62, 89, 123
SCSI カード .....	82, 91
SCSI ケーブル .....	92
SDRAM .....	75
Shift キー .....	8
SPD .....	75
SPK OUT 端子 .....	4

<b>T</b>	
TWAIN .....	62

<b>U</b>	
USB .....	2
USB 機器 .....	65
USB コネクタ .....	2, 5, 153

<b>W</b>	
Windows キー .....	8

<b>ア</b>	
アウトレット .....	4

<b>イ</b>	
インジケータ .....	9
インテル® プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティについて .....	170
インレット .....	4

<b>オ</b>	
お手入れ .....	49
オプション機器 .....	54, 123
音量調節ボタン .....	10
音量つまみ .....	38
音量ボリューム .....	2
音量を調節する .....	36

<b>カ</b>	
カーソルキー .....	9
解像度 .....	46
- を変更する .....	47
書き込み禁止タブ .....	21
拡張カード .....	82
- を取り付ける .....	85
拡張スロット .....	6, 83
各部の名称と働き .....	2
画面 .....	46

<b>キ</b>	
キーボード .....	8
- のお手入れ .....	49
キーボードコネクタ .....	5, 154
強制終了できないとき .....	16

- ク**
- 空白キー ..... 8
  - クリック ..... 11
- ケ**
- ケーブル ..... 156
  - ケーブルセレクト ..... 99
- コ**
- コネクタのピン配列と信号名 ..... 152
- サ**
- 再生 / 一時停止ボタン ..... 10
  - サウンド機能仕様 ..... 150
  - サウンドドライバをインストールする ..... 165
- シ**
- 終端抵抗 ..... 92
  - 終了 ..... 15
  - 仕様一覧 ..... 148
  - 省電力 ..... 17
  - シリアルコネクタ ..... 5, 152
- ス**
- スキャナ ..... 62
  - スクリーンセーバーボタン ..... 10
  - スクロールボタン ..... 11, 44
  - スタンバイ ..... 17
  - スタンバイボタン ..... 10
  - スピーカー ..... 36
    - から音が聞こえないとき ..... 39
    - 仕様 ..... 150
    - の音量を調節する ..... 36
  - スペースキー ..... 8
  - スレブ ..... 99
- セ**
- セットする
    - CD-ROM ..... 23
    - DVD-ROM ..... 23
    - フロッピーディスク ..... 21
- ソ**
- 増設する
    - 拡張カード ..... 82
    - ハードディスク ..... 89
    - メモリ ..... 74
  - 外付けハードディスク ..... 91
    - を取り付ける ..... 102
- タ**
- ターミナルアダプタ ..... 64
  - ターミネータ ..... 92
- チ**
- チルトフット ..... 8
- ツ**
- 通風孔 ..... 4, 5
- テ**
- 停止 / 取り出しボタン ..... 10
  - ディスプレイコネクタ ..... 152, 5
  - ディスプレイドライバをインストールする ... 162
  - ディスプレイのお手入れ ..... 49
  - デジタルカメラ ..... 63
  - デバイス ..... 159
  - テンキー ..... 9
  - 電源 ..... 14
    - を入れる ..... 14
    - を切る ..... 15
  - 電源スイッチ ..... 3
  - 電源ユニット ..... 7
  - 電源ランプ ..... 2
- ト**
- ドライバ ..... 56
  - 取り出す
    - CD-ROM ..... 24
    - DVD-ROM ..... 24
    - フロッピーディスク ..... 21

取り付ける	
- 拡張カード	85
- 外付けハードディスク	102
- 内蔵ハードディスク	93
- 本体カバー	69
- マザーボード	72
- メモリ	76
取り外す	
- 本体カバー	68
- マザーボード	71
トレブル	36

## ナ

内蔵ハードディスク	7, 91
- を取り付ける	93

## ハ

ハードディスク	89
- 増設時のドライブ名の割り当て	111
- の領域を削除する	109
- の領域を設定する	104
- を増設する	89
- をフォーマットする	112
ハードディスクアクセス表示ランプ	2
ハーフサイズ	83
バス	36
パスワード	138
パソコン本体	2
- 仕様	148
- のお手入れ	49
発色数	46
- を変更する	47
早送りボタン	10
パラレルコネクタ	5, 153

## ヒ

光磁気ディスクドライブ	123
左ボタン	11
ビデオキャプチャカード	82

## フ

フォトタッチソフト	62
フロッピーディスク	19
プラグアンドプレイ	61, 84
プリンタ	58
プリンタケーブル	58
フルサイズ	83
フロッピーディスク	
- のデータを守る	21
- をセットする	21
- を取り出す	21
フロッピーディスクアクセス表示ランプ	2
フロッピーディスクドライブ	2, 7
- のお手入れ	50
フロッピーディスク取り出しボタン	3

## ヘ

ヘッドホン	39
- から音が聞こえないとき	40
ヘッドホン端子	2

## ホ

ボリュームボタン (+)	10
ボリュームボタン (-)	10
本体カバー	67
- を取り付ける	69
- を取り外す	68

## マ

マイク	41
マイク端子	3
マウス	11
- のお手入れ	49
マウスコネクタ	5, 154
マウスポート	8
巻き戻しボタン	10
マザーボード	67
- を取り付ける	72
- を取り外す	71
マスター	99
マルチモニタ機能	124

## ミ

右クリック .....	11
右ボタン .....	11
ミュート .....	38

## メ

メモリ .....	74
- の組み合わせ .....	76
- の取り付け場所 .....	75
- の持ち方 .....	77
- 容量を確認する .....	78
- を交換する .....	80
- を取り付け .....	76
- を増やす .....	74
メモリスロット .....	7, 75

## モ

モデムカード .....	82, 180
- 仕様 .....	149

## リ

リソース .....	157, 158
- 一覧 .....	157
- を解放する .....	159
領域	
- を削除する .....	109
- を設定する .....	104

## ロ

録音する .....	41
------------	----

## ワ

割り込み要求 .....	157, 158
ワンタッチボタン .....	8, 10



Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、WindowsNTは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium、MMX は、米国インテル社の登録商標です。

ATI、RAGE、ATI DVD、ATI DVD プレーヤーは ATI Technologies Inc の商標です。

K56flex は Lucent Technologies 社、Rockwell International 社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 1999

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

---

使いこなす本 ハード編

B3FH-5221-01-00

発行日 1999年7月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

---

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

㊦ 9907-2



# 箱を開けたら...

箱の中身を確認してください。  
ご購入後、できるだけ早く添付品を確認  
しましょう。

## はじめに読む本

まず最初に...

### 1 取扱説明書



パソコンが初めてなら...

### 2 かるがるパソコン入門



CD-ROMが  
付いています。

FMVを知ろう!

### 3 FMV総合案内



## 使いこなす本



### インターネット編

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す



### ソフト編

- ・地図で調べる
- ・電車の経路を調べる
- ・はがきを作る
- ・写真でカレンダーを作る

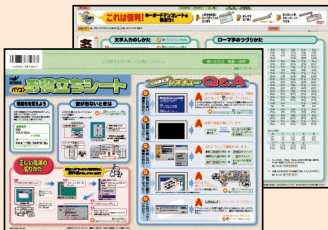
この本は次の機種には  
添付されません。  
FMV-DESKPOWER  
ME/355  
FMV-BIBLO  
NE/33, MF/33



### ハード編

- ・各部の名称を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす

## 困ったときの本



### お役立ちシート

お手元に置いてお使いください。  
・ありがちなトラブルの解決  
・文字入力早わかり



### トラブル解決Q&A

- ・困ったときの画面集
- ・トラブル解決の道のり
- ・サポート情報
- ・パソコンをふりだしにもどす
- ・アプリケーションのインストール



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。



T4988618873154